



P-01H

取扱説明書

'15.11

このたびは、「P-01H」をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
P-01Hをご利用の前に、本書をご覧になり、正しくお取り扱いください。

P-01Hの操作説明について

P-01Hの操作は、本書のほかに、「使いかたガイド」(本FOMA端末に搭載)や「取扱説明書(詳細版)」(PDFファイル)で説明しています。

◆「取扱説明書」(本書)◆

画面の表示内容や基本的な機能の操作について説明

◆「使いかたガイド」(本FOMA端末に搭載)◆

よく使われる機能の概要や操作について説明

P-01Hから (メニュー)▶便利ツール▶使いかたガイド

◆「取扱説明書(詳細版)」(PDFファイル)◆

すべての機能の詳しい案内や操作について説明

パソコンから ドコモのホームページでダウンロード
<https://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html>

※本書の最新情報もダウンロードできます。なお、URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

本体付属品

- P-01H本体(保証書付き)



- リアカバー P63



- FOMA端末に対応するオプション品(別売)は、ドコモのホームページをご覧ください。
<https://www.nttdocomo.co.jp/product/option/>

- 卓上ホルダ P55



- 取扱説明書(本書)



- 電池パック P32



本書のご使用にあたって

- 本書では「P-01H」を「FOMA端末」と表記させていただいております。
- 本書の手順や画面は、主に本体色「ホワイト」のお買い上げ時の設定で記載しています。また、本書に記載している画面およびイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。

目次

FOMA端末について	2	取り扱い上のご注意	13
各部の名称と機能	3	防水／防塵性能	17
安全上のご注意	5		

はじめに

▶ P.1 ~

基本の操作

▶ P.21 ~

つながる

▶ P.42 ~

しらべる

▶ P.52 ~

たのしむ

▶ P.55 ~

より便利に

▶ P.63 ~

その他

▶ P.73 ~

事前の準備	21	音／画面設定	33
画面の説明	24	ロック／セキュリティ	37
文字入力	32		

電話	42	電話帳	51
メール	48		

i モード／フルブラウザ	52	i チャネル	54
--------------	----	--------	----

カメラ	55	i アプリ／i ウィジェット	61
ワンセグ	57	i モーション	62
Music	59		

おサイフケータイ	63	便利ツール	64
i コンシェル	64	データ管理	68

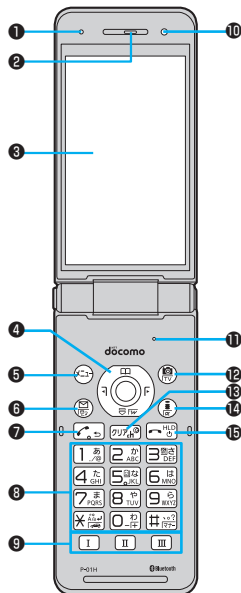
サポート	73	索引	93
付録	80		

FOMA端末について

- 本FOMA端末は、W-CDMA方式に対応しています。
- FOMA端末は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所およびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい場所であってもご使用にならない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが3本たっている場合で、移動せずに使用している場合でも通話が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- FOMA端末は電波を利用している関係上、第三者により通話を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、W-CDMA方式では秘話機能をすべての通話について自動的にサポートしますので、第三者が受信機で傍受したとしても、ただの雑音としか聞きとれません。
- FOMA端末は音声デジタル信号に変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪いところへ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元することができない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。
- お客様はSSL/TLSをご自身の判断と責任においてご利用することを承諾するものとします。お客様によるSSL/TLSのご利用にあたり、ドコモおよび別掲の認証会社はお客様に対しSSL/TLSの安全性などに関し何ら保証を行うものではなく、万が一何らかの損害が発生したとしても一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
認証会社：合同会社シマンテック・ウェブサイトセキュリティ、GMOグローバルサイン株式会社、サイバートラスト株式会社、EMCジャパン株式会社、セコムトラストシステムズ株式会社、株式会社コモドジャパン、Entrust, Inc.、Go Daddy Group, Inc.
- このFOMA端末は、FOMAプラスエリアおよびFOMAハイスピードエリアに対応しております。

- ディスプレイは、非常に高度な技術を駆使して作られています。一部に点灯しないドットや常時点灯するドットが存在する場合があります。これはディスプレイの特性であり故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容（電話帳、スケジュール、メモ、伝言メモ、音声メモなど）は、別にメモを取るなどして保管して下さるようお願いいたします。FOMA端末の故障や修理、機種変更やその他の取り扱いなどによって、万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 大切なデータはmicroSDカードに保存することをおすすめします。
- 市販のオプション品については、当社では動作保証はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

各部の名称と機能



①空気穴

FOMA端末内の圧力調整をするための穴です。

②受話口

相手の声をここから聞きます。

③ディスプレイ

④○コマンドナビゲーションボタン

機能操作やメニュー操作を行います。

⑤メニューボタン

メインメニューを表示します。

⑥メールボタン

メールメニューを表示します。

⑦開始ボタン

通話を開始します。

⑧ダイヤルボタン

電話番号や文字を入力します。

⑨ⅠⅡⅢマルチワンタッチボタン

⑩光センサー

明るさを感知します。(手で覆ったり、シールなどを貼らないでください。明るさを検知できないことがあります。)

⑪送話口

自分の声をここから相手に送ります。

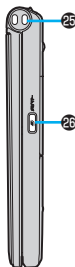
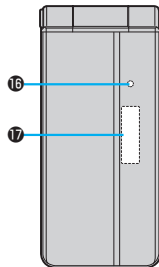
⑫カメラボタン／ワンセグボタン

⑬クリアボタン／iチャネルボタン

⑭iモードボタン／iアプリボタン

⑮電源／終了ボタン

電源の入／切や通話を終了します。

**16 着信／充電ランプ**

着信時やメール受信時、充電中などに光ります。

17 背面ディスプレイ**18 FOMAアンテナ※****19 赤外線ポート**

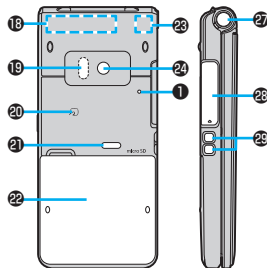
赤外線通信や赤外線リモコンに使用します。

20 〇マーク

ICカードを搭載しています。おサイフケータイやiC通信に使用します。

21 スピーカー**22 リアカバー**

電池パック、ドコモminiUIMカード、microSDカードの付け外しをするときに取り外します。

**23 ワンセグアンテナ※／Bluetooth®アンテナ※**

ワンセグ放送の受信やBluetooth通信に使用するアンテナです。

24 カメラ

人や風景を撮影します。

25 ストラップ取り付け穴**26 マルチボタン(サイドボタン)**

タスクメニューを表示します。

27 ワンプッシュオープンボタン

FOMA端末が開きます。(開いた反動でFOMA端末を落とさないようにご注意ください。)

28 外部接続端子

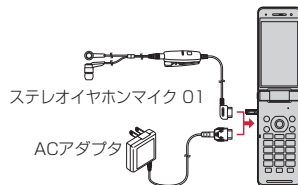
充電時およびイヤホン接続時に使用する統合端子です。

イヤホンのご利用について

別売りの外部接続端子対応のイヤホンを接続してください。なお、外部接続端子に非対応のイヤホンをご利用になる場合には、別売の変換アダプタを接続してご利用ください。

外部接続端子用

ステレオイヤホンマイク 01 (別売) 接続例
ACアダプタ (充電) およびステレオイヤホンマイク 01 (イヤホンマイク端子) の差込口が共通になっております。




**29 充電端子**

※アンテナは、本体に内蔵されています。アンテナ付近を手で覆うと品質に影響を及ぼす場合があります。



安全上のご注意





必ずお守りください

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

	危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
	警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合および物的損害の発生が想定される」内容です。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

	禁止(してはいけないこと)を示します。
禁止	
	分解してはいけないことを示す記号です。
分解禁止	

	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	
	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	
	指示に基づく行為の強制(必ず実行していただくこと)を示します。
指示	
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。
電源プラグを抜く	

- 「安全上のご注意」は下記の7項目に分けて説明しています。
- FOMA端末、電池パック、アダプタ、卓上ホルダ、ドコモminiUIMカードの取り扱いについて〈共通〉.....P.6
 FOMA端末の取り扱いについてP.7
 電池パックの取り扱いについてP.9
 アダプタ、卓上ホルダの取り扱いについてP.11
 ドコモminiUIMカードの取り扱いについてP.12
 医用電気機器近くでの取り扱いについてP.12
 材質一覧P.13

FOMA端末、電池パック、アダプタ、 卓上ホルダ、ドコモminiUIMカード の取り扱いについて〈共通〉



危険



禁止

高温になる場所や熱のこもりやすい場所(火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、放置しないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に入れないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



分解禁止

分解、改造をしないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



水濡れ禁止

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)で濡らさないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水性能についてはP.17「防水／防塵性能」をご参照ください。



水濡れ禁止

充電端子や外部接続端子に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)を入れないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水性能についてはP.17「防水／防塵性能」をご参照ください。



指示

FOMA端末に使用するオプション品は、NTTドコモが指定したものを使用してください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



警告



禁止

落下させる、踏みつける、投げつけるなど強い力や衝撃を与えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

充電端子や外部接続端子に導電性異物(金属片、鉛筆の芯など)を接触させたり、ほこりが内部に入ったりしないようにしてください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。

火災、やけどなどの原因となります。



指示

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所に立ち入る場合は必ず事前にFOMA端末の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。

ガスに引火する恐れがあります。

ガソリンスタンド構内などでおサイフケータイをご使用になる際は必ず事前に電源を切った状態で使用してください。(ICカードロックを設定されている場合にはロックを解除した上で電源をお切りください)



指示

使用中、充電中、保管時に、異臭、異音、発煙、発熱、変色、変形など、いまままでと異なるときは次の作業を行ってください。

- 電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く。
- FOMA端末の電源を切る。
- 電池パックをFOMA端末から取り外す。

上記の作業を行わないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



注意



禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。
落下して、けがなどの原因となります。



禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。
火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。
けがなどの原因となります。



指示

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。
誤って飲み込んだり、けが、感電などの原因となります。



指示

FOMA端末を長時間連続使用される場合や充電中はご注意ください。また、眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにご注意ください。

i アプリ、通話、データ通信、ワンセグや動画視聴など、長時間の使用や充電中は、FOMA端末や電池パック・アダプタの温度が高くなることがあります。

温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどなどの原因となったりする恐れがあります。

FOMA端末の取り扱いについて



警告



禁止

赤外線ポートを目に向けて送信しないでください。
目に悪影響を及ぼす原因となります。



禁止

赤外線通信利用時に、赤外線ポートを赤外線装置のついた家電製品などに向けて操作しないでください。
赤外線装置の誤動作により、事故の原因となります。



禁止

FOMA端末内のドコモminiUIカードやmicroSDカード挿入口に水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。

はじめに



指示

航空機へのご搭乗にあたり、FOMA端末の電源を切るか、セルフモードに設定してください。

航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。
自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してください。

航空機の電子機器に悪影響を及ぼす原因となります。
なお、航空機内での使用において禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。



指示

病院での使用については、各医療機関の指示に従ってください。

使用を禁止されている場所では、FOMA端末の電源を切ってください。
電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。
自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してください。



指示

ハンズフリーに設定して通話する際や、着信音が鳴っているときなどは、必ずFOMA端末を耳から離してください。

また、イヤホンマイクなどをFOMA端末に装着し、ゲームや音楽再生などをする場合は、適度なボリュームに調節してください。

音量が大きすぎると難聴などの原因となります。

また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。



指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ(振動)や着信音量の設定に注意してください。

心臓に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。

医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。



指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、FOMA端末の電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。

※ご注意ください電子機器の例

補聴器、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。



指示

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出したFOMA端末の内部にご注意ください。
ディスプレイ部やカメラのレンズの表面には、プラスチックパネルを使用し、ガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがなどの原因となります。



注意



禁止

ストラップなどを持ってFOMA端末を振り回さないでください。
本人や他の人に当たり、けがなどの事故の原因となります。



禁止

FOMA端末が破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

誤ってディスプレイを破損し、内部の物質などが漏れた場合には、顔や手などの皮膚につけないでください。

失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。

内部の物質などが目や口に入った場合には、すぐにきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診療を受けてください。

また、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにアルコールなどで拭き取り、石鹸などで洗い流してください。



禁止

人の近くや顔を近づけて、ワンブッシュオープンでFOMA端末を開かないでください。
本人や他の人に当たり、けがの原因となります。



指示

自動車内で使用する場合、自動車メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上で使用ください。
車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。



指示

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

各箇所の材質についてはP.13「材質一覧」参照。



指示

FOMA端末を開閉する際は、指やストラップなどを挟まないようご注意ください。

けがなどの事故の原因となります。



指示

ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、画面からある程度の距離をとってご使用ください。

視力低下などの原因となります。

電池パックの取り扱いについて

■電池パックのラベルに記載されている表示により、電池の種類をご確認ください。

表示	電池の種類
Li-ion 00	リチウムイオン電池



危険



禁止

端子に針金などの金属類を接触させないでください。また、金属製ネックレスなどと一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

電池パックをFOMA端末に取り付けるときは、電池パックの向きを確かめ、うまく取り付けできない場合は、無理に取り付けないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

火の中に投入したり、熱を加えたりしないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

釘(鋭利なもの)を刺したり、ハンマー(硬いもの)で叩いたり、踏みつけたりするなど過度な力を加えないでください。
電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

電池パック内部の液体などが目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。
失明などの原因となります。



警告



禁止

異臭、発熱、変色、変形などの異常が見られた場合は、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

電池パックが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

漏液した液体に引火し、発火、破裂などの原因となります。



指示

ペットなどが電池パックに噛みつかないようにご注意ください。
電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



注意



禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

発火、環境破壊の原因となります。不要となった電池パックは、端子にテープなどを貼り、絶縁してからドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市区町村の指示に従ってください。



禁止

濡れた電池パックを使用したり充電したりしないでください。
電池パックの発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

電池パック内部の液体などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚につけないでください。

失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液体などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。

また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診療を受けてください。

アダプタ、卓上ホルダの取り扱いについて



警告



禁止

アダプタのコードが傷んだら使用しないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

アダプタや卓上ホルダは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には使用しないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、アダプタには触れないでください。

感電などの原因となります。



禁止

コンセントやシガーライターソケットにつないだ状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部に触れさせないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

アダプタのコードの上に重いものをのせないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

コンセントにACアダプタを抜き差しするときは、金属製ストリップなどの金属類を接触させないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタに海外旅行用の変圧器(トラベルコンバーター)を使用しないでください。

発火、発熱、感電などの原因となります。



禁止

FOMA端末にアダプタを接続した状態で、接続部に無理な力を加えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



濡れ手禁止

濡れた手でアダプタのコードやコネクタ、電源プラグ、卓上ホルダに触れないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

指定の電源、電圧で使用してください。

また、海外で充電する場合は、海外で使用可能なACアダプタで充電してください。

誤った電源、電圧で使用すると火災、やけど、感電などの原因となります。

ACアダプタ: AC100V
(家庭用交流コンセントのみに接続すること)

海外で使用可能なACアダプタ:
AC100V ~ 240V

(家庭用交流コンセントのみに接続すること)

DCアダプタ: DC12V・24V
(マイナスアース車専用)



指示

DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。

指定外のヒューズを使用すると、火災、やけど、感電などの原因となります。

指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。



指示

電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。

ほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

アダプタをコンセントやシガーライターソケットに差し込むときは、確実に差し込んでください。

確実に差し込まないと、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く場合は、アダプタのコードを引っ張るなど無理な力を加えず、アダプタを持って抜いてください。アダプタのコードを引っ張るとコードが傷つき、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

FOMA端末にアダプタを抜き差しする場合は、コードを引っ張るなど無理な力を加えず、接続する端子に対してまっすぐ抜き差ししてください。正しく抜き差ししないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



電源プラグを抜く

使用しない場合は、アダプタの電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いてください。電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



電源プラグを抜く

万が一、水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)が入った場合は、コンセントやシガーライターソケットから電源プラグを抜いてください。火災、やけど、感電などの原因となります。



電源プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いて行ってください。火災、やけど、感電などの原因となります。



注意



禁止

コンセントやシガーライターソケットにつないだ状態でアダプタに長時間触れないでください。やけどなどの原因となります。

ドコモminiUIMカードの取り扱いについて



注意



指示

ドコモminiUIMカードを取り扱う際は切断面にご注意ください。けがなどの原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて



警告



指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部からFOMA端末を15cm以上離して携帯および使用してください。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

身動きが自由に取れないなど、周囲の方と15cm未満に近づく恐れがある場合には、事前にFOMA端末を電波の出ない状態に切り替えてください(セルフモードまたは電源OFFなど)。付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着している方がいる可能性があります。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

医療機関内におけるFOMA端末の使用については、各医療機関の指示に従ってください。

材質一覧

■P-01H本体・リアカバー P63・電池パック P32

使用箇所		材質／表面処理
外装ケース	ディスプレイ面、電池面、電池面(ヒンジ側)	PC / UV塗装
外部接続端子		ステンレス鋼／ニッケルメッキ、スズメッキ
外部接続端子カバー	取り付けピン部	ポリエステル系エラストマー
	パッキン	シリコンゴム
	本体	PC / UV塗装
カメラレンズ部パネル、ディスプレイパネル、背面ディスプレイパネル		PMMA / ハードコート
充電端子		黄銅／ニッケルメッキ、ニッケルパラジウムメッキ、金メッキ
ダイヤルボタン面のボタン部、シート部		アクリルウレタン
電池収納面		ステンレス鋼／ニッケルメッキ
電池端子	樹脂部分	PA
	端子部	チタン銅合金／ニッケルメッキ、金メッキ

使用箇所		材質／表面処理
電池パック	樹脂部分	PC
	水没シール	PET
	端子部	ガラスエポキシ／ニッケルメッキ、金メッキ
	ラベル	PET / シリコンニス
ドコモ miniUIM カード挿入部	基板部分	ガラスエポキシ／金メッキ
	トレイ金属部分	ステンレス鋼
	トレイ樹脂部分	LCP
ヒンジ部	ディスプレイ面側中央部分、ヒンジ受け部分、両端部分	PC / UV塗装
	背面ディスプレイ面側中央部分	ABS / UV塗装
マルチボタン(サイドボタン)		ABS
ラベル(電池収納面)		PET
リアカバー	パッキン	シリコンゴム
	本体	PC / UV塗装
ワンプッシュオープンボタン		PC

■卓上ホルダ P55

使用箇所	材質／表面処理
外装ケース	ABS
外部接続端子	PPS
クッション	ウレタン
充電端子	りん青銅／ニッケルメッキ、金メッキ
ラベル	PP合成紙 / PET
レバー	POM

取り扱い上のご注意

共通のお願い

■P-01Hは防水／防塵性能を有しておりますが、FOMA端末内部に水や粉塵が入れたり、付属品、オプション品に水や粉塵を付着させたりしないでください。電池パック、アダプタ、卓上ホルダ、ドコモ miniUIMカードは防水／防塵性能を有しておりません。風呂場などの湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。

- お手入れは乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で拭いてください。
 - ・ 乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。
 - ・ ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。
 - ・ アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- 端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。

端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。

また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。

急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。
- FOMA端末や電池パックなどに無理な力がかからないように使用してください。

多くのものが詰まった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ったりするとディスプレイ、内部基板、電池パックなどの破損、故障の原因となります。また、外部接続機器を外部接続端子(イヤホンマイク端子)に差した状態の場合、破損、故障の原因となります。
- ディスプレイは金属などで擦ったり引っかいたりしないでください。

傷つくことがあり、故障、破損の原因となります。

- 対応の各オプション品に添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。

FOMA端末についてお願い

- 極端な高温、低温は避けてください。

温度は5℃～35℃、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。
- 一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、悪影響を及ぼす原因となりますので、なるべく離れた場所でご使用ください。
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管して下さるようお願いいたします。

万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- FOMA端末を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。

故障、破損の原因となります。
- 外部接続端子(イヤホンマイク端子)に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。

故障、破損の原因となります。
- ストラップなどを挟んだまま、FOMA端末を閉じないでください。

故障、破損の原因となります。
- 使用中、充電中、FOMA端末は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。
- カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。

素子の退色・焼付きを起こす場合があります。

- 通常は外部接続端子カバーを閉じた状態でご使用ください。

ほこり、水などが入り故障の原因となります。
- リアカバーを外したまま使用しないでください。

電池パックが外れたり、故障、破損の原因となったりします。
- ディスプレイやボタンのある面に、極端に厚みのあるシールなどを貼らないでください。

故障、破損、誤動作の原因となります。
- microSDカードの使用中は、microSDカードを取り外したり、FOMA端末の電源を切ったりしないでください。

データの消失、故障の原因となります。
- 磁気カードなどをFOMA端末に近づけたり、挟んだりしないでください。

キャッシュカード、クレジットカード、レホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。
- FOMA端末に磁気を帯びたものを近づけないでください。

強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。

電池パックについてお願い

- 電池パックは消耗品です。

使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは電池パックの交換時期です。指定の新しい電池パックをお買い求めください。

- 充電は、適正な周囲温度(5℃～35℃)の場所で行ってください。
- 電池パックの使用時間は、使用環境や電池パックの劣化度により異なります。
- 電池パックの使用条件により、寿命が近づくにつれて電池パックが膨れる場合がありますが問題ありません。
- 電池パックを保管される場合は、次の点にご注意ください。
 - ・フル充電状態(充電完了後すぐの状態)での保管
 - ・電池残量なしの状態(FOMA端末の電源が入らない程消費している状態)での保管電池パックの性能や寿命を低下させる原因となります。
保管に適した電池残量は、目安として電池アイコン表示が2本、または残量が40パーセント程度の状態をおすすめします。

アダプタ、卓上ホルダについてのお願い

- 充電は、適正な周囲温度(5℃～35℃)の場所で行ってください。
- 次のような場所では、充電しないでください。
 - ・湿気、ほこり、振動の多い場所
 - ・一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く
- 充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。

- DCアダプタを使用して充電する場合は、自動車のエンジンを切ったまま使用しないでください。
自動車のバッテリーを消耗させる原因となります。
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。
- 強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。
故障の原因となります。

ドコモminiUIMカードについてのお願い

- ドコモminiUIMカードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないでください。
- 他のICカードリーダー／ライターなどにドコモminiUIMカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。
- IC部分はいつもきれいな状態でご使用ください。
- お手入れは、乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で拭いてください。
- お客様ご自身で、ドコモminiUIMカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いいたします。
万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

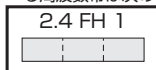
- 環境保全のため、不要になったドコモminiUIMカードはドコモショップなど窓口にお持ちください。
- ICを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。
データの消失、故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードにラベルやシールなどを貼った状態で、FOMA端末に取り付けしないでください。
故障の原因となります。

Bluetooth機能を利用する場合のお願い

- FOMA端末は、Bluetooth機能を利用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を利用した通信を行う際にはご注意ください。
- Bluetooth機能を利用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■周波数帯について

FOMA端末のBluetooth機能が利用する周波数帯は次のとおりです。



- 2.4 : 2400MHz帯を利用する無線設備を表します。
- FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示します。
- 1 : 想定される干渉距離が10m以下であることを示します。
- : 2400MHz～2483.5MHzの全帯域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

航空機内の利用は、事前に各航空会社へご確認ください。

ご利用の国によってはBluetoothの利用が制限されている場合があります。その国／地域の法規制などの条件を確認の上、ご利用ください。

■Bluetooth機器使用上の注意事項

本FOMA端末の利用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで利用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略します)が運用されています。

1. 本FOMA端末を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、本FOMA端末と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに利用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
3. その他、ご不明な点につきましては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

FeliCa リーダー／ライターについてお願い

■FOMA端末のFeliCa リーダー／ライター機能は、無線局の免許を要しない微弱電波を利用しています。

■使用周波数は13.56MHz帯です。周囲で他のリーダー／ライター、P2P機能をご利用の場合、十分に離してお使いください。また、他の同一周波数帯を利用の無線局が近くにないことを確認してお使いください。

■航空機内の利用は、事前に各航空会社へご確認ください。ご利用の国によっては利用が制限されている場合があります。その国／地域の法規制などの条件を確認の上、ご利用ください。

注意

■改造されたFOMA端末は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法／電気通信事業法に抵触します。FOMA端末は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則、および電気通信事業法に基づく端末機器の技術基準適合認定等に関する規則を順守しており、その証として「技適マーク」がFOMA端末の銘板シールに表示されております。FOMA端末のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法および電気通信事業法に抵触しますので、絶対に使用されないようお願いいたします。

■自動車などを運転中の使用にはご注意ください。

運転中にFOMA端末を手で保持しての使用は罰則の対象となります。ただし、傷病者の救護または公共安全の維持など、やむを得ない場合は対象外となります。

■FOMA端末のFeliCa リーダー／ライター機能は日本国内での無線規格に準拠しています。海外でご利用される場合は、その国／地域の法規制などの条件をあらかじめご確認ください。

■基本ソフトウェアを不正に変更しないでください。ソフトウェアの改造とみなし故障修理をお断りする場合があります。

防水／防塵性能

P-01Hは、外部接続端子カバーをしっかりと閉じ、リアカバーを確実に取り付けて隙間や浮きがない状態でIPX5※1、IPX7※2の防水性能、IP5X※3の防塵性能を有しています。

※1 IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5L/分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、電話機としての機能を有することを意味します。

※2 IPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深1mの水槽にP-01Hを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに電話機としての機能を有することを意味します。

※3 IP5Xとは、保護度合いを指し、直径75μm以下の塵埃（じんあい）が入った装置に電話機を8時間入れてかくはんさせ、取り出したときに電話機の機能を有し、かつ安全を維持することを意味します。

(注) 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。浸水や異物混入を防ぎ、安全にお使いいただくために、本書をよくお読みになってからご使用ください。

雨の中やキッチン、プールサイドなどの水際でもご使用できます。

雨の中

- 雨の中で傘をささずに濡れた手で通話できます。(1時間の雨量が20mm未満、地面からの跳ね返りで足元が濡れる程度)
- ※手が濡れているときやFOMA端末に水滴がついているときには、リアカバーの取り付け／取り外し、外部接続端子カバーの開閉は行わないでください。

洗う

- FOMA端末が汚れた場合は、洗面器などに張った真水・常温の水道水につけて静かに振り洗いをしたり、蛇口から弱めに流れる水道水に当てながら手で洗うことができます。
- リアカバーをしっかりと取り付けた状態で、外部接続端子カバーを押さえたまま洗ってください。
- 洗うときは、ブラシやスポンジ、石けん、洗剤などを使用しないでください。
- 洗い流したあとは表面を乾いた布でよく拭いて、水抜き(P.20参照)を行ったのち、自然乾燥させてください。



石けん・洗剤

レジャー

- プールの水や海水に浸けたり、落下させたりしないでください。また、水中で使用しないでください。



海水・プール

- プールの水や海水がかかった場合は所定の方法(P.17参照)で洗ってください。

キッチン

- 常温の真水や水道水以外の液体をかけたり、浸けたりしないでください。
- お湯や冷水をかけたり、浸けたりしないでください。

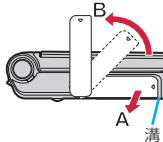
ご使用にあたっての重要事項

- ご使用前に、外部接続端子カバーをしっかりと閉じ、リアカバーを確実に取り付けている状態にしてください。微細なゴミ(微細な繊維、髪の毛、砂など)がわずかも挟まると水や粉塵が侵入する原因となります。外部接続端子カバーを閉じるときやリアカバーを取り付けるときは、カバー周辺(特にパッキン)にゴミや汚れが付着していないことを確認してください。
- 外部接続端子カバーやリアカバーが浮いていないようにしっかりと閉じていることを確認してください。確実に閉じていないと水や粉塵が侵入する恐れがあります。
- 防水／防塵性能を維持するため、異常の有無に関わらず、2年に1回、部品の交換をおすすめします。部品の交換はFOMA端末をお預かりして有料にて承ります。ドコモ指定の故障取扱窓口にお持ちください。

外部接続端子カバーの開けかた／閉じかた

■外部接続端子カバーの開けかた

- ①溝に指先をかけてAの方向に引っ張り出したあと、Bの方向に回転させる



■外部接続端子カバーの閉じかた

- ①FOMA端末と平行に揃えて外部接続端子カバーの根元部分をしっかり押さえながら押し込む

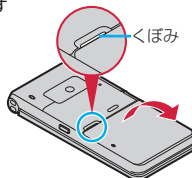


- ②外部接続端子カバー全体に浮きがないことを確認する

リアカバーの取り外しかた／取り付けかた

■リアカバーの取り外しかた

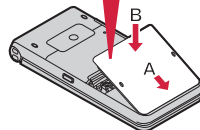
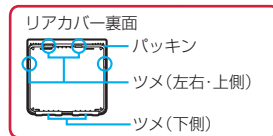
- ①FOMA端末のくぼみ部分に指先をかけて矢印の方向へ持ち上げてリアカバーを取り外す



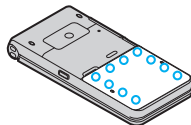
- ・リアカバーを外す際に音がする場合があります。
- ・リアカバーは防水／防塵性能を維持するため、しっかりと閉じる構造になっております。無理に開けようとすると爪や指などを傷つける場合がありますので、ご注意ください。

■リアカバーの取り付けかた

- ①リアカバーの下側のツメをFOMA端末に確実に合わせ(A)、リアカバーの左右と上側のツメをはめて押し込む(B)



- ②○印部分(10箇所)を押してリアカバー全体に浮きがないことを確認する



- ③リアカバーとFOMA端末に隙間がないことを確認する

注意事項

■FOMA端末について

- ・洗濯機や超音波洗浄機などで洗わないでください。
- ・濡れている状態で絶対に充電しないでください。
- ・水滴が付着したまま放置しないでください。
 - ・外部接続端子がショートする恐れがあります。
 - ・ボタンやヒンジ部などの隙間から水分が入り込む場合があります。また、寒冷地では、FOMA端末に水滴が付着していると、凍結し故障の原因となります。
- ・水で濡れた場合は、リアカバーを取り付けた状態で外部接続端子カバーを閉じたまま水抜き(P.20参照)を行い、FOMA端末から出た水分を乾いたきれいな布で直ちに拭き取ってください。
- ・落としたり、衝撃を与えたりしないでください。破損により防水／防塵性能の劣化を招くことがあります。
- ・お湯に浸けたり、サウナで使用したり、ドライヤーなどの温風を当てたりしないでください。
- ・FOMA端末は水に浮きません。
- ・規定(P.17参照)以上の強い水流に当たったり、水中に沈めたりしないでください。
- ・砂浜などの上に直接置かないでください。
 - ・送話口、受話口、スピーカー部の穴などに砂などが入り、音が小さくなる恐れがあります。

- ・水滴や砂などが付着したままご使用になると、音が割れる場合があります。
- ・外部接続端子カバー、リアカバーに砂などがわずかでも挟まると水や粉塵が侵入する原因となります。

■外部接続端子カバーやリアカバーについて

- ・手袋などをしたまま開閉しないでください。パッキンの接着面に微細なゴミが付着する場合があります。
- ・乾いたきれいな布で水分を拭き取る際は、パッキンに繊維が付着しないようにご注意ください。
- ・パッキンをはがさないでください。また、外部接続端子カバーやリアカバーの隙間に先の尖ったものを差し込まないでください。パッキンが傷つき、水や粉塵が侵入する原因となります。
- ・外部接続端子カバー、リアカバーのパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、ドコモ指定の故障取扱窓口にてお取り替えください。
- ・リアカバーが破損した場合は、リアカバーを交換してください。破損箇所から内部に水などの液体が入り、感電や電池の腐食などの故障の原因となります。
- ・外部接続端子カバーまたはリアカバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、電池パックを外した状態でドコモ指定の故障取扱窓口へご連絡ください。

■送話口、受話口、空気穴、スピーカー部について

- ・送話口、受話口、空気穴、スピーカー部の穴を尖ったものでつつかないでください。
- ・水滴を残さないでください。通話不良となる恐れがあります。

■その他

- ・付属品、オプション品は防水／防塵性能を有しておりません。付属の卓上ホルダは、ACアダプタを接続しない状態でも、風呂場、シャワー室、キッチン、洗面所などの水周りでは使用しないでください。
- ・実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

水に濡れたときの水抜きについて

- ・FOMA端末に水滴が付着したままご使用になると、スピーカーなどの音量が小さくなったり、音質が変化する場合があります。
- ・ボタンやヒンジ部などの隙間から水分が入り込んでいる場合があります。

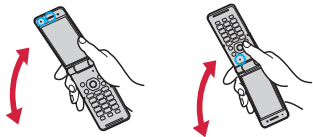
下記の手順でFOMA端末の水分を取り除いてください。

- ①FOMA端末表面の水分を乾いたきれいな布でよく拭き取る



- ②FOMA端末を確実に持って、各面を少なくとも20回程度、水滴が飛ばなくなるまでしっかり振る

〈受話口・空気穴の水抜き〉 〈送話口の水抜き〉



〈スピーカー・空気穴の水抜き〉



- ③乾いたきれいな布にFOMA端末を軽く押し当て、送話口、受話口、空気穴、スピーカー、ボタン、ヒンジ部などの隙間に入った水分を拭き取る

- ・隙間に溜まった水分を綿棒などで直接拭き取らないでください。



- ④十分に水分を取り除いてからご使用ください。

- ・上記の手順を行っても、FOMA端末に水分が残っている場合がありますので、しばらく自然乾燥させてからご使用ください。また、水が染み出ることがありますので濡れては困るものをそばに置かないようにご注意ください。

充電のときには

付属品、オプション品は防水／防塵性能を有しておりません。充電時、および充電後には次の点を確認してください。

- ・FOMA端末が濡れた状態では絶対に充電しないでください。FOMA端末が濡れたときはよく水抜きをして乾いたきれいな布で拭き取ってから充電してください。
- ・外部接続端子カバーを開けて充電した場合には、充電後はしっかりと外部接続端子カバーを閉じてください。外部接続端子から水や粉塵の侵入を防ぐため、付属の卓上ホルダを使用して充電することをおすすめします。
- ・濡れた手でACアダプタ、卓上ホルダに触れないでください。
- ・ACアダプタ、卓上ホルダは、風呂場、シャワー室、キッチン、洗面所などの水周りで使用しないでください。

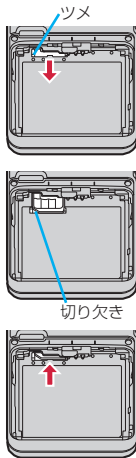
事前の準備

ドコモminiUIMカード・電池パックの取り付けかた

ドコモminiUIMカード・電池パックは、リアカバーを取り外してから取り付けます。(P.18参照)

1 ドコモminiUIMカードの取り付け

1. トレイのツメ部分を引き、止まるまでまっすぐ、ゆっくりトレイを引き出す
 - トレイは外れませんので、停止位置を越えて引き出さないください。トレイやツメが破損する場合があります。
2. ドコモminiUIMカードの金色のIC面を上にし、切り欠きが左側になっていることを確認してトレイにのせる
3. ドコモminiUIMカードを奥に押し込む
 - 固定されるまで確実に押し込んでください。



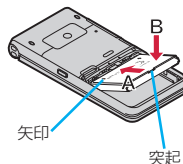
取り外すときは

トレイを引き出し、ドコモminiUIMカードをスライドさせながら、ゆっくりと引き抜きます。

- ドコモminiUIMカードが半分程度見える位置までトレイを引き出したあと、ドコモminiUIMカードをスライドさせて引き抜いてください。

2 電池パックの取り付け

電池パックの矢印面を上にして、電池パックの端子部をFOMA端末の電池端子部に合わせて差し込み、Aの方向に押し付けながら、Bの方向に押し込む



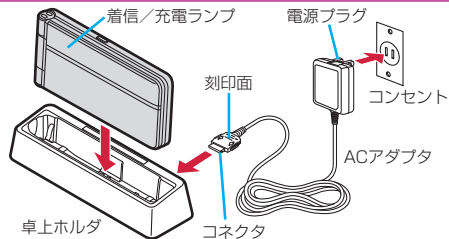
取り外すときは

電池パックの突起を利用して上方向に持ち上げます。

- ドコモminiUIMカードや電池パックの付け外しは、電源を切ってから、FOMA端末を閉じて手で持った状態で行ってください。
- 本FOMA端末では、ドコモminiUIMカードのみご利用できます。ドコモUIMカード、FOMAカードをお持ちの場合は、ドコモショップ窓口にてお取り替えください。

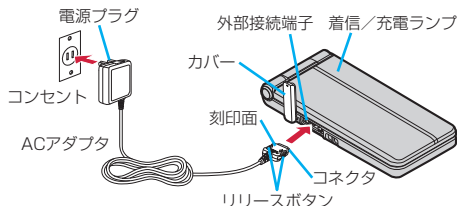
充電のしかた

卓上ホルダを使って充電する



- 1 ACアダプタ(別売)のコネクタの刻印面を上にして「カチッ」と音がするまで付属の卓上ホルダのコネクタ端子へ水平に差し込む
- 2 ACアダプタの電源プラグを起し、家庭用などのAC100Vのコンセントに差し込む
- 3 FOMA端末の充電端子側を下にして、卓上ホルダに確実に差し込む
 - ・市販のストラップなどを挟まないようにご注意ください。
- 4 充電が完了したら、卓上ホルダを押さえながらFOMA端末をつかんで持ち上げ、取り外す

ACアダプタを使って充電する



- 1 外部接続端子のカバーを開ける(P.18参照)
 - ・充電するときは、外部接続端子のカバーをイラストの位置にしてください。外部接続端子のカバーを開けたままFOMA端末を開閉する場合は、外部接続端子のカバーをFOMA端末に挟まないようにご注意ください。
- 2 コネクタの刻印面を上にして「カチッ」と音がするまで外部接続端子へ水平に差し込む
- 3 ACアダプタの電源プラグを起し、家庭用などのAC100Vのコンセントに差し込む
- 4 充電が完了したら、コネクタのリリースボタンを押しながら、外部接続端子から引き抜く


- 卓上ホルダに差し込む際は方向をよくご確認ください。差し込んでください。無理に差し込むと破損の原因となります。
- コネクタを抜くときは、コネクタの両側にあるリリースボタンを押しながら水平に引き抜いてください。無理に取り外そうとすると、故障の原因になります。
- 充電を開始するとFOMA端末の着信／充電ランプが赤色点灯し、充電が完了すると消灯します。

電源を入れる

1 を1秒以上押す

防水についての確認事項とウェイクアップ画面が表示されたあと、待受画面が表示されます。

電源を切るには

1.  (2秒以上) ▶ YES
 - 操作している画面によっては、確認画面が表示されない場合があります。

初期設定を行う

初めて電源を入れると初期設定の画面が表示されます。

1 日付時刻を設定する ▶ 端末暗証番号※を設定する ▶ 文字サイズを設定する ▶ ボタン確認音を設定する

※お買い上げ時は「0000」に設定されています。

相手に自分の電話番号を通知する


1 ▶ 電話機能 ▶ 発着信・通話設定 ▶ 発信者番号通知 ▶ 設定 ▶ 通知する

- 発信者番号通知をお願いする旨のガイダンスが聞こえたときは、発信者番号通知を設定するか「186」を付けてからおかけ直してください。

自分の電話番号を確認する

自分の電話番号(自局番号)や機種名などを確認できます。

1 ▶ プロフィール

-  (編集) を押すと、自分の名前やメールアドレスなどを登録できます。
- メールアドレスの確認／変更方法については、ドコモのホームページをご覧ください。

画面の説明

ディスプレイ・アイコンの見かた

電池残量(目安)



- 電池の状態になったときは充電してください。
- 使用状況によっては電池残量の表示が大きく変動することがあります。

電波の受信レベル(目安)



圏外 FOMAサービスエリア外または電波の届かないところ

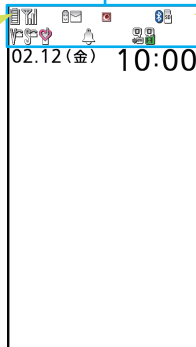
..... ecoモード中

(グレー) ecoモード自動起動設定中

..... 未読 i モードメール・SMS あり

..... i コンシェルの新着インフォメーションあり

状態表示アイコン









- Bluetooth機器と接続中
- microSDカード装着中
- バイブレーション設定中
- 着信音量を消去に設定中
- マナーモード中
- アラーム設定中
- 伝言メモの録音件数
- テレビ電話伝言メモの録画件数





- ここでは主なアイコンを説明しています。ディスプレイに表示されるその他のアイコンの説明を以下の操作で確認できます。

▶ 本体設定 ▶ 画面・ディスプレイ ▶ 表示アイコン説明

お知らせアイコン

-  新着 i モードメール・SMSあり
-  不在着信あり
-  伝言メモあり
-  テレビ電話伝言メモあり
-  自動的にecoモードに切り替わったとき(エコナビ)
-  ワンセグが自動的に終了したとき(エコナビ)

待受ショートカット

-  i コンシェル
-  dマーケット
-  地図アプリ
-  使いかたガイド



アイコンなどからそれぞれの機能に進むには

「状態表示アイコン」「お知らせアイコン」「待受ショートカット」や日付・時刻を利用して、それぞれの機能へ進むことができます。

1. ▶でアイコンなどを選ぶ▶ ( 選択)


背面ディスプレイ

背面ディスプレイには、さまざまな情報が以下の例のように表示されます。


FOMA端末を閉じた状態でを押したときなどに情報が表示されます。




不在着信があったときは


FOMA端末を閉じたときなどに「」が表示されます。




を押すと、不在着信履歴が表示されます。

- 不在着信履歴を表示すると「」は消えます。


新着メールがあったときは

FOMA端末を閉じたときなどに「」が表示されます。

「背面ディスプレイ設定」の「メール表示」を「ON」に設定している場合は、を押すと、受信日時や題名などが表示されます。

1. ▶ 本体設定▶ 画面・ディスプレイ▶ 背面ディスプレイ設定▶ ON▶ メール表示▶ ON▶  (完了)
- 受信したメールの受信日時などを表示すると「」は消えます。

歩数情報を表示するには

「背面ディスプレイ設定」の「時計種類」を「時計5」に設定している場合、FOMA端末を閉じた状態でを押したときなどに歩数情報が表示されます。

歩数を計測するには、「歩数計設定」を「ON」にしておく必要があります。

1. ▶ 便利ツール▶ 歩数計▶  (サブメニュー)▶ 歩数計設定▶ ON

- 表示される歩数情報は表示した時点の当日の歩数です。歩数情報を表示中も計測はされますが、歩数情報の表示は変更されません。再度歩数情報を表示したときに最新の情報に更新されます。
- オリジナルロックで「歩数計」をロックしていても、歩数情報は表示されます。

時計の表示を変更する

時計を表示しているときは、を押すたびに時計の表示パターンを変更できます。

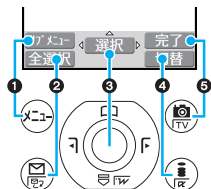
- 「」、「」、「」、「」が表示されている場合は変更できません。



ナビゲーション表示とボタン操作

各機能を利用できる操作を画面下部に案内表示します。(ナビゲーション表示)

■ボタン割り当てと主なナビゲーション表示



①	メニューボタンで行う操作	サブメニュー 閉
②	全選択ボタンで行う操作	全選択 ▲ページ
③	決定ボタンで行う操作	選択 確定
	決定ボタンで行うスクロールや項目の選択が可能な方向	◀ ▲ ▶ ▼
④	切替ボタンで行う操作	切替 ▼ページ
⑤	完了ボタンで行う操作	完了 送信

コマンドナビゲーションボタンの操作



- カーソルまたは反転表示を上方向へ移動します。(押し続けると連続スクロールになります)
- 表示内容を上方向へスクロールします。



- カーソルを右方向へ移動します。
- 表示内容を画面単位で次の画面へスクロールします。(押し続けると連続スクロールになります)



- 操作を決定します。



- カーソルを左方向へ移動します。
- 表示内容を画面単位で前の画面へスクロールします。(押し続けると連続スクロールになります)



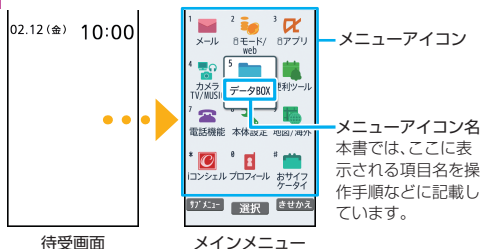
- カーソルまたは反転表示を下方向へ移動します。(押し続けると連続スクロールになります)
- 表示内容を下方向へスクロールします。

メニュー操作

メインメニュー

待受画面で \odot を押すと、メインメニューを表示できます。

- 本書では、主に待受画面を起点に操作手順を説明しています。



\odot でメニューアイコンを選んで \odot (選択)を押します。メニュー項目ごとに分類された機能が表示されます。繰り返し項目を選択して、目的の機能呼び出します。

- 一つ前の画面に戻るには \square を押します。また、どの画面からでも \square を押すと待受画面に戻ります。

シンプルメニュー

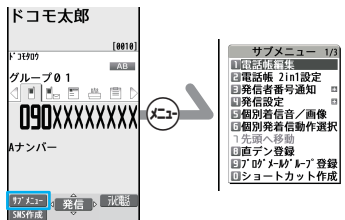
シンプルメニューとは、基本機能に絞って使いやすくしたメニューです。きせかえツールで「シンプルメニュー」に設定し、待受画面で \odot を押すと、シンプルメニューが表示されます。

- 「メール」では i モードメールとSMSが作成できます。
- シンプルメニューでの操作手順や画面に表示される項目は、本書に記載しているものとは一部異なります。

サブメニュー

画面の左下に「サブメニュー」が表示されているときは、 \odot を押すと登録や編集、削除などの機能を利用できます。

＜例＞ 電話帳のサブメニューを表示する



- 項目の配下にさらに項目がある場合は、「+」が表示されます。

簡単な操作で機能を起動する

機能によっては、メニューから選択して起動する方法だけでなく、待受画面からのボタン操作で起動できるものもあります。ボタンを1秒以上押して起動できる機能には、以下のようなものがあります。

ボタン	動作
	キーロックの設定／解除
	電話帳の登録画面を表示
	i ウィジェットを起動
	ワンセグを起動
	メール／メッセージ問合せを実行
	ソフト一覧画面を表示
	音声クイック起動を実行
	ICカードロックの設定／解除
	ecoモードの設定／解除
	屋外モードの設定／解除※
	ビュープラインドのON／OFF※
	公共モード(ドライブモード)の設定／解除
	マナーモードの設定／解除

※あらかじめ「ボタン機能有効／無効設定」を「有効」に設定してください。(P.36参照)

■FOMA端末を閉じた状態での操作

ボタン	動作
	マナーモードの設定／解除

マルチワンタッチ機能

よく使う機能や電話帳などをマルチワンタッチボタンに登録しておく、登録した機能を簡単に呼び出すことができます。

- お買い上げ時にはマルチワンタッチボタンに機能が登録されていますが、変更することもできます。

■機能を登録する

1. **I** / **II** / **III** (1秒以上) ▶ 項目を選択 ▶ YES

登録済みの機能を変更するには

1. **I** / **II** / **III** (1秒以上) ▶ YES ▶ マルチワンタッチ機能設定 ▶ 項目を選択 ▶ YES

■機能を呼び出す

1. **I** / **II** / **III** を押す

docomo Palette UI


docomo Palette UIとは、待受画面を中心にさまざまな機能やサービスへ簡単にアクセスできるユーザーインターフェースで、お客様が自由にカスタマイズすることができます。

待受画面の左右にはMyFACE、下にはショートカットが表示されます。

基本の操作



MyFACEを利用する

MyFACE機能とは、MyFACEコンテンツをサイトからダウンロードして待受画面の左右に登録することにより、待受画面で  を押すとすぐに表示できる便利な機能です。

1 MyFACEコンテンツを操作する

MyFACEコンテンツをダウンロードするには

サイトからMyFACEコンテンツをダウンロードして、待受画面の左右に登録します。

お買い上げ時に登録されているMyFACEコンテンツを含めて12件まで登録できます。

1. ダウンロード可能なサイトを表示 ▶ MyFACEコンテンツを選択 ▶  で登録する位置を選択 ▶  (選択) ▶ YES・NO

- MyFACEコンテンツによっては自動で情報が更新されるものがあり、最大で1時間に1回自動的に通信を行います。更新時にはパケット通信料がかかります。(お買い上げ時に登録されているMyFACEコンテンツの更新にはパケット通信料はかかりません。)
- お買い上げ時に登録されているMyFACEコンテンツでも、国際ローミング中やiモードの接続先設定を変更すると、更新時にパケット通信料がかかります。
- MyFACEコンテンツの更新時にすべてのファイルが取得できなかった場合、次の更新時にすべてのファイルを再取得するため、再度パケット通信料がかかります。

ショートカットを利用する

待受画面の下にはショートカットの一覧画面があり、よく利用する機能などのショートカットを作成しておく、すぐに機能を利用できます。

1 ①を押す

- ①で待受ショートカットを選択して
②(選択)を押すと、ショートカット
を実行できます。待受ショートカット



2 ②を押す



3 ③でショートカットを選んで④(選択)

ショートカットを作成するには

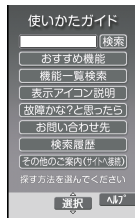
1. ショートカットを作成したい画面で⑤(サブメニュー)
▶ショートカット作成

- 作成したショートカットの件数が多いときは、
ショートカットの画像が代替画像になる場合があります。

使いかたガイドを利用する

知りたい機能、使いたい機能を探して操作方法などを確認します。機能によっては「使いかたガイド」から実行できるものもあります。

1 ⑥▶便利ツール ▶使いかたガイド



2 キーワードを入力または探す方法を選択

文字入力

電話帳の登録画面やメールの作成画面などで文字を入力します。

1 入力モードを選択する

 (文字切替) を押して入力モードを選択します。

2 文字を入力する

各ダイヤルボタンを繰り返し押すと、そのボタンに割り当てられている他の文字を入力できます。

<例>  を押す場合

漢字ひらがな入力モード

「か→き→く→け→こ」

カタカナ入力モード

「カ→キ→ク→ケ→コ→2」

英字入力モード(大文字)



「A→B→C→a→b→c→2」

英字入力モード(小文字)





「a→b→c→A→B→C→2」

数字入力モード

「2」

- 「あ」「い」のように同じボタンで文字を続けて入力する場合は、 でカーソルを進めてから次の文字を入力します。
- 文字入力中に予測変換候補から候補を選択するには、 を押します。


3 文字を変換・確定する


-  を押して変換する範囲を指定
-  を押して候補リストにカーソルを移動
-  を押して変換候補を選択
-  を押して文字を確定

その他のボタン操作について

 (記号/顔) : 記号、顔文字、URLを入力

 (絵文字) : 絵文字、デコメ絵文字[®]、デコメピクチャを入力

 : 改行を入力
(文字を入力したあとに押すと、大文字／小文字の切り替えや濁点・半濁点の入力が可能)


 (1秒以上) : 確定・削除などをした文字を元に戻す

 : 文字を削除

音／画面設定



着信音を変える

＜例＞音声電話の着信音を変更する

- 1  ▶ 本体設定 ▶ 音／バイブ／マナー
▶ 着信音選択 ▶ 電話※ ▶ 着信音 ▶ 着信音の種類を選択 ▶ フォルダを選択 ▶ 着信音を選択
※メールやテレビ電話などの着信音を設定する場合は、対応する項目を選択します。


着信音の音量を調節する

＜例＞音声電話の着信音量を調節する

- 1  ▶ 本体設定 ▶ 音／バイブ／マナー
▶ 着信音量 ▶ 電話※ ▶  で音量を調節
※メールやテレビ電話などの着信音量を調節する場合は、対応する項目を選択します。



バイブレータを設定する

＜例＞音声電話の着信時のバイブレータを設定する

- 1  ▶ 本体設定 ▶ 音／バイブ／マナー
▶ バイブレータ設定 ▶ 電話※ ▶ パターンを選択
※メールやテレビ電話などの着信時のバイブレータを設定する場合は、対応する項目を選択します。



マナーモードを利用する

着信音やボタン確認音、アラーム音などの音がFOMA端末から鳴らないようにボタン1つで設定できます。マナーモードに設定すると、音の代わりに振動(バイブレータ)でお知らせします。

- 1  を1秒以上押す
待受画面にが表示されます。
解除するには
同様の操作を行います。

オリジナルマナーを利用する

「オリジナルマナー」を利用して、マナーモード中の動作をお好みに合わせて設定できます。

1.  ▶ 本体設定 ▶ 音／バイブ／マナー
▶ マナーモード設定 ▶ マナーモード選択
▶ オリジナルマナー ▶ 各項目を設定
▶  (完了)


- ・マナーモード設定中でも、カメラのシャッター音・フォーカスロック音や、ボイスレコーダーの録音開始音・終了音は鳴ります。

ボタンを押したときの音を消す

- 1  ▶ 本体設定 ▶ 音／バイブ／マナー
▶ その他音設定 ▶ ボタン確認音 ▶ OFF



画面の設定を変える

待受画面の表示を変える

- 1  ▶ 本体設定 ▶ 画面・ディスプレイ
▶ 待受画面設定 ▶ 待受画面 ▶ 画像の種類を選択 ▶ フォルダを選択 ▶ 画像を選択
 • 画像によっては表示方法を選択できる場合があります。


ディスプレイの明るさを変える

ディスプレイの明るさを調節します。また、周囲の明るさに合わせて自動で調整するように設定します。

- 1  ▶ 本体設定 ▶ 照明・イルミネーション
▶ 照明設定 ▶ 明るさ ▶ 自動調整ON
▶  で明るさを調節

照明OFF・省電力モード

ディスプレイの照明をOFFに設定します。また、省電力モードに切り替わるまでの時間を設定します。FOMA端末を何も操作しないで省電力移行時間で設定した時間が経過すると、省電力モードに切り替わります。ディスプレイの表示が消え、電池の消費を抑えることができます。

1.  ▶ 本体設定 ▶ 照明・イルミネーション
▶ 照明設定 ▶ 通常時 ▶ OFF ▶ 省電力移行時間(秒)を入力

屋外でディスプレイを見やすくする

「屋外モード」を設定することで、屋外での使用時に太陽光により見えにくくなったディスプレイを見やすくします。

- あらかじめ「ボタン機能有効／無効設定」の「屋外モード」を「有効」に設定してください。(P.36参照)

1 を1秒以上押す

「」が表示されます。

解除するには

同様の操作を行います。

- お買い上げ時にはⅢに「屋外モード」が登録されており、Ⅲを押しても屋外モードの設定／解除ができません。

周りの人からディスプレイを見えにくくする

斜めの角度からディスプレイを見えにくくする「ビューブラインド」を設定します。

- あらかじめ「ボタン機能有効／無効設定」の「ビューブラインド」を「有効」に設定してください。(P.36参照)

1 ⑧を1秒以上押す

待受画面に「」が表示されます。

解除するには

同様の操作を行います。

文字サイズを変える

＜例＞文字のサイズを一括で「超大」に変更する

1 (メニュー)▶本体設定▶文字表示／入力▶フォント設定▶文字サイズ▶超大

- 各機能の文字サイズを個別に設定する場合は、「個別設定」を選択します。

マチキャラの設定を変える

不在着信や新着メール、i コンシェルの新着インフォメーションなどをお知らせするマチキャラを変更できます。

1 (メニュー)▶本体設定▶画面・ディスプレイ▶マチキャラ設定▶表示設定▶ON▶フォルダを選択▶マチキャラを選んで (設定)

きせかえツールを利用する

着信音や待受画面、メニューアイコンなどをまとめて設定できます。

1 (メニュー)▶本体設定▶画面・ディスプレイ▶きせかえツール設定▶フォルダを選択▶きせかえツールを選んで (一括設定)▶YES

- メニューの種類によっては、使用頻度に合わせてメニュー構成が変わるものがあります。

メニューアイコンをお買い上げ時の設定に戻すには

1. (メニュー)▶(メニュー) (サブメニュー)▶メニュー画面リセット▶端末暗証番号を入力▶YES

着信時のイルミネーションを変える

＜例＞音声電話の着信イルミネーションを変更する


1 (メニュー)▶本体設定▶照明・イルミネーション▶イルミネーション設定▶着信イルミネーション▶着信イルミネーション選択▶電話※▶イルミネーションを選択

※メールやテレビ電話などの着信イルミネーションを設定する場合は、対応する項目を選択します。

ecoモードに切り替える

電池の消費を抑えるecoモードにボタン1つで設定できます。ecoモードに切り替わるとディスプレイの照明が暗くなるなど、「ecoモード設定」で設定した項目の動作が変更されます。

1 を1秒以上押す

が表示されます。

解除するには

同様の操作を行います。




ecoモード設定

ecoモードに切り替えたときに電池の消費を抑える項目を設定します。

1 ▶ 本体設定 ▶ 電池 ▶ ecoモード設定 ▶ 設定したい項目にチェック ▶ (完了)

ecoモード自動起動設定

電池残量が設定した数値以下になったときに、自動でecoモードに切り替わるように設定します。お買い上げ時は「ecoモード自動起動設定」の「電池残量」は「40%」に設定されています。

- ecoモード自動起動設定を「ON」にすると、「 (グレー)」が表示されます。自動でecoモードに切り替わると、「」が表示され、デスクトップに「」が表示されます。

1 ▶ 本体設定 ▶ 電池 ▶ ecoモード自動起動設定 ▶ ON ▶ 各項目を設定 ▶ (完了)

ボタン機能の有効／無効を設定する

「ビューブラインド」「屋外モード」「直デン」機能の有効／無効をボタンで行うように設定できます。

1 ▶ 本体設定 ▶ その他設定 ▶ ボタン機能有効／無効設定 ▶ 項目を選択 ▶ 有効・無効

ロック／セキュリティ


各種暗証番号について

■各種暗証番号に関するご注意


- 設定する暗証番号は「生年月日」「電話番号の一部」「所在地番号や部屋番号」「1111」「1234」などの他人にわかりやすい番号はお避けください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。万が一暗証番号が他人に知られ悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 各種暗証番号を忘れてしまった場合は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）やFOMA端末、ドコモminiUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただく必要があります。詳しくは取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。
- PINロック解除コードは、ドコモショップでご契約時にお渡しする契約申込書（お客様控え）に記載されています。ドコモショップ以外でご契約されたお客様は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）とドコモminiUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただくか、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。

端末暗証番号

お買い上げ時は「0000」

データ全削除や設定変更時に使用する4～8桁の番号です。端末暗証番号入力の画面が表示された場合は、4～8桁の端末暗証番号を入力し、 (**確認**) を押します。

変更するには

-  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ
▶ 端末暗証番号変更

ネットワーク暗証番号

ご契約時に任意の番号を設定

ドコモショップまたはドコモ インフォメーションセンターや「お客様サポート」でのご注文受付時に契約者ご本人を確認させていただく際や各種ネットワークサービスご利用時などに必要な数字4桁の番号です。

変更するには

- i モードから、「i Menu」→「お客様サポート」
- 「各種設定（確認・変更・利用）」
- 「ネットワーク暗証番号変更」で変更できます。

i モードパスワード

ご契約時は「0000」

マイメニューの登録・削除、メッセージサービス、i モードの有料サービスのお申し込み・解約などを行うときに必要な4桁の番号です。

変更するには

- i モードから、「i Menu」→「お客様サポート」
- 「各種設定（確認・変更・利用）」
- 「i モードパスワード変更」で変更できます。

PIN1コード・PIN2コード



ご契約時は「0000」

ドコモminiUIMカードには、PIN1コード、PIN2コードという2つの暗証番号を設定できます。

PIN1コードは、第三者によるドコモminiUIMカードの無断使用を防ぐため、ドコモminiUIMカードをFOMA端末に差し込むたびに、またはFOMA端末の電源を入れるたびに使用者を確認するために入力する4～8桁の番号です。


PIN2コードは、積算料金リセットを行うときなどに使用する4～8桁の番号です。

PIN1コード／PIN2コード入力の画面が表示された場合は、4～8桁のPIN1コード／PIN2コードを入力し、

 ( 確定) を押します。

- 3回連続して誤ったPIN1コード／PIN2コードを入力した場合は、PIN1コード／PIN2コードがロックされて使えなくなります。

変更するには

1.  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ
▶ UIM(FOMA)カード設定 ▶ 端末暗証番号を入力
▶ PIN1コード変更・PIN2コード変更
- PIN1コードを変更するには、「PIN1コード入力設定」を「ON」に設定しておく必要があります。

PINロック解除コード


PINロック解除コードは、PIN1コード、PIN2コードがロックされた状態を解除するための8桁の番号です。

なお、お客様ご自身では変更できません。

- PINロック解除コードの入力を10回連続して失敗すると、ドコモminiUIMカードがロックされます。その場合は、ドコモショップ窓口にお問い合わせください。

PIN1コード入力設定

FOMA端末の電源を入れたとき、PIN1コードを入力しないと使用できないようにします。



1.  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ
▶ UIM(FOMA)カード設定 ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ PIN1コード入力設定 ▶ ON
▶ PIN1コードを入力




解除するには

「OFF」を選択します。

各種ロック機能


FOMA端末には、他人の不正使用を防いだり、個人情報を守ったりするためのさまざまなロック機能が搭載されています。

ダイヤル ロック	<p>FOMA端末を他の人が使用できないようにします。</p> <p>電話の応答、電源のON / OFF以外の操作ができなくなります。</p> <p>1.  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ ▶ ロック ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ダイヤルロック</p> <ul style="list-style-type: none"> 解除するには待受画面で端末暗証番号を入力します。
ICカード ロック	<p>ICカード機能をロックします。</p> <p>おサイフケータイやトルカ取得、iC通信などが使用できなくなります。</p> <p>1.  を1秒以上押す</p> <ul style="list-style-type: none"> 解除するには同様の操作を行い、端末暗証番号を入力します。

おまかせ ロック	<p>FOMA端末を紛失した際などに、ドコモにお電話でご連絡いただだけで、電話帳などの個人データやおサイフケータイのICカード機能にロックをかけることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> おまかせロックの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。 <p> おまかせロックの設定／解除 0120-524-360 受付時間 24時間 (年中無休)</p> <p>※一部のIP電話からは接続できない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> パソコンなどでMy docomoのサイトからも設定／解除ができます。
オリジナル ロック	<p>電話帳やスケジュールなど、個人情報を利用する機能を利用できないようにします。</p> <p>1.  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ ▶ ロック ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ オリジナルロックのレベルを選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 解除するには「OFF」を選択します。
キーロック	<p>ボタンの操作ができなくなるようにします。</p> <p>1.  を1秒以上押す</p> <ul style="list-style-type: none"> 解除するには同様の操作を行います。

電話の着信制限をする

電話帳に登録されていない相手からの着信や、電話番号が通知されない着信の発信者番号非通知理由によって、電話を受ける(許可)か受けない(拒否)かを設定します。発信者番号非通知理由には「非通知設定」、「公衆電話」、「通知不可能」の3つがあります。

- 1  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ
▶ 着信拒否設定 ▶ 端末暗証番号を入力
▶ 設定する項目を選択 ▶ 許可・拒否

- 「非通知設定」、「公衆電話」、「通知不可能」の場合、「許可」を選択すると、着信音や着信画面を設定できます。


みまもりメールを利用する

FOMA端末を開いた回数や歩数、電話機能やメール機能を使用した時間などが記載された i モードメールを、設定した時刻に登録した宛先に自動的に送信します。離れて暮らす家族や子供などの利用状況を毎日知ることができます。

- 1日に3回まで送信でき、1回に3件の宛先に送信できます。
- ダイヤルロック中、おまかせロック中、オリジナルロックで「メール」「歩数計」「使用履歴」「メール送信」をロック中でも、みまもりメールは送信されます。
- みまもりメールの送受信にはパケット通信料がかかります。

みまもりメールを設定する


みまもりメールに表示する利用者の名前を登録したり、みまもりメールを送信する宛先や時刻を設定します。

- 1  ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ
▶ みまもりメール ▶ みまもりメール設定
▶ 端末暗証番号を入力

利用者を登録するには

1. 利用者の名前 ▶  (編集) ▶ 利用者名を入力

みまもり宛先を登録するには

1. みまもり宛先設定 ▶ <未登録>を選択
▶ メールアドレスを選択
-  (編集) を押してメールアドレスを直接入力することもできます。

みまもり時刻を設定するには

1. みまもり時刻設定 ▶ 送信時刻を選択
▶ 時刻を入力 ▶  (ON/OFF) で ON / OFF を切り替える

みまもりメール履歴を確認する

みまもりメールを送信した履歴を過去7日分表示します。各宛先ごとに正しく送信できたか確認できます。

1 本体設定

▶ ロック・セキュリティ

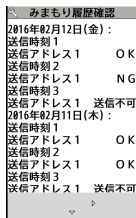
▶ みまもりメール

▶ みまもり履歴確認

OK : 送信成功

NG : 通信エラーなどのため送信失敗

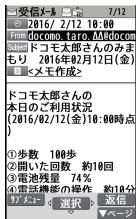
送信不可 : 圏外や他の機能が起動中などのため送信失敗



みまもり履歴確認	
2016年02月12日(金):	
送信時刻 1	
送信アドレス 1	OK
送信時刻 2	
送信アドレス 1	NG
送信時刻 3	
送信アドレス 1	送信不可
2016年02月11日(木):	
送信時刻 1	
送信アドレス 1	OK
送信時刻 2	
送信アドレス 1	OK
送信時刻 3	
送信アドレス 1	送信不可

みまもりメールを受信すると

みまもりメールには、登録した利用者名や送信日時、FOMA端末の利用状況が記載されています。



受信メール	
2016/ 2/12 10:00	
From	docomo.taro.0A@docom
Subject	ドコモ太郎さんのみまもり 2016年02月12日(金)
<メモ作成>	
ドコモ太郎さんの 本日のご利用状況 (2016/02/12(金)10:00時点)	
①歩数	100歩
②開いた回数	約10回
③電池残量	74%
④電話機能の操作	約10分
7/メニュー	返信
▼ページ	

お買い上げ時の状態に戻す

各種機能の設定をリセットする

各種機能の設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。

1 本体設定 ▶ その他設定 ▶ 設定リセット ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ YES

登録データを一括して削除する

登録データを一括して削除し、各種機能の設定内容をお買い上げ時の状態に戻します。



1 本体設定 ▶ その他設定 ▶ 端末初期化 ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ YES ▶ YES







電話

電話／テレビ電話をかける

電話番号を入力して電話をかける

1 市外局番から電話番号を入力

▶  で電話をかける ▶  で通話を終了


-  () を押すとテレビ電話発信になります。
- 通話中に  または  ( 保留) を押すと通話を保留できます。  を押すと保留を解除できます。

- 本FOMA端末は内側にカメラを搭載しておりませんので、相手に送る画像はキャラ電、静止画または外側のカメラで撮影中の映像となります。


電話帳から電話をかける

<例>電話帳に登録している名前で検索する

1 ▶ 名前検索※ ▶ 名前の一部を入力 ▶

- ※「電話番号検索」「アドレス検索」など、他の検索方法も利用できます。
- 何も入力せずに  を押すと、すべての電話帳が表示されます。

2 電話帳を選択 ▶

同じ電話帳に複数の電話番号が登録されている場合は  を押して目的の電話番号を選択します。

-  () を押すとテレビ電話発信になります。

発着信一覧を利用して電話をかける


1 ▶ 履歴を選択 ▶

-  () を押すとテレビ電話発信になります。

国際電話をかける

日本から国際電話をかけるときはWORLD CALLを利用します。

1 (1秒以上) ▶ 国番号→地域番号(市外局番) →相手先電話番号の順に入力

-  を1秒以上押すと「+」が入力されます。
- 地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合には、先頭の「0」を除いて入力してください。ただし、イタリアなど一部の国・地域におかけになるときは「0」が必要な場合があります。

2 ▶ 発信

-  ()を押すとテレビ電話発信になります。

- ドコモのテレビ電話は「国際標準の3GPPで標準化された、3G-324M」に準拠しています。異なる方式を利用しているテレビ電話とは接続できません。

電話／テレビ電話を受ける

1 電話がかかってくる

▶  で電話を受ける ▶  で通話を終了

テレビ電話がかかってきた場合

同様の操作で受けられます。
相手には代替画像が送信されます。

相手の声の大きさを変える

1 通話中に で音量を調節

電話に出られないとき

伝言メモを設定する

電話に出られないときに相手の用件を録音・録画します。

- 電話がかかってくると、呼出時間が経過後、応答メッセージが再生されます。その後、相手の用件が録音・録画されます。

1 ▶ 電話機能 ▶ 伝言メモ／音声メモ ▶ 伝言メモ設定 ▶ ON ▶ 電話※ ▶ 応答メッセージを選択 ▶ 呼出時間(秒)を入力

※テレビ電話用の伝言メモを設定する場合は、「テレビ電話」を選択します。

公共モード(ドライブモード)を利用する

公共モード(ドライブモード)を設定すると、電話をかけてきた相手に運転中もしくは通話を控えるような場所(電車、バス、映画館など)にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、自動的に電話を終了します。

1 (✖)を1秒以上押す

待受画面に「」が表示されます。

解除するには

同様の操作を行います。

- 公共モード(ドライブモード)中に着信があると、着信音は鳴らず、着信履歴として記憶されます。また、アラーム設定時刻になってもアラーム音は鳴りません。

公共モード(電源OFF)を利用する

公共モード(電源OFF)を設定すると、電源をOFFにしている場合の着信時に、電話をかけてきた相手に電源を切る必要がある場所(病院、飛行機、電車の優先席付近など)にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、自動的に電話を終了します。

1 (✖)(2)(5)(2)(5)(1)を入力▶

解除するには

1. (✖)(2)(5)(2)(5)(0)を入力▶

各種ネットワークサービスを利用する

■利用できるネットワークサービス

FOMA端末では、次のようなドコモのネットワークサービスをご利用いただけます。

サービス名称	お申し込み	月額使用料
留守番電話サービス	必要	有料
着信通知サービス	不要	無料
キャッチホン	必要	有料
転送でんわサービス	必要	無料
迷惑電話ストップサービス	不要	無料
発信者番号通知サービス	不要	無料
番号通知お願いサービス	不要	無料
英語ガイダンス	不要	無料
マルチナンバー	必要	有料
2in1	必要	有料
公共モード(ドライブモード)	不要	無料
公共モード(電源OFF)	不要	無料
メロディコール	必要	有料

- サービスエリア外や電波の届かない場所ではネットワークサービスはご利用できません。
- 「サービス停止」とは留守番電話サービス、転送でんわサービスなどの契約そのものを解約するものではありません。
- 本書では、各ネットワークサービスの概要を、FOMA端末のメニューを使って操作する方法で説明しています。詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- お申し込み、お問い合わせについては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

留守番電話サービスを利用する

1 ▶電話機能▶留守番電話サービス

サービスを開始するには

1. 留守番サービス開始▶YES
 - 続けて呼出時間も設定できます。

メッセージを再生するには

1. 留守番メッセージ再生▶再生(音声電話)・再生(テレビ電話)▶YES▶音声ガイダンスに従って操作



キャッチホンを利用する

1 ▶電話機能▶その他ネットワークサービス▶キャッチホン

サービスを開始するには

1. 開始▶YES

通話中にかかってきた電話に出るには

を押します。を押すたびに通話する相手が切り替わります。

転送でんわサービスを利用する

1 ▶電話機能▶その他ネットワークサービス▶転送でんわ

サービスを開始するには

1. 転送サービス開始▶開始▶YES
 - 転送先や呼出時間も設定できます。

緊急通報

緊急通報	電話番号
警察への通報	110
消防・救急への通報	119
海上での通報	118

- ・本FOMA端末は、「緊急通報位置通知」に対応しております。110番、119番、118番などの緊急通報をかけた場合、発信場所の情報(位置情報)が自動的に警察機関などの緊急通報受理機関に通知されます。お客様の発信場所や電波の受信状況により、緊急通報受理機関が正確な位置を確認できないことがあります。なお、「1184」を付加してダイヤルするなど、通話ごとに非通知とした場合は、位置情報と電話番号は通知されませんが、緊急通報受理機関が人命の保護などの事由から、必要であると判断した場合は、お客様の設定によらず、機関側が位置情報と電話番号を取得することがあります。また、「緊急通報位置通知」の導入地域／導入時期については、各緊急通報受理機関の準備状況により異なります。
- ・FOMA端末から110番、119番、118番通報の際は、携帯電話からかけていることと、警察・消防機関側から確認などの電話をする場合があります。電話番号を伝え、明確に現在地を伝えてください。また、通報は途中で通話が切れないように移動せず通報し、通報後はすぐに電源を切らず、10分程度は着信のできる状態にしておいてください。
- ・かけた地域により、管轄の消防署・警察署などに接続されない場合があります。
- ・FOMA端末から110番、119番、118番へテレビ電話発信した場合は、自動的に音声電話発信となります。

- ・「公共モード」、「セルフモード」を設定中に緊急通報に電話をかけた場合は、設定が解除されます。また、「登録外着信拒否」、「指定着信拒否」、「指定着信許可」、「指定転送でんわ」、「指定留守番電話」、「通話中の着信動作選択」、「オリジナルロック」の「着信」を設定中に緊急通報に電話をかけた場合は、通話終了後約5分間は設定が無効になります。

海外で利用する

国際ローミング(WORLD WING)とは、日本国内で使用している電話番号やメールアドレスはそのままに、ドコモと提携している海外通信事業者のサービスエリアでご利用になれるサービスです。電話、SMS、i モードメールは設定の変更なくご利用になれます。

- ・対応エリアについて
本FOMA端末は、クラス2になります。3Gネットワークのサービスエリアでご利用になれます。また、3G850MHzに対応した国・地域でもご利用になれます。ご利用可能エリアをご確認ください。
- ・海外でご利用になる前に、以下をあわせてご覧ください。
 - ・ドコモのホームページ
- ・国番号・国際電話アクセス番号・ユニバーサルナンバー用国際識別番号・接続可能な国・地域および海外通信事業者は、ドコモのホームページでご確認ください。
- ・海外でのご利用料金(通話料、パケット通信料)は日本国内とは異なります。

海外で利用可能なサービス

主な通信サービス	3G	3G850
音声電話※1	○	○
テレビ電話※1	○	○
SMS	○	○
iモード※2	○	○
iモードメール	○	○
iチャンネル※2※3	○	○
iコンシェル※4	○	○
iウィジェット※5	○	○
パソコンと接続して行うパケット通信	○	○

○:利用できます。

※1 2in1利用時はBナンバーでの発信はできません。マルチナンバー利用時は付加番号での発信はできません。

※2 iモード海外利用設定が必要となります。

※3 iチャンネル海外利用設定が必要となります。ベーシックチャンネルの情報の自動更新にもパケット通信料がかかります(日本国内ではiチャンネル利用料に含まれます)。

※4 iコンシェルの海外利用設定が必要となります。インフォメーションの受信ごとにパケット通信料がかかります。

※5 iウィジェットの海外利用設定が必要となります。iウィジェット画面を表示すると複数のウィジェットアプリが通信する場合があります、この場合1通信ごとにパケット通信料がかかります。

・接続する海外通信事業者やネットワークによりご利用にできないサービスがあります。

滞在国外に電話をかける

1 ○(1秒以上)▶国番号→地域番号(市外局番)→相手先電話番号の順に入力


- ・○を1秒以上押すと「+」が入力されます。
- ・日本に国際電話をかける場合は、国番号に「81」を入力してください。
- ・地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合には、先頭の「0」を除いて入力してください。ただし、イタリアなど一部の国・地域におかけになるときは「0」が必要な場合があります。

2 で電話をかける

- ・ (テレビ電話)を押すとテレビ電話発信になります。

滞在国内に電話をかける

1 地域番号(市外局番)→相手先電話番号の順に入力▶ で電話をかける

- ・地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合には、先頭の「0」を除いて入力してください。ただし、イタリアなど一部の国・地域におかけになるときは「0」が必要な場合があります。
- ・ (テレビ電話)を押すとテレビ電話発信になります。

海外にいるWORLD WING利用者に電話をかける

相手が国際ローミング中の場合は、滞在国内に電話をかける場合でも、日本への国際電話として電話をかけてください。

メール

i モードメールを送信する

i モードを契約するだけで、ドコモ同士はもちろん、他社のケータイ・スマートフォンやパソコン宛など、インターネットのメールアドレスを持っている人となら誰とでもメールのやりとりができます。テキスト本文に加えて、合計2Mバイト以内のファイル(写真や動画ファイルなど)を10個まで添付できます。また、デコメール®にも対応しており、デコメ絵文字®・デコメピクチャを使ったり、メール本文の文字の色・大きさや背景色を変えたりすることで、簡単に表現力豊かなメールを送ることができます。

- ・詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- ・電話番号のみでメールをやりとりできるSMSも利用できます。(P.50参照)

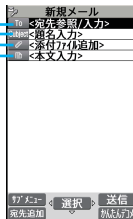
1 (New) 各項目を入力

宛先(メールアドレス)を入力します。

題名を入力します。

画像などの添付ファイルを選択します。

本文を入力します。



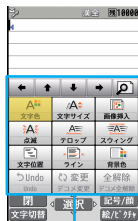
デコメール®を送信する

文字の色・大きさや背景色を変えたり、画像やデコメ絵文字®を挿入できます。

1 (New) ※宛先や題名を入力

※「デコメテンプレート」を選択して、作成することもできます。

2 本文欄を選択 (閉) パレットからデコレーションを選択 本文を入力 (閉) (確定)







パレット

3 (送信) を押す


2 (送信) を押す

デコメアニメ®を送信する

メッセージや画像をFlash画像に挿入して表現力豊かなメールを作成できます。

- 1  ▶ 新規デコメアニメ作成 ▶ 宛先や題名を入力
- 2 本文欄を選択 ▶ デコメアニメ®テンプレートを選んで  (確定) ▶ 文字や画像を編集 ▶  (完了)
- 3  (送信) を押す

受信した i モードメールを見る

- 1  ▶ 受信BOX ▶ フォルダを選択 ▶ i モードメールを選択

i モードメールに返信する

- 1 i モードメール表示中に  (返信) ▶ 各項目を入力 ▶  (送信)

i モードメールを転送する

1. i モードメール表示中に  (サブメニュー) ▶ 返信／転送 ▶ 転送 ▶ 各項目を入力 ▶  (送信)

i モードメールが届いているか問い合わせる


i モードセンターに新着 i モードメールやメッセージ R/Fを問い合わせます。

- 1  を1秒以上押す

i モードメールを振り分ける

あらかじめ「仕事」「友人」などのフォルダを作成しておく、「自動振り分け設定」を使って受信／送信メールを振り分けることができます。


<例>電話帳に登録しているアドレスからのメールをフォルダに振り分ける

- 1 受信BOXでフォルダを選んで  (サブメニュー) ▶ 自動振り分け設定 ▶ アドレス振り分け ▶ アドレス参照入力 ▶ 電話帳 ▶ 電話帳を検索して目的のメールアドレスを選択

緊急速報「エリアメール」

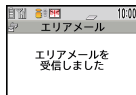
エリアメールを受信する

エリアメールは、気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、国・地方公共団体が配信する災害・避難情報を、回線混雑の影響を受けずに受信できるサービスです。

エリアメールを受信すると「」が点灯し、エリアメール専用ブザー音または専用着信音が鳴ります。

受信内容が自動で表示されるものもあります。表示を消すには「OK」を選択します。

- ・iモードを契約しなくても、エリアメールの受信ができます。
- ・お買い上げ時は、緊急地震速報、津波警報、災害・避難情報を受信できます。



エリアメールの設定をする

1 ▶ メール設定 ▶ 緊急速報「エリアメール」設定 ▶ 設定する項目を選択 ▶ 各項目を設定

- ・「着信音確認」でエリアメール受信時のFOMA端末の動作を確認することもできます。

SMSを利用する

相手の携帯電話番号宛にメッセージを送信できます。

SMSを送信する

1 ▶ 新規SMS作成 ▶ 各項目を入力

電話番号を入力します。

本文を入力します。



2 (送信) を押す

受信したSMSを見る

1 ▶ 受信BOX ▶ フォルダを選択 ▶ SMSを選択

電話帳

電話帳に登録する

新しい電話番号／メールアドレスなどを登録する

FOMA端末(本体)またはドコモminiUIMカードの電話帳に登録します。

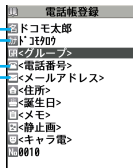
1 (1秒以上)▶本体

名前の入力画面が表示されます。入力して次に進みます。

ドコモminiUIMカードの電話帳に登録するときは「UIM(FOMA)カード」を選択します。

2 各項目を入力

名前を入力します。
フリガナを入力します。
電話番号を入力します。
メールアドレスを入力します。



3 (完了)を押す

発着信一覧から電話帳に登録する

- 1 (履歴を選んで) (サマニ)▶電話帳登録▶本体▶新規登録▶各項目を入力▶(完了)

電話帳を修正する

- 1 (電話帳を検索して選択) (サマニ)▶電話帳編集▶修正したい項目を選択▶内容を修正▶(完了)▶YES

電話帳を削除する

- 1 (電話帳を検索して選択) (サマニ)▶電話帳削除▶1件削除▶YES

i モード／フルブラウザ

i モードサイトを表示する

i モードでは、i モード対応端末のディスプレイを利用して、サイト接続、インターネット接続、i モードメールなどのオンラインサービスをご利用いただけます。

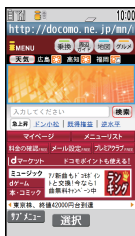
- ・i モードはお申し込みが必要な有料サービスです。
- ・i モードの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- ・FOMA端末ではSSL/TLS※対応のページを表示できます。

※SSL/TLSは認証／暗号技術を使用して、プライバシーを守ってより安全にデータ通信を行う方式のことです。

1 を押す

i Menuに接続します。項目(リンク先)の選択を繰り返して目的のサイトを表示します。

- ・通信中は「」が点滅します。



■ i モードのご利用にあたって

- ・サイトやインターネット上のホームページの内容は、一般に著作権法で保護されています。これらサイトやインターネットホームページからiモード対応端末に取り込んだ文章や画像などのデータを、個人として楽しむ以外に、著作権者の許可なく一部あるいは全部をそのまま、または改変して販売、再配布することはできません。
- ・別のドコモminiUIMカードを差し替えたり、ドコモminiUIMカードを未挿入のまま電源ONにした場合、サイトから取り込んだ静止画・動画・メロディやメールで送受信した添付ファイル(静止画・動画・メロディなど)、「画面メモ」および「メッセージR/F」などを表示・再生できません。
- ・ドコモminiUIMカードにより表示・再生が制限されているファイルを待受画面・指定着信音などに設定されている場合、別のドコモminiUIMカードを差し替えたり、ドコモminiUIMカードを未挿入のまま電源ONにすると、設定内容は初期状態にリセットされます。

パソコン向けのホームページを表示する

パソコン向けに作成されたインターネットホームページを、フルブラウザの機能を利用して閲覧できます。

- 画像を多く含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料金が高額になりますので、ご注意ください。パケット通信料の詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- フレームで構成されたインターネットホームページも閲覧できます。また、選択したフレームごとに表示することもできます。

1 (メニュー)▶ i モード／web▶ フルブラウザホーム

- お買い上げ時の状態では、フルブラウザを利用するかどうかの確認画面が表示されます。

• インターネットホームページによっては表示できない場合や正しく表示できない場合があります。

ブラウザを切り替える

i モードで正しく表示できなかったインターネットホームページをフルブラウザに切り替えて表示します。

- i モードとフルブラウザでは課金体系が異なります。フルブラウザご利用時のパケット通信料は、データ通信量により高額になりますので、パケットパック／パケット定額サービスのご利用をおすすめします。

1 i モードでページを表示中に(メニュー)(サブメニュー)▶フルブラウザ▶フルブラウザ切替▶YES

フルブラウザから i モードに切り替えるには

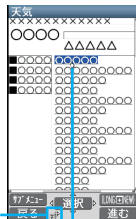
1. フルブラウザでサイトを表示中に(メニュー)(サブメニュー)▶ i モードブラウザ▶ i モードブラウザ切替

サイトの見かたと操作

画面のスクロール／反転表示の移動／ポインタの移動:

項目(リンク先)の選択: (選択)
前のページへ戻る: (戻る)
次のページへ進む: (進む)

フルブラウザで接続中は「FB」、「FB」が表示されます。



ポインタ

よく見るサイトを登録する

よく利用するホームページやサイトのURLをBookmarkに登録しておくと、簡単に表示できます。

- 1 サイト表示中に  (メニュー) ▶ Bookmark
▶ Bookmark登録 ▶ OK ▶ 登録したいフォルダを選択

登録したサイトに接続するには

1.  ▶ i モード / web ▶ Bookmark ▶ フォルダを選択 ▶ Bookmarkを選択

サイトの内容を保存する

一度表示したページを画面メモとして保存しておくと、i モード接続せずに簡単に参照できます。


- 1 サイト表示中に  (メニュー) ▶ 画面メモ
▶ 画面メモ保存 ▶ 本体 ▶ YES

保存した画面メモを表示するには

1.  ▶ i モード / web ▶ 画面メモ ▶ 本体・microSD
▶ 画面メモを選択

- ・サイト側で画面メモを保存できないように設定している場合など、サイトによっては画面メモを正しく保存できないことがあります。

i チャンネル

ニュースや天気などの情報が i チャンネル対応端末に配信されるサービスです。自動的に受信した最新の情報が待受画面にテロップとして流れます。また、 を押すことで最新情報がチャンネル一覧画面に表示されます。

また、i チャンネルにはドコモが提供する「ベーシックチャンネル」とIP(情報サービス提供者)が提供する「おこのみチャンネル」の2種類があります。「ベーシックチャンネル」は、配信される情報の自動更新時にパケット通信料はかかりません。

お好きなチャンネルを登録し利用できる「おこのみチャンネル」は、情報の自動更新時に別途パケット通信料がかかります。「ベーシックチャンネル」「おこのみチャンネル」共に詳細情報を閲覧する場合は別途パケット通信料がかかりますのでご注意ください。

国際ローミングサービスご利用の際は、自動更新・詳細情報の閲覧共にパケット通信料がかかります。

- ・i チャンネルはお申し込みが必要な有料サービスです(お申し込みには i モード契約が必要です)。
- ・i チャンネルの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

i チャンネルを表示する

- 1  を押す

各チャンネルを選択するとそれぞれの詳細情報画面が閲覧できます。

カメラ

撮影画面の見かたと操作



撮影画面の操作

静止画撮影・保存:

フォーカス機能:

ズーム操作: (望遠)・ (広角)

- ・撮影する画像サイズによってはズームできない場合があります。

静止画／動画を撮影する

静止画を撮影する

- 1 ▶ カメラ / TV / MUSIC ▶ カメラ
▶ デジカメモード

- 2 (撮影) ▶ (保存)

動画を撮影する

- 1 ▶ カメラ / TV / MUSIC ▶ カメラ
▶ ムービーモード

- 2 (撮影) で録画を開始
▶ (終了) で録画を終了 ▶ (保存)

- ・レンズを直射日光に向けて放置しないでください。素子の褪色・焼付きを起こすことがあります。
- ・電池残量が少ないときは、撮影した静止画や動画を保存できない場合があります。

撮影した静止画／動画を見る

撮影した静止画または動画をピクチャアルバムで表示します。撮影した静止画から人物の顔を検出して拡大することもできます。また、エフェクト機能を利用して表現力豊かなスライドショーを再生できます。

- 1 ▶ データBOX ▶ マイピクチャまたはi モーション・ムービー ▶ ピクチャアルバム
・撮影画面で () を押しても起動します。

- 2 フォルダを選択 ▶ ファイルを選択
・動画を再生するには () を押します。

さまざまな方法で撮影する

静止画を連写撮影する

WQVGA(240×428)～VGA(480×640)のサイズの静止画を連写撮影します。

- 1 デジカメモードの撮影画面で ()
▶ 連写 ▶ 連写
- 2 () ▶ 静止画を選んで ()
・ () を押すと、すべての静止画を保存できます。

セルフタイマーで撮影する

- 1 デジカメモードの撮影画面で ()
▶ セルフタイマー ▶ 10秒・2秒

- 2 () を押す
2秒後または10秒後に静止画が撮影されます。

- 3 () を押す

セルフタイマーで動画を撮影するときは

1. ムービーモードの撮影画面で ()
▶ セルフタイマー ▶ 2秒・10秒
2. () を押す
2秒後または10秒後に録画が開始されます。
3. () で録画を終了 ▶ () ()

ワンセグ

ワンセグのご利用にあたって

■ワンセグのご利用にあたって

ワンセグは、テレビ放送事業者(放送局)などにより提供されるサービスです。映像、音声の受信には通信料がかかりません。なお、NHKの受信料については、NHKにお問い合わせください。

※「データ放送サイト」「iモードサイト」などを閲覧する場合は、パケット通信料がかかります。サイトによっては、ご利用になるために情報料が必要なもの(iモード有料サイト)があります。

※「ワンセグ」サービスの詳細については、以下のホームページなどでご確認ください。

一般社団法人 デジタル放送推進協会
パソコン：<http://www.dpa.or.jp/>

■放送波について

ワンセグは、放送サービスの1つであり、FOMAサービスとは異なる電波(放送波)を受信しています。以下のような場所では、受信状態が悪くなったり、受信できなくなったりする場合があります。

- ・放送波が送信される電波塔から離れている場所
- ・山間部やビルの陰など
- ・トンネル、地下、建物内の奥まった場所など

場所を移動することで受信状態が良くなることがあります。

※他の電波の影響により地上デジタルテレビ放送が良好に視聴できなくなる受信の障害を解消するため、一部の地域で送信チャンネルが変更されることがあります。そのため、お客様自身により自動スキャンによるチャンネルの再設定(P.58参照)が必要になる場合があります。また、チャンネルの再設定後はチャンネルリストへの登録を必ず行ってください。地デジチャンネルリパックの詳細については、以下のホームページなどでご確認ください。

総務省テレビ混信対策センター


パソコン：<http://tvkon.jp/>

■電池残量について

電池残量が少ないときにワンセグを利用しようとすると、電池残量警告音が鳴り、起動するかどうかの確認画面が表示されます。確認画面で約1分間何も操作しないと、自動的にワンセグが終了します。

■初めてワンセグを利用する場合の画面表示

お買い上げ後、初めてワンセグを利用する場合、免責事項の確認画面が表示されます。

 (OK) を押したあとに表示される確認画面で「NO」を選択すると、以後同様の確認画面は表示されません。

チャンネルを設定する

はじめてワンセグをご利用になるときや地域が変わったときなどは「チャンネル設定」を行う必要があります。「自動チャンネル設定」を行うと、受信できる放送局を自動で検索します。

- ・地上デジタルテレビ放送サービスのエリア内で設定してください。

1. ▶ カメラ / TV / MUSIC ▶ ワンセグ
▶ チャンネル設定 ▶ 自動チャンネル設定
▶ YES ▶ YES ▶ タイトルを入力

地域を選択して設定するときは

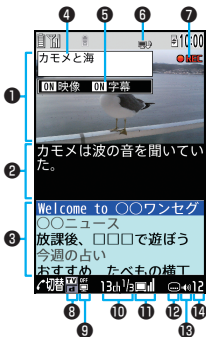
1. ▶ カメラ / TV / MUSIC ▶ ワンセグ
▶ チャンネル設定 ▶ 地域選択 ▶ 地域を選択
▶ 都道府県を選択 ▶ YES

ワンセグを見る

1. を1秒以上押す


ワンセグが起動し、視聴画面が表示されます。

視聴画面の見かたと操作



- 1 映像
- 2 字幕
- 3 データ放送
- 4 番組名
- 5 映像 / 字幕設定値
- 6 視聴中
- 7 ビデオ録画中
- 8 操作モード
 : 映像モード
 : データ放送モード
- 9 ワンセグ無操作自動オフ設定中
自動終了の約1分前になると点滅します。
- 10 チャンネル(リモコン番号)
同じ放送局で複数のサービス(番組)が放送されている場合、「視聴サービス番号 / 全サービス数」も表示されます。
- 11 放送電波の受信レベル(目安)
 強 ← → 弱
放送圏外の場合は「」が表示されます。
- 12 字幕受信中
- 13 消音 / 消音解除
 : 消音 : 消音解除
- 14 音量



視聴画面の操作

チャンネル切替: 

音量調節: 

消音／消音解除: 




映像／データ放送切替: 

ビデオ録画:  (録画) (1秒以上) または  (1秒以上)

- ・録画したビデオはmicroSDカードに保存されます。

ワンセグの視聴／録画を予約する

日時、チャンネル、番組名などを設定して視聴予約／録画予約を登録します。設定した日時になると、自動的に視聴／録画を開始できます。

- 1  ▶ カメラ／TV／MUSIC ▶ ワンセグ
▶ 視聴予約リスト・録画予約リスト
▶  (新規) ▶ 各項目を入力
▶  (完了)

録画したビデオを再生する


- 1  ▶ データBOX ▶ ワンセグ ▶ ビデオ
▶ ファイルを選択

Music

WMAファイルを保存する

パソコン内のWindows Media® Audio(WMA)ファイルをmicroSDカードへ保存します。

- ・ミュージックプレーヤーの詳細は、ドコモのホームページをご覧ください。

- 1 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)を使ってFOMA端末とパソコンを接続する
- 2  ▶ 本体設定 ▶ 外部接続 ▶ USBモード ▶ MTPモード
- 3 パソコンでWindows Media Player 11/12を起動してWMAファイルをmicroSDカードに保存する

- WMAファイルはFOMA端末には保存できません。また、ライセンス保護されたWMAファイルの場合は、FOMA端末だけでなくmicroSDカードにも保存できません。
- Windows Media Player 11/12の操作方法についてはWindows Media Player 11/12のヘルプをご覧ください。
- 保存が完了したら、FOMA端末からFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を取り外します。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を取り外すときは、ご使用のソフトウェアを終了させてから取り外してください。

■音楽データの取り扱いについて

microSDカードに保存した音楽データは、個人使用の範囲内でのみ使用できます。ご使用にあたっては、著作権などの第三者の知的財産権その他の権利を侵害しないよう十分にご配慮ください。

音楽データを再生する

ミュージックプレーヤーでは、サイトからダウンロードした着うたフル®やパソコンを利用してmicroSDカードに保存したWMAファイルなどを再生できます。


- 「着うたフル」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

1 ▶ カメラ / TV / MUSIC ▶ ミュージックプレーヤー ▶ 全曲 ▶ 曲を選択

ミュージックプレーヤー画面の操作

停止:  () 早送り:  (押し続ける)

一時停止:  () 早戻し:  (押し続ける)

音量調節:  次の曲: 

前の曲:  (再生時間が3秒以上は頭出し)

i アプリ／i ウィジェット

i アプリとは、i モード対応端末用のソフトです。i モードサイトからさまざまなソフトをダウンロードすれば、自動的に株価や天気情報などを更新したり、ゲームを楽しんだりすることができます。

i ウィジェットとは電卓・時計や、メモ帳、株価情報など頻繁に利用する任意のコンテンツおよびツール(ウィジェットアプリ)に簡単にアクセスすることができる便利な機能です。

ウィジェットアプリはサイトからダウンロードすることにより、追加することが可能です。

- ・i アプリによってはご利用に通信料がかかる場合があります。
- ・海外でご利用の場合は、国内でのパケット通信料と異なります。
- ・i ウィジェット画面を表示すると、複数のウィジェットアプリが通信することがあります。詳細情報を閲覧する場合は別途パケット通信料がかかります。
- ・i アプリ／i ウィジェットの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

i アプリを起動する

1 (1秒以上) ▶ ソフトを選択

ウィジェットアプリを起動する

1 (1秒以上) ▶ ウィジェットアプリを選択

ウィジェットアプリを個別で操作できます。

サイトから i アプリをダウンロードする

1 i アプリのダウンロードが可能なサイトでソフトを選択 ▶ ダウンロードが完了したら「OK」▶ YES

- ・お買い上げ時に登録されている i アプリは削除できません。削除した i アプリは「P-SQUARE」のサイトから再びダウンロードできます。

P-SQUAREでは、i アプリだけでなく、お買い上げ時に登録されているデコメ絵文字®、きせかえツール、マチキャラ、キャラ電、テンプレート、辞書、コンテンツパッケージをダウンロードできます。

i Menu→メニューリスト→ケータイ電話メーカー→P-SQUARE

- ・再ダウンロードサービス期限
・「リバーシ」: 2019年9月末日
・「ハイパー四川省」: 2019年9月末日
- ・プリインストール i アプリは、サービス終了などにより、予告なくご利用できなくなる場合や、再ダウンロードサービスを終了させていただく場合があります。

i モーション

i モーションは、映像や音声、音楽のデータで、i モーション対応サイトからFOMA端末に取り込み再生できます。また、i モーションを着信音に設定することもできます。

- i モーションの取得、ストリーミング時には大容量データを受信する可能性があります。送受信データが大きい場合はパケット通信料が高額になりますので、パケットパック／パケット定額サービスのご利用をおすすめします。
- i モーションには、ストリーミングタイプと標準タイプの2種類があります。

種類	説明
ストリーミングタイプ (保存不可)	受信しながら同時に再生を行います。
標準タイプ(保存可)	取得が完了するとデータ取得完了の画面が表示され、再生、保存などの操作ができます。

i モーションを取得する

- 1 i モーションの取得が可能なサイトで i モーションを選択▶保存▶YES▶保存したいフォルダを選択

i モーションを再生する

- 1 ▶データBOX▶ i モーション・ムービー▶フォルダを選択▶ファイルを選択

おサイフケータイ

おサイフケータイ／トルカについて

おサイフケータイは、お店などの読み取り機にFOMA端末をかざすだけで、お支払いやクーポン券などとして使える「おサイフケータイ対応サービス」や、読み取り機にFOMA端末をかざしてサイトの情報などにアクセスできる「かざしてリンク対応サービス」がご利用いただける機能です。また、電子マネーの入金や残高、ポイントの確認などができますし、おまかせロックやICカードロックを利用することにより、盗難、紛失時の対策になります。

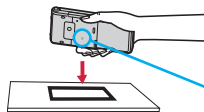
トルカは、FOMA端末で取得できる電子カードで、チラシやレストランカード、クーポン券などの用途で便利にご利用いただけます。トルカはサイトや読み取り機などから取得が可能で、メールや赤外線通信、iC通信、microSDカードを使って簡単に交換できます。取得したトルカは「おサイフケータイ」の「トルカ」内に保存されます。


おサイフケータイ、トルカの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

- FOMA端末の故障により、ICカード内データ(電子マネー、ポイントなど含む)が消失・変化してしまう場合があります(修理時など、FOMA端末をお預かりする場合は、データが残った状態でお預かりすることができませんので、原則データをお客様自身で消去していただきます)。データの再発行や復元、一時的なお預かりや移し替えなどのサポートは、おサイフケータイ対応サービス提供者にご確認ください。重要なデータについては必ずバックアップサービスのあるおサイフケータイ対応サービスをご利用ください。
- 故障、機種変更など、いかなる場合であっても、ICカード内データが消失・変化、その他おサイフケータイ対応サービスに関して生じた損害について、当社としては責任を負いかねます。
- FOMA端末の盗難・紛失時は、すぐにご利用のおサイフケータイ対応サービス提供者に対応方法をお問い合わせください。

1 マークを読み取り機にかざす

FOMA端末を読み取り機に近づけて通信が可能な状態になると着信／充電ランプが光ります。




 マークを読み取り機の読み取り部にかざします。

i コンシェル


i コンシェルとは、執事やコンシェルジュのように、お客様の生活をサポートするサービスです。お客様のさまざまなデータ（お住まいのエリア情報、メモ、スケジュール、トルカ、電話帳など）をお預かりし、メモやスケジュールの内容、生活エリアやお客様の居場所、趣味嗜好に合わせた情報を適切なタイミングでお届けします。FOMA端末に保存されたメモやスケジュール、ToDoに対して、関連する情報をお伝えしたり、スケジュールやトルカを自動で最新の情報に更新したり、電話帳にお店の営業時間などの役立つ情報を自動で追加したりもします。また、お預かりしているスケジュールや画像を友達や家族などのグループと共有することができます。お預かりしている画像は簡単にプリントすることもできます。i コンシェルの情報は、待受画面上でマチキャラ（待受画面上のキャラクタ）がお知らせします。

- ・ i コンシェルの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- ・ i コンシェルはお申し込みが必要な有料サービスです。（お申し込みには i モードの契約が必要です）
- ・ ケータイデータお預かりサービスのご契約をされていないお客様が、i コンシェルを新たににご契約になる場合、同時にケータイデータお預かりサービスにもご契約いただいたこととなります。
- ・ コンテンツ（インフォメーション、i スケジュールなど）によっては、i コンシェルの月額使用料のほかに、別途情報料がかかる場合があります。
- ・ インフォメーションの受信には一部を除いて別途パケット通信料がかかります。
- ・ 詳細情報のご利用には別途パケット通信料がかかります。
- ・ 国際ローミングサービスご利用の際は、受信・詳細情報の閲覧共にパケット通信料がかかります。また、海外でご利用の場合は、国内でのパケット通信料と異なります。
- ・ i コンシェルを海外でご利用になる場合は海外利用設定が必要となります。
- ・ i スケジュール・メモ・トルカ・電話帳などの自動更新時には別途パケット通信料がかかります。

インフォメーションを受信する

- 1 インフォメーションを受信すると  が点滅し、待受画面に内容が表示される ▶ メッセージを選択 ▶ インフォメーションを選択

i コンシェルを表示する



- 1  ▶ i コンシェル ▶ インフォメーションー覧 ▶ インフォメーションを選択


便利ツール

しゃべって検索を利用する

音声で i モード検索を行います。


- ・ 初めて利用するときは、利用案内の画面で「利用する」を選択します。
- ・ ご利用には別途パケット通信料がかかります。

- 1  ▶ 便利ツール ▶ しゃべって検索
▶ バイブレーションが振動したら10秒以内で送話口に発声し、 (確定)

- ・  (確定) を押さなくても発声して約3秒後に自動的に確定されます。

音声クイック起動を利用する

音声で機能呼び出します。

- 初めて利用するときは、利用案内の画面で「利用する」を選択するか、 (開始) を押します。

1 (1秒以上) ▶ 「それではどうぞ ★★音声受付中★★」と表示されたら、10秒以内に送話口に機能を発声する

- 起動する機能が特定できない場合は、使いかたガイドで候補を検索します。

■しゃべって検索・音声クイック起動利用時のご注意

- なるべくはっきりと、自然な会話の速度で発声してください。
- 周囲の雑音の少ない、なるべく静かな場所で発声してください。
- ご利用になる環境や話しかたによって認識結果が異なる場合があります。

スケジュールを利用する

1 ▶ 便利ツール ▶ スケジュール

日付を選択すると選択した日付のスケジュールが表示されます。スケジュールを選択すると内容を確認できます。

2 (サブメニュー) ▶ 新規登録 ▶ 各項目を入力 ▶ (完了)

アラームを利用する

1 ▶ 便利ツール ▶ アラーム ▶ アラームを選んで (編集) ▶ 各項目を入力 ▶ (完了)

- 公共モード(ドライブモード)中、ダイヤルロック中、オリジナルロックで「アラーム」をロック中、おまかせロック中はアラーム音は鳴りません。

バーコードリーダーを利用する

カメラを使ってQRコードなどを読み取り、データとして登録できます。

データを使って電話をかけたり、i モードメールの作成、インターネット接続などができます。

■バーコードリーダーで読み取りを行うときは

- できるだけコードがガイド枠内に大きく写るようにします。
- オートフォーカスは約10cm以上の距離でフォーカスが合います。フォーカスが外れた状態で読み取りを行った場合は、認識率が低下します。
- コードに対してカメラが平行になるようにして読み取ってください。



■QRコードとは

縦・横方向でデータを表現している二次元コードの1つです。

- FOMA端末で読み取ると「株式会社NTTドコモ」と表示されます。



コード読み取り

<例> 右記のQRコードを利用して
P-SQUAREに接続する



サイト接続用QRコード

- 1 **メニュー** ▶ **便利ツール** ▶ **バーコードリーダー**
▶ **コード読み取り** ▶ **コードをガイド枠に合わせ、** **でフォーカスを合わせる**
▶ (**開始**) でコードを読み取る
読み取り結果としてURLが表示されます。

- 2 **URLを選択** ▶ **i モードで接続**


歩数計を利用する

FOMA端末を持ち歩いている間の歩数を計測し、計測結果に基づいて歩行距離や消費カロリー、脂肪燃焼量などを表示します。

歩数を計測するには、「▶ 便利ツール▶ 歩数計

▶  (サブメニュー) ▶ 歩数計設定」を「ON」に設定します。

・背面ディスプレイで歩数を確認することもできます。(P.26参照)

歩数計測履歴画面を表示中は、歩数は更新されません。
「▶ 便利ツール▶ 歩数計」の操作を行うごとに最新の状態に更新されます。

■歩数計利用時のご注意

- ・メイン時計設定を行っていない場合は、利用できません。
- ・キャリングケース 02(別売)に入れるときは、キャリングケースを腰のベルトなどに装着してください。
- ・かばんなどに入れるときは、固定できるポケットや仕切りの中に入れてください。

■計測について

- ・計測値はあくまで目安としてご活用ください。
- ・電源が入っていないときやソフトウェア更新中は計測されません。
- ・使用状況によっては、歩数が正確に計測されないことがあります。

1 ▶ 便利ツール▶ 歩数計

歩数の計測履歴が表示されます。

- ・サブメニューから歩数計のON / OFFを設定したり、ユーザ情報を設定したりできます。

Bluetooth機能

Bluetooth機器とワイヤレスで接続し、通話や音楽再生機能を利用できます。

Bluetooth機器をFOMA端末に登録する

Bluetooth機器を検索し、FOMA端末に登録します。あらかじめ、登録したいBluetooth機器を登録待機状態にしておきます。

＜例＞ワイヤレスイヤホンセット 03を登録してヘッドセットサービスで接続する

1 ▶ 便利ツール▶ Bluetooth ▶ 新規機器登録

2 「OK」を選択

3 ワイヤレスイヤホンセット 03を選択 ▶ 「YES」を選択

- ・ワイヤレスイヤホンセット 03以外のBluetooth機器を登録する場合は、「Bluetoothパスキー」を入力する必要があります。

4 「ヘッドセット」を選択

通話に利用するには「ヘッドセット」や「ハンズフリー」を選択します。

1 ▶ 便利ツール ▶ Bluetooth ▶ 登録機器リスト

2 Bluetooth機器を選択 ▶ 利用したいサービスを選択

データ管理

microSDカードを利用する

microSDカードをお持ちでない場合は、別途お求めいただく必要があります。

- ・P-01Hでは市販の2GバイトまでのmicroSDカード、32GバイトまでのmicroSDHCカードに対応しています。(2015年10月現在)
microSDカードの製造メーカーや容量など、最新の動作確認情報については下記のサイトをご覧ください。また、掲載されているmicroSDカード以外については、各microSDカードメーカーへお問い合わせください。

- ・i モードから
P-SQUARE(2015年10月現在)
i Menu→メニューリスト→ケータイ電話メーカー
→P-SQUARE

- ・パソコンから
<http://panasonic.jp/mobile/>

なお、掲載されている情報は動作確認の結果であり、すべての動作を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

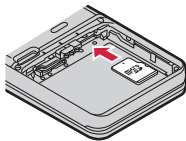
- ・microSDカードの取り付け／取り外しをするときは、必ずFOMA端末の電源を切ってから行ってください。

microSDカードを取り付ける／取り外す

- microSDカードの挿入箇所はリアカバー内部にあります。リアカバーを外したあと、電池パックを外してから取り付けを行ってください。

1 金属端子面を下にし、切り込みの部分が右側になっていることを確認して差し込む

- 「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。



microSDカードを取り外すときは

microSDカードをいったん奥まで押し込み、抜き取ります。

- microSDカードを取り付けたり取り外したりするときは、飛び出すことがありますのでご注意ください。

画面表示について



: microSDカード装着中

: データ読み込み／書き込み中
(microSDカードを抜いたり、FOMA端末の電源を切らないでください。)

: ライトプロテクトがかかっています。

: 使用不可
(microSDカードを取り付け直してください。それでも「」が表示される場合は、「microSDチェックディスク」または「microSDフォーマット」を行ってください。)

microSDカードのチェックをする

microSDカードのチェックを行い、修復します。

- microSDカードの状態により正常に修復できなかったり、データが削除されたり、初期化されることがあります。

1 ▶ 便利ツール ▶ microSD ▶ microSDデータ参照 ▶ (サブメニュー) ▶ microSDチェックディスク ▶ YES

microSDカードをフォーマットする

microSDカードを初めて利用するときには、フォーマット(初期化)する必要があります。

- ・フォーマットは必ずP-01Hで行ってください。パソコンなど他機器でフォーマットしたmicroSDカードは正常に使用できない場合があります。
- ・フォーマットを行うと、microSDカードの内容がすべて消去されますのでご注意ください。

1. ▶ 便利ツール ▶ microSD ▶ microSDデータ参照 ▶ (サブメニュー) ▶ microSDフォーマット ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ YES

データをmicroSDカードへコピーする

<例>静止画を1件コピーする

1. ▶ データBOX ▶ マイピクチャ ▶ フォルダを選択 ▶ コピーしたい画像を選んで (サブメニュー) ▶ microSDへコピー ▶ 1件コピー
2. 保存したいフォルダを選択

- ・第2階層目以降にフォルダがある場合は、 (カメラ) を押すと表示できます。上の階層に戻すには を押します。

データをFOMA端末へコピーする

<例>静止画を1件コピーする

1. ▶ データBOX ▶ マイピクチャ ▶ (microSD) ▶ フォルダを選択 ▶ コピーしたい画像を選んで (サブメニュー) ▶ 本体へコピー ▶ 1件コピー ▶ 保存したいフォルダを選択

microSDカード内のデータを表示する

<例>静止画を表示する

1. ▶ データBOX ▶ マイピクチャ ▶ (microSD) ▶ フォルダを選択 ▶ 画像を選択

保存容量を確認するときは

microSDカード全体の容量と保存容量(目安)を表示します。

1. ▶ 便利ツール ▶ microSD ▶ microSDデータ参照 ▶ (サブメニュー) ▶ microSD情報表示

データをmicroSDカードにバックアップする

FOMA端末内に登録している電話帳、スケジュール、メール、メモ、Bookmark、FOMA端末の設定内容・情報を一括してmicroSDカードにバックアップします。バックアップデータをFOMA端末に復元する場合も一括して復元します。

- バックアップはバックアップ項目のデータすべてを一括して行うため、データが1件も登録されていない項目もバックアップデータが作成されます。そのようなバックアップデータを復元した場合、バックアップ時にデータが1件も登録されていない項目についても上書きされます。

1 (メニュー) ▶ 便利ツール ▶ microSD ▶ バックアップ／復元 ▶ microSDへバックアップ ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ YES

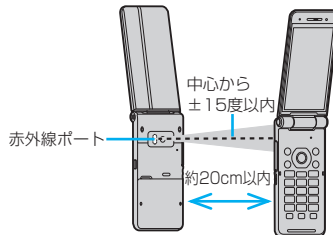
バックアップデータをFOMA端末に復元するには

1. (メニュー) ▶ 便利ツール ▶ microSD ▶ バックアップ／復元 ▶ 本体へ復元 ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ YES

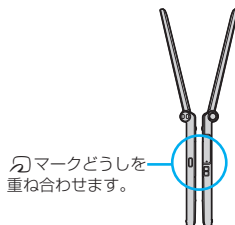
赤外線通信／iC通信を利用してデータを送受信する

赤外線通信機能、iC通信機能を持つ機器との間で電話帳などのデータを送受信できます。

- 相手機器、FOMA端末によっては送受信できないデータがあります。



<赤外線通信>



<iC通信>

データを送信する

- 赤外線通信の場合、受信側を先に設定し、60秒以内に送信側の送信を開始します。

1 送信したいデータのサブメニュー

▶「赤外線送信」または「iC送信」▶ YES

- データによっては操作が異なる場合があります。

赤外線通信でデータを受信する

1 ▶ 便利ツール▶ 赤外線受信▶ 受信▶ YES

iC通信でデータを受信する

1 待受画面を表示した受信側端末の マークと送信側端末の マークを重ね合わせる

2 「YES」を選択

パソコンと接続する

FOMA端末とパソコンを接続しmicroSDカード内のWMAファイルや画像などをやりとりすることができます。

また、インターネットへ接続してデータ通信を行うこともできます。

※FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)が必要です。

※データ通信を行うには、「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をインストールする必要があります。詳しくは「パソコン接続マニュアル」をご覧ください。「FOMA通信設定ファイル」と「パソコン接続マニュアル」は、ドコモのホームページからダウンロードできます。

<https://www.nttdocomo.co.jp/support/>

サポート

故障かな？と思ったら

- まずはじめに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください。ソフトウェア更新についてはP.77参照。
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

電源

FOMA端末の電源が入らない

- …電池パックが正しく取り付けられていますか。(P.21参照)
- …電池切れになっていませんか。(P.22参照)

充電

充電ができない

(着信／充電ランプが点灯しない、または点滅する)

- …電池パックが正しく取り付けられていますか。(P.21参照)
- …アダプタの電源プラグやシガーライタープラグがコンセントまたはシガーライターソケットに正しく差し込まれていますか。
- …アダプタとFOMA端末が正しくセットされていますか。(P.22参照)
- …ACアダプタ(別売)をご使用の場合、ACアダプタのコネクタがFOMA端末または付属の卓上ホルダにしっかりと接続されていますか。(P.22参照)
- …卓上ホルダを使用する場合、FOMA端末の充電端子は汚れていませんか。汚れているときは、端子部分を乾いた綿棒などで拭いてください。
- …充電しながら通話や通信、その他機能の操作を長時間行くと、FOMA端末の温度が上昇して着信／充電ランプが点滅する場合があります。その場合は、FOMA端末の温度が下がってから再度充電を行ってください。(P.22参照)
- …適正な周囲温度以外の場所では、充電が開始されなかったり、フル充電にならない場合があります。その場合は、周囲温度を確認して、再度充電を行ってください。(P.22参照)

端末操作

操作中・充電中に熱くなる

- …操作中や充電中、また、充電しながら
i アプリやテレビ電話、ワンセグ視聴などを長時間行った場合などには、FOMA端末や電池パック、アダプタが温かくなることがありますが、動作上問題ありませんので、そのままご使用ください。

電池の使用時間が短い

- …圏外の状態で長時間放置するようになるとはありませんか。圏外時は通信可能な状態になるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。
- …電池パックの使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。
- …電池パックは消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、指定の電池パックをお買い求めください。

電源断・再起動が起きる

- …電池パックの端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れることがあります。汚れているときは、電池パックの端子を乾いた綿棒などで拭いてください。

ボタンを押しても動作しない

- …ダイヤルロックを設定していませんか。(P.39参照)
- …キーロックを設定していませんか。(P.39参照)
- …サイドボタン設定を「閉じた時無効」に設定していませんか。

ドコモminiUIMカードが認識されない

- …ドコモminiUIMカードを正しい向きで挿入していますか。(P.21参照)

時計がずれる

- …長い間電源を入れた状態にしていると時計がずれる場合があります。メイン時計設定の「自動時刻時差補正」で「時刻補正」や「時差補正」が「自動」に設定されているかを確認し、電波のよい場所で電源を入れ直してください。

通話

ダイヤルボタンを押しても発信できない

- …指定発信制限を設定していませんか。
- …オリジナルロックで「ダイヤル発信」をロックしていませんか。(P.39参照)
- …ダイヤルロックを設定していませんか。(P.39参照)
- …セルフモードを設定していませんか。

通話ができない

(場所を移動しても「圏外」の表示が消えない、電波の状態は悪くないのに発信または着信ができない)

- …電源を入れ直すか、電池パックまたはドコモminiUIMカードを入れ直してください。(P.21、P.23参照)
- …電波の性質により、「圏外ではない」「電波状態は」を表示している状態でも発信や着信ができない場合があります。場所を移動してかけ直してください。
- …指定着信拒否、指定着信許可など着信制限を設定していませんか。
- …電波の混み具合により、多くの人が集まる場所では電話やメールが混み合い、つながりにくい場合があります。その場合は「しばらくお待ちください」と表示され、話中音が流れます。場所を移動するか、時間をずらしてかけ直してください。

カメラ

カメラで撮影した静止画や動画がぼやける

- …近くの被写体を撮影するときは、フォーカスモードを「マクロ」に設定してください。
- …人物を撮影するときは、フォーカスモードを「顔認識」に設定してください。
- …手ブレ補正を「オート」に設定して撮影してください。
- …カメラのレンズにくもりや汚れが付着していないかを確認してください。

おサイフケータイ

おサイフケータイが使えない

- …電池パックを取り外したり、おまかせロックを起動したりすると、ICカードロックの設定に関わらずICカード機能が利用できなくなります。(P.21、P.39参照)
- …ICカードロックを起動していませんか。(P.39参照)
- …FOMA端末のマークがある位置を読み取り機にかざしていますか。(P.63参照)

保証とアフターサービス

保証について

- ・ FOMA端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
※ リアカバー P63、卓上ホルダ P55、電池パック P32は無料修理保証の対象外となります。
- ・ 本FOMA端末の仕様および外観は、付属品を含め、改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

◎調子が悪い場合

修理を依頼される前に、本書または本FOMA端末に搭載の「使いかたガイド」の「故障かな?と思ったら」をご覧ください。それでも調子がよくないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

◎お問い合わせの結果、修理が必要な場合

ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただけます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■保証期間内は

- ・ 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- ・ 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良(外部接続端子(イヤホンマイク端子)・ディスプレイなどの破損)による故障・損傷、ドコモ指定の故障取扱窓口以外で修理を行ったことがある場合などは有料修理となります。
- ・ ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

■以下の場合、修理できないことがあります。

- ・ お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や内部の基板が破損・変形していた場合(外部接続端子(イヤホンマイク端子)・ディスプレイなどの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります)
- ・ ドコモ指定の故障取扱窓口以外で修理を行ったことがある場合

※修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

■保証期間が過ぎたときは

ご要望により有料修理いたします。

■ 部品の保有期間は

FOMA端末の補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打切り後4年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

◎お願い

- FOMA端末および付属品の改造はおやめください。
 - ・ 改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。
- ・ 以下のような場合は改造とみなされる場合があります。
 - ・ ディスプレイ部やボタン部にシールなどを貼る
 - ・ 接着剤などによりFOMA端末に装飾を施す
 - ・ 外装などをドコモ純正品以外のものに交換するなど
- ・ 改造が原因による故障・損傷の場合は、保証期間内であっても有料修理となります。

- FOMA端末に貼付されている銘板シールは、はがさないでください。
銘板シールには、技術基準を満たす証明書の役割があり、銘板シールが故意にはがされたり、貼り替えられた場合など、銘板シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意願います。
- 各種機能の設定などの情報は、FOMA端末の故障・修理やその他お取り扱いによって、クリア(リセット)される場合があります。お手数をおかけしますが、この場合は再度設定を行ってくださいようお願いいたします。
- 修理を実施した場合には、故障箇所に関係なく、Bluetoothアドレスが変更される場合があります。

- FOMA端末の以下の箇所に磁気を発生する部品を使用しています。キャッシュカードなど磁気の影響を受けやすいものを近づけますとカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。
使用箇所: スピーカー、受話口部
- 本FOMA端末は防水性能を有しておりますが、FOMA端末内部が濡れたり湿気を帯びてしまった場合は、すぐに電源を切って電池パックを外し、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし、FOMA端末の状態によって修理できないことがあります。

端末エラー情報送信設定

FOMA端末にエラーが発生した場合、「ON」に設定していると自動的にエラー情報が作成され、ドコモに送信されます。

- 1  ▶ 本体設定 ▶ その他設定 ▶ 端末エラー情報送信設定 ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ON・OFF

ソフトウェア更新

FOMA端末のソフトウェアを更新する必要があるかどうかネットワークに接続して確認し、必要な場合にはパケット通信を使ってソフトウェアの一部をダウンロードし、ソフトウェアを更新する機能です。

ソフトウェア更新が必要な場合は、ドコモのホームページおよび i Menu の「お客様サポート」にてご案内いたします。更新方法には、「自動更新」、「即時更新」、「予約更新」の3種類があります。

- ソフトウェア更新は、FOMA 端末に登録された電話帳、カメラ画像、ダウンロードデータなどのデータを残したまま行うことができますが、お客様の FOMA 端末の状態（故障・破損・水濡れなど）によってはデータの保護ができない場合がございますので、あらかじめご了承ください。必要なデータはバックアップを取っていただくことをおすすめします。ただし、ダウンロードデータなどバックアップが取れないデータがありますので、あらかじめご了承ください。

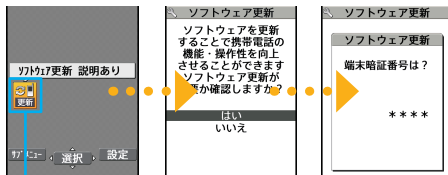
■ご利用にあたって

- ソフトウェア更新中は電池パックを外さないでください。更新に失敗することがあります。
- ソフトウェア更新を行う際は、電池をフル充電しておいてください。
- ソフトウェア更新（ダウンロード、書き換え）には時間がかかることがあります。
- ソフトウェア更新中は、電話の発信、着信、各種通信機能およびその他の機能を利用できません。（ダウンロード中は音声着信が可能です。）

- ・ソフトウェア更新は、電波が強く、アンテナマークが3本表示されている状態で、移動せずに実行することをおすすめします。ソフトウェアダウンロード中に電波状態が悪くなったり、ダウンロードが中止された場合は、再度電波状態の良い場所でソフトウェア更新を行ってください。
- ・ソフトウェア更新の際、お客様のFOMA端末固有の情報(機種や製造番号など)が、自動的にサーバー(当社が管理するソフトウェア更新用サーバー)に送信されます。当社は送信された情報を、ソフトウェア更新以外の目的には利用いたしません。
- ・ソフトウェア更新に失敗した場合、「書換え失敗しました」と表示され、一切の操作ができなくなります。その場合には、大変お手数ですがドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただけますようお願いいたします。

アイコンからソフトウェアを更新する

1 待受画面で「更新お知らせアイコン」を選択

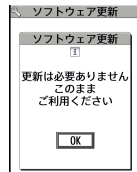
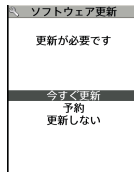


更新お知らせアイコン

ソフトウェア更新が必要かどうかをチェックします。

2 ソフトウェア更新が必要な場合には「更新が必要です」と表示され、「今すぐ更新」するか「予約」するかを選択できます。

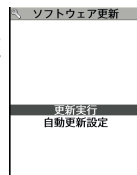
- ・「今すぐ更新」を選択した場合は、すぐに更新を行います。
- ・書き換えが終了すると、自動的に再起動し、更新完了の確認画面が表示されます。



- ・「予約」を選択した場合は、希望日時を選択できます。

メニューからソフトウェアを更新する

- ### 1
- ① メニュー ▶ 本体設定 ▶ その他設定 ▶ ソフトウェア更新 ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ 更新実行



2 P.78「アイコンからソフトウェアを更新する」手順2へ進みます。

スキャン機能

FOMA端末に取り込んだデータやプログラムについて、データを検知して、障害を引き起こす可能性を含むデータの削除やアプリケーションの起動を中止します。

- スキャン機能は、ホームページの閲覧やメール受信などの際にFOMA端末に何らかの障害を引き起こすデータの侵入から一定の防衛手段を提供する機能です。各障害に対応したパターンデータがFOMA端末にダウンロードされていない場合、または各障害に対応したパターンデータが存在しない場合、本機能にて障害などの発生を防げませんのであらかじめご了承ください。

パターンデータ更新

まず初めに、パターンデータの更新を行い、パターンデータを最新にしてください。

1. ▶ 本体設定 ▶ ロック・セキュリティ ▶ スキャン機能
▶ パターンデータ更新 ▶ YES ▶ YES

スキャン結果の表示

■ スキャンされた問題要素の表示について

スキャン機能
以下の問題を検出しました
問題要素名 1
問題要素名 2
問題要素名 3
問題要素名 4
問題要素名 5
他XXXX件

障害を引き起こす可能性を含むデータがあった場合は警告画面が表示されます。警告画面で (詳細) を押すと問題要素の名前が表示されます。

- 問題要素が6個以上検出された場合は、6個目以降の問題要素名は省略されます。
- 検出した問題要素によっては、「詳細」が表示されない場合があります。

■ スキャン結果の表示について

警告レベル0	スキャン機能 正常に動作できない 場合があります	(OK) を押すと、動作を継続します。
警告レベル1	スキャン機能 正常に動作できない 場合があります 動作を中止しますか？	(YES) を押すと、動作を中止して終了します。 (NO) を押すと、動作を継続します。
警告レベル2	スキャン機能 正常に動作できない 場合があるため 終了します	(OK) を押すと、動作を中止して終了します。
警告レベル3	スキャン機能 正常に動作できない 場合があります データを削除しますか？	(YES) を押すと、データを削除して終了します。 (NO) を押すと、動作を中止して終了します。
警告レベル4	スキャン機能 正常に動作できないため データを削除します	(OK) を押すと、データを削除して終了します。

- 上記以外の警告画面が表示される場合もあります。

携帯電話機の比吸収率など

携帯電話機の比吸収率(SAR)

この機種P-01Hの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準※¹ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)で定めており、携帯電話機に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.911W/kg※²、身体に装着した場合のSARの最大値は0.542W/kg※³です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもあります。が、いずれも許容値を満足しています。

携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、携帯電話機の出力は小さくなります。この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用するなどして、身体から1.5センチ以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにしてください。このことにより、本携帯電話機が国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合していることを確認しています。

世界保健機関は、『携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_japanese.htm

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ:

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>

一般社団法人電波産業会のホームページ:

<http://www.arib-emf.org/O1denpa/denpa02-02.html>

ドコモのホームページ:

<https://www.nttdocomo.co.jp/product/sar/>

パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社のホームページ:

<http://panasonic.jp/mobile/support/>

- ※1 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。
- ※2 同時に使用可能な無線機能を持つ携帯電話機本体を側頭部でご使用になる場合のSAR測定法については、平成27年7月に、諮問第118号に関して情報通信審議会情報通信技術分科会より一部答申がなされており、これに基づいて評価した場合においてもSARが許容値を満足していることを確認しています。
- ※3 FOMAと同時に使用可能な無線機能を含みません。

Specific Absorption Rate (SAR) of Mobile Phones

This model P-01H mobile phone complies with Japanese technical regulations and international guidelines regarding exposure to radio waves.

This mobile phone was designed in observance of Japanese technical regulations regarding exposure to radio waves^{※1} and limits to exposure to radio waves recommended by a set of equivalent international guidelines. This set of international guidelines was set out by the International Commission on Non-ionizing Radiation Protection (ICNIRP), which is in collaboration with the World Health Organization (WHO), and the permissible limits include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health condition. The technical regulations and international guidelines set out limits for radio waves as the Specific Absorption Rate, or SAR, which is the value of absorbed energy in any 10 grams of tissue over a 6-minute period. The SAR limit for mobile phones is 2.0 W/kg.

The highest SAR value for this mobile phone when tested for use at the ear is 0.911 W/kg^{※2} and when worn on the body is 0.542 W/kg^{※3}.

There may be slight differences between the SAR levels for each product, but they all satisfy the limit.

The actual SAR of this mobile phone while operating can be well below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum required to reach the network. Therefore in general, the closer you are to a base station, the lower the power output of the device.

This mobile phone can be used in positions other than against your ear. Please keep the mobile phone farther than 1.5 cm away from your body by using such as a carrying case or a wearable accessory without including any metals. This mobile phone satisfies the technical regulations and international guidelines.

The World Health Organization has stated that "a large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

Please refer to the WHO website if you would like more detailed information.

http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_english.htm

Please refer to the websites listed below if you would like more detailed information regarding SAR.

Ministry of Internal Affairs and Communications Website:

<http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/index.htm>

Association of Radio Industries and Businesses Website:

<http://www.arib-empf.org/01denpa/denpa02-02.html>

(In Japanese only)

NTT DOCOMO, INC. Website:

<https://www.nttdocomo.co.jp/english/product/sar/>

Panasonic Mobile Communications Co., Ltd. Website:

<http://panasonic.jp/mobile/support/>
(In Japanese only)

- ※1 Technical regulations are defined by the Ministerial Ordinance Related to Radio Law (Article 14-2 of Radio Equipment Regulations).
- ※2 In regards to methods of measuring SAR when using mobile phones having multiple wireless devices to be able to function simultaneously at the ear, in July of 2015, a portion of advisory 118 was reported on based upon the Information and Communications Council. SAR value when evaluated based on the report is also under the SAR limit.
- ※3 Not including other radio systems that can be simultaneously used with FOMA.

European RF Exposure Information

This mobile phone complies with the EU requirements for exposure to radio waves. Your mobile phone is a radio transceiver, designed and manufactured not to exceed the SAR* limits** for exposure to radio-frequency (RF) energy, which SAR* values, when tested for compliance against the standard are 0.924 W/kg for head configuration and 0.354 W/kg for body worn configuration.

While there may be differences between the SAR* levels of various phones and at various positions, they all meet*** the EU requirements for RF exposure.

* The exposure standard for mobile phones employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

** The SAR limit for mobile phones used by the public is 2.0 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue, recommended by The Council of the European Union. The limit incorporates a substantial margin of safety to give additional protection for the public and to account for any variations in measurements.

*** Tests for SAR have been conducted using standard operating positions with the phone transmitting at its highest certified power level in all tested frequency bands. This mobile phone meets the RF exposure guidelines for body worn operation when positioned at least 1.5 cm from the body. Accessories used for body worn operation must not contain metal and should position the mobile phone at least the distance stated above. Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR level of the phone while operating can be well below the maximum value. This is because the phone is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a base station antenna, the lower the power output.

Declaration of Conformity

CE0168

The product "P-01H" is declared to conform with the essential requirements of European Union Directive 1999/5/EC Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive 3.1(a), 3.1(b) and 3.2. The Declaration of Conformity can be found on <http://panasonic.jp/mobile/support/>.

※The European RTTE approval of this product is limited to the use of the P-01H handset, Battery Pack and FOMA AC Adapter 01 for Global use (100 to 240 V AC) only. Other accessories are not part of the approval.

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:
 - (1) This device may not cause harmful interference, and
 - (2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

FCC RF Exposure Information

This model phone meets the U.S. government's requirements for exposure to radio waves.

Your wireless phone contains a radio transmitter and receiver. Your phone is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government. These limits are part of comprehensive guidelines and establish permitted levels of RF energy for the general population. The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The exposure standard for wireless mobile phones employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate (SAR).

The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.* Tests for SAR are conducted using standard operating positions accepted by the FCC with the phone transmitting at its highest certified power level in all tested frequency bands. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR level of the phone while operating can be well below the maximum value. This is because the phone is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a wireless base station antenna, the lower the output.

Before a phone model is available for sale to the public, it must be tested and certified to the FCC that it does not exceed the limit established by the U.S. government-adopted requirement for safe exposure. The tests are performed in various positions and locations (for example, at the ear and worn on the body) as required by FCC for each model. The highest SAR value for this model phone as reported to the FCC when tested for use at the ear is 0.719 W/kg, and when worn on the body in a holster or carry case, is 1.452 W/kg. (Body-worn measurements differ among phone models, depending upon available accessories and FCC requirements). While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, they all meet the U.S. government requirement.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model phone with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF exposure guidelines. SAR information on this model phone is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section at <http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/> after search on FCC ID UCE115064A.

For body worn operation, this phone has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines. Please use an accessory designated for this product or an accessory which contains no metal and which positions the handset a minimum of 1.5 cm from the body.

* In the United States, the SAR limit for wireless mobile phones used by the public is 1.6 watts/kg (W/kg) averaged over one gram of tissue. SAR values may vary depending upon national reporting requirements and the network band.

Important Safety Information

Aircraft

Switch off your wireless device when boarding an aircraft or whenever you are instructed to do so by airline staff. If your device offers a 'flight mode' or similar feature consult airline staff as to whether it can be used on board.

Driving

Full attention should be given to driving at all times and local laws and regulations restricting the use of wireless devices while driving must be observed.

Hospitals

Mobile phones should be switched off wherever you are requested to do so in hospitals, clinics or health care facilities. These requests are designed to prevent possible interference with sensitive medical equipment.

Petrol Stations

Obey all posted signs with respect to the use of wireless devices or other radio equipment in locations with flammable material and chemicals. Switch off your wireless device whenever you are instructed to do so by authorized staff.

Interference

Care must be taken when using the phone in close proximity to personal medical devices, such as pacemakers and hearing aids.

Pacemakers

Pacemaker manufacturers recommend that a minimum separation of 15 cm be maintained between a mobile phone and a pacemaker to avoid potential interference with the pacemaker. To achieve this use the phone on the opposite ear to your pacemaker and do not carry it in a breast pocket.

Hearing Aids

Some digital wireless phones may interfere with some hearing aids. In the event of such interference, you may want to consult your hearing aid manufacturer to discuss alternatives.

Other Medical Devices

Please consult your physician and the device manufacturer to determine if operation of your phone may interfere with the operation of your medical device.

Battery

- Do not use/store battery in extremely low/high temperatures.
Recommended operating temperature: 5°C to 35°C
- Tape over terminals to insulate Battery. Comply with local waste disposal regulations.
- Use the following voltage/current when charging.
Voltage: 4.20V±0.05V, current: 850mA (MAX)

輸出管理規制

本製品および付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」およびその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。本製品および付属品を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

知的財産権

著作権・肖像権

お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。

実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害するおそれがありますのでお控えください。

商標

・「FOMA」「i モード」「i アプリ」「i モーション」「i Menu」「デコメール®」「デコメビクチャ」「デコメ®」「デコメ絵文字®」「キャラ電」「トルカ」「きせかえツール」「おまかせロック」「WORLD CALL」「i チャネル」「おサイフケータイ」「かざしてリンク」「セキュリティスキャン」「WORLD WING」「メッセージF」「マルチナンバー」「マチキャラ」「2in1」「メロディコール」「エリアメール」「デコメアニメ®」「i コンシェル」「i ウィジェット」「i スケジュール」「MyFACE」「dマーケット」および「i-mode」ロゴ「i アプリ」ロゴ「i チャネル」ロゴ「i ウィジェット」ロゴ「i コンシェル」ロゴ「ecoモード」ロゴ「i Bodymo」ロゴ「ドコモ地図ナビ」ロゴ「dマーケット」ロゴは（株）NTTドコモの商標または登録商標です。

・「キャッチホン」は日本電信電話株式会社の登録商標です。
・ロヴィ、Rovi、Gガイド、G-GUIDE、Gガイドモバイル、G-GUIDE MOBILE、およびGガイド関連ロゴは、米国Rovi Corporationおよび/またはその関連会社の日本国内における商標または登録商標です。
・QuickTimeは、米国および他の国々で登録された米国Apple Inc.の登録商標です。
・Powered by JBlend™ Copyright 2002-2015 Aplix Corporation. All rights reserved. JBlendは、日本およびその他の国における株式会社アプリックスの商標または登録商標です。



・はフェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
・microSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。



・「マルチタスク／Multitask」は日本電気株式会社の登録商標です。
・「AXISフォント」は株式会社アクシスの登録商標です。また、「AXIS」フォントはタイププロジェクト株式会社が制作したフォントです。

・本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browser, NetFront Document Viewer, NetFront Sync Clientを搭載しています。ACCESS、ACCESSロゴ、NetFrontは、日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。Copyright © 2015 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.



本製品の一部分にIndependent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。

・QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
・Google は、Google Inc. の登録商標です。
・「ブルーレイディスク」「ブルーレイ」はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

・その他本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

その他

- 本製品はAdobe Systems IncorporatedのAdobe® Flash® Lite®およびAdobe Reader® Mobile テクノロジーを搭載しています。
Adobe Flash Lite Copyright © 2003-2015 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
Adobe Reader Mobile Copyright © 1993-2015 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
Adobe, Adobe Reader, Flash, および Flash LiteはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。

- 本製品にはGNU General Public License (GPL v2), GNU Lesser General Public License (LGPL)その他に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPL v2またはLGPLに従い、複製、頒布及び改変することができます。
本製品の引渡から少なくとも3年間、パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社は以下の問い合わせ先にお問い合わせされた方に、配布に要する実費をご負担いただくことを条件として、機器による読取が可能なGPL v2/LGPLが適用されるソースコードの複製物を提供いたします。
＜お問い合わせ先＞
pmc-cs@gg.jp.panasonic.com
また、ソースコードは以下のウェブサイト経由で入手することもできます。
<http://panasonic.jp/mobile/gpl/>
なお、ソースコードの内容等についてのご質問にはお答えしかねますので、予めご了承ください。携帯電話からのダウンロードは行えません。ダウンロードはお手持ちのパソコンをご利用ください。当該ソフトウェアに関する詳細 (GPL v2/LGPLの各ライセンス文含む) は、メインメニュー→「データBOX」→「マイドキュメント」→「i モード」→「GPL/LGPLライセンス説明」の手順で確認することができます。
- iWnn © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2008-2012 All Rights Reserved.
- テキストプロファイラはオムロン株式会社の商標です。

- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- 本製品は、MPEG-4 Patent Portfolio License及びAVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、以下に記載する行為に係るお客様の個人的かつ非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
 - 画像情報をMPEG-4 Visual, AVC規格に準拠して (以下、MPEG-4/AVCビデオ) を記録すること。
 - 個人的活動に従事する消費者によって記録されたMPEG-4/AVCビデオ、または、ライセンスをうけた提供者から入手したMPEG-4/AVCビデオを再生すること。詳細についてはMPEG LA, L.L.C. (<http://www.mpegla.com>) をご参照ください。
- 本製品は、InterDigital Technology社からのライセンスに基づき生産・販売されています。

- 本書では各OS(日本語版)を次のように略して表記しています。
Windows 10は、Microsoft® Windows® 10 Home、Microsoft® Windows® 10 Pro、Microsoft® Windows® 10 Enterpriseの略です。
Windows 8.1は、Microsoft® Windows® 8.1、Microsoft® Windows® 8.1 Pro、Microsoft® Windows® 8.1 Enterpriseの略です。
Windows 8は、Microsoft® Windows® 8、Microsoft® Windows® 8 Pro、Microsoft® Windows® 8 Enterpriseの略です。
Windows 7は、Microsoft® Windows® 7 (Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate)の略です。
Windows Vistaは、Windows Vista® (Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate)の略です。
- 本製品に搭載しているWindows Media Technologyはマイクロソフト社及び第三者の知的財産権により保護されています。本製品以外にマイクロソフト社及びその関連会社の許可なくその技術を使用すること及び頒布することは禁止されています。
- 「PRINT Image Matching」
「PRINT Image Matching II」
「PRINT Image Matching III」
に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。



- The HMM-Based Speech Synthesis Engine embedded in this product uses the Simplified BSD License.

The HMM-Based Speech Synthesis System (HTS)
hts_engine API developed by HTS Working Group
<http://hts-engine.sourceforge.net/>

Copyright ©
2001-2010 Nagoya Institute of Technology, Department of Computer Science
2001-2008 Tokyo Institute of Technology, Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering
All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- Neither the name of the HTS working group nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

SIMロック解除

本FOMA端末はSIMロック解除に対応しています。SIMロックを解除すると他社のSIMカードを使用することができます。

- ご利用になれるサービス、機能などが制限される場合があります。当社では、一切の動作保証はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- SIMロック解除の手続きの詳細については、ドコモのホームページをご確認ください。

MEMO

その他

MEMO

その他

MEMO

MEMO

その他

索引

あ

アフターサービス.....	75
アラーム.....	65
暗証番号.....	37
アンテナ.....	4
イヤホン.....	4
イルミネーション設定.....	35
エコナビ.....	25
エリアメール.....	50
屋外モード.....	34
おサイフケータイ.....	63
お知らせアイコン.....	25
おまかせロック.....	39
オリジナルマナー.....	33
オリジナルロック.....	39
音声クイック起動.....	65

か

海外利用.....	46
外部接続端子.....	4
外部接続端子カバー.....	18
各部の名称と機能.....	3
カメラ.....	4, 55
画面メモ.....	54
キーロック.....	39
きせかえツール.....	35
キャッチホン.....	45
緊急速報「エリアメール」.....	50
緊急通報.....	46

圏外表示.....	24
公共モード(電源OFF).....	44
公共モード(ドライブモード).....	44
国際電話.....	43
国際ローミング.....	46
故障かな?と思ったら.....	73
コマンドナビゲーションボタン.....	27

さ

材質一覧.....	13
サイト接続.....	52
撮影画面.....	55
サブメニュー.....	28
局番号.....	23
視聴画面.....	58
視聴予約.....	59
自動振分け設定.....	49
しゃべって検索.....	64
充電.....	22
充電端子.....	4
受話音量.....	43
受話口.....	3
肖像権.....	85
状態表示アイコン.....	24
省電力モード.....	34
商標.....	85
照明設定.....	34
ショットカット.....	31
初期設定.....	23

シンプルメニュー.....	28
スキャン機能.....	79
スケジュール.....	65
ストラップ取り付け穴.....	4
スピーカー.....	4
静止画撮影.....	55
静止画表示.....	56
赤外線通信.....	71
赤外線ポート.....	4, 71
セキュリティスキャン機能 (スキャン機能).....	79
設定リセット.....	41
セルフタイマー撮影.....	56
送話口.....	3
ソフトウェア更新.....	77

た

ダイヤルボタン.....	3
ダイヤルロック.....	39
卓上ホルダ.....	22
端末暗証番号.....	37
端末エラー情報送信設定.....	77
端末初期化.....	41
知的財産権.....	85
着信音選択.....	33
着信音量.....	33
着信拒否設定.....	40
着信／充電ランプ.....	4
チャンネル設定.....	58

著作権	85
使いかたガイド	31
ディスプレイ	3, 24
デコメアニメ®	49
デコメール®	48
テレビ電話を受ける	43
テレビ電話をかける	42
電源ON / OFF	23
伝言メモ	43
転送でんわサービス	45
電池残量	24
電池パック	21
充電	22
取り付けかた／取り外しかた	21
電波の受信レベル	24
電話帳	51
電話帳検索	42
電話帳削除	51
電話帳登録	51
電話帳編集	51
電話を受ける	43
電話をかける	42
動画再生	56, 62
動画撮影	55
ドコモminiUIカード	21
トルカ	63

な

ナビゲーション表示	27
ネットワーク暗証番号	37
ネットワークサービス	44

は

バーコードリーダー	66
バイブレータ設定	33
背面ディスプレイ	4, 26
パソコン接続	72
パターンデータ更新	79
発信者番号通知	23
発着信一覧	42
光センサー	3
比吸収率	80
ビクチャアルバム	56
ビデオ	59
ビデオ録画	59
ビュープラインド	35
フルブラウザ	53
プロフィール	23
防水／防塵性能	17
保証	75
歩数計	67
ボタン確認音	34
ボタン機能有効／無効設定	36
保留	42

ま

待受画面	28
待受画面設定	34
待受ショートカット	25
マチキャラ設定	35
マナーモード	33
マルチワンタッチ機能	29
マルチワンタッチボタン	3, 29

水抜き	20
みまもりメール	40
ミュージックプレーヤー	60
メインメニュー	28
メール	48
メール／メッセージ問合せ	49
メニューアイコン	28
文字サイズ	35
文字入力	32
絵文字	32
改行	32
顔文字	32
記号	32

や

輸出管理規制	85
--------	----

ら

リアカバー	4
留守番電話サービス	45
連写撮影	56
録画予約	59

わ

ワンセグ	57
ワンセグアンテナ	4
ワンプッシュオープンボタン	4

英数字

ACアダプタ	22
Bluetoothアンテナ	4

Bluetooth機能.....	67	PIN1コード.....	38
Bookmark.....	54	PIN1コード入力設定.....	38
docomo Palette UI.....	30	PIN2コード.....	38
ecoモード.....	36	PINロック解除コード.....	38
ecoモード自動起動設定.....	36	QRコード.....	66
ecoモード設定.....	36	SAR.....	80
FeliCa.....	4, 63, 71	SMS.....	50
おサイフケータイ.....	63	作成.....	50
FOMAアンテナ.....	4	受信.....	50
ICカードロック.....	39	送信.....	50
iC通信.....	71	WMAファイル.....	59
i アプリ.....	61	WORLD CALL.....	43
i ウィジェット.....	61	WORLD WING.....	46
i コンシェル.....	64		
i チャンネル.....	54		
i モーション.....	62		
i モード.....	52		
i モードパスワード.....	37		
i モードメール.....	48		
作成.....	48		
受信.....	49		
送信.....	48		
転送.....	49		
返信.....	49		
microSDカード.....	68		
コピー.....	70		
チェックディスク.....	69		
取り付けかた／取り外しかた.....	69		
バックアップ／復元.....	71		
フォーマット.....	70		
MyFACE.....	30		



マナーもいっしょに携帯しましょう

公共の場所で携帯電話をご利用の際は周囲への心くばりを忘れずに。

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■使用禁止の場所にいる場合

- 航空機内や病院では、各航空会社または各医療機関の指示に従ってください。使用を禁止されている場所では、電源を切ってください。

こんな場合は公共モードに設定しましょう

■運転中の場合

- 運転中にFOMA端末を手で保持しての使用は罰則の対象となります。傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合を除きます。

■劇場・映画館・美術館など、公共の場所にいる場合

プライバシーに配慮しましょう

- カメラ付き端末を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。



ドコモの環境への取り組み

取扱説明書の薄型化

本書では、基本的な機能の操作について説明することにより、取扱説明書の薄型化を図り、紙の使用量を削減いたしました。よく使われる機能や詳しい説明については、使いかたガイド(本FOMA端末に搭載)やドコモのホームページでご確認いただけます。

携帯電話の回収・リサイクル



モバイルリサイクルネットワーク
携帯電話 FOMAのFOMAリサイクルマーク

ご不要になった携帯電話などは、自社・他社製品を問わず回収をしていますので、お近くのドコモショップへお持ちください。

※回収対象：携帯電話、PHS、電池パック、充電器、卓上ホルダ(自社・他社製品を問わず回収)

※ この印刷物はリサイクルに配慮して製本されています。不要となった際は、回収、リサイクルに出しましょう。

オンラインでの各種手続き・ご契約内容の確認など

FOMA端末から

i Menu ▶ お客様サポート ▶ お申込・お手続き ▶ ドコモオンライン手続き（パケット通信料無料）

※海外からのご利用など、一部有料となる場合があります。

パソコンから

My docomo (<https://www.nttdocomo.co.jp/mydocomo/>) ▶ 「ドコモオンライン手続き」内の項目を選択

- システムメンテナンスやご契約内容などにより、ご利用になれない場合があります。
- 「ドコモオンライン手続き」のご利用には、「ネットワーク暗証番号」や「ID / パスワード」が必要です。

海外での紛失、盗難、故障および各種お問い合わせ先(24時間受付)

■ ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話
アクセス番号

-81-3-6832-6600* (無料)

* 一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

※ P-01Hからご利用の場合は、+81-3-6832-6600でつながります。([+])は[0]ボタンを1秒以上押します。)

■ 一般電話などからの場合<ユニバーサルナンバー>

ユニバーサルナンバー用
国際識別番号

-8000120-0151*


* 滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※ 主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモのホームページをご覧ください。

- 紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。
- お客様が購入されたFOMA端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

総合お問い合わせ先
＜ドコモ インフォメーションセンター＞

■ドコモの携帯電話からの場合

 (局番なしの) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

 **0120-800-000**

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間 午前9:00～午後8:00(年中無休)


●番号をよくご確認の上、お間違いないようにおかけください。

●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページ、i モードサイトにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。

ドコモホームページ <https://www.nttdocomo.co.jp/>

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

 (局番なしの) **113** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

 **0120-800-000**

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間 24時間(年中無休)

i モードサイト i Menu ▶ お客様サポート ▶ ドコモショップ



マナーもいっしょに携帯しましょう。

○公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元 株式会社NTTドコモ

製造元 パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社



Li-ion 00



’15.11(第1版)
PXQX1066ZA/J1
F1015-0

P-01H

パソコン接続マニュアル

FOMA端末から利用できるデータ通信.....	1
ご使用になる前に	2
データ転送(OBEX™通信)の準備の流れ	4
データ通信の準備の流れ	4
FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする	6
Bluetooth®通信を準備する	10
ダイヤルアップネットワークの設定をする.....	12
ダイヤルアップ接続する	22
ATコマンド	26
ATコマンド一覧.....	27

パソコン接続マニュアルについて

本マニュアルでは、P-01Hでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、「FOMA通信設定ファイル」のインストール方法などを説明しています。

お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

FOMA端末から利用できるデータ通信

FOMA端末とパソコンを接続してご利用できるデータ通信は、データ転送(OBEX™通信)、パケット通信、64Kデータ通信に分類されます。

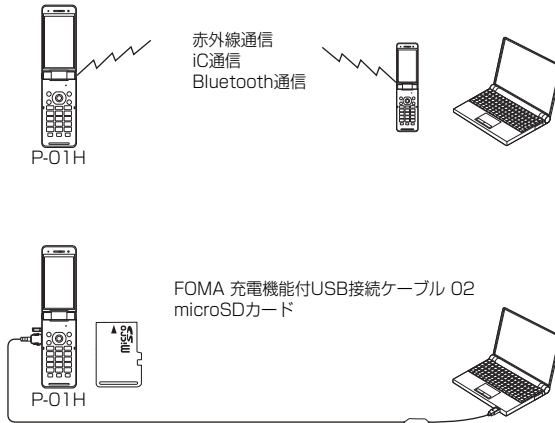
FOMA端末はパケット通信用アダプタ機能を内蔵しています。

- 海外でパケット通信を行う場合は、IP接続で通信を行ってください。(PPP接続ではパケット通信できません。)
- 海外では、64Kデータ通信はご利用になれません。

データ転送(OBEX™通信)

画像やメロディ、電話帳、メールなどのデータを、他のFOMA端末やパソコンなどとの間で送受信します。

- 転送方法により送受信できるデータが異なります。詳細は各転送方法をご確認ください。



パケット通信

インターネットに接続してデータ通信(パケット通信)を行います。

送受信したデータ量に応じて課金されます。ネットワークに接続していても、データの送受信を行っていないときには通信料がかからないため、ネットワークに接続したまま必要なときにデータを送受信するという使いかたができます。

ドコモのインターネット接続サービスmopera Uなど、FOMAパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大7.2Mbps、送信最大2.0Mbpsの高速パケット通信ができます。通信環境や混雑状況の影響により通信速度が変化するベストエフォート方式による提供です。

画像を含むホームページの閲覧やデータのダウンロードなど、データ量の多い通信を行った場合には通信料が高額になりますのでご注意ください。

※FOMAハイスピードエリア外やHIGH-SPEEDに対応していないアクセスポイントに接続するとき、HIGH-SPEEDに対応していない機器をご利用の場合は、通信速度が遅くなる場合があります。

※受信最大7.2Mbps、送信最大2.0Mbpsとは技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、ネットワークの混み具合や通信環境により異なります。

64Kデータ通信

インターネットに接続して64Kデータ通信を行います。

データ量に関係なく、ネットワークに接続している時間の長さに応じて課金されます。

FOMA64Kデータ通信に対応したアクセスポイント、またはISDN同期64Kアクセスポイントを利用できます。

長時間通信を行った場合には通信料が高額になりますのでご注意ください。

お知らせ

- FOMA端末は、Remote Wakeupには対応していません。
- FOMA端末はFAX通信をサポートしていません。
- Bluetooth機能を利用してデータ通信を行う場合は、FOMA端末の通信速度はハイスピード用の通信速度になりますが、Bluetooth機能の通信速度に限界があるため、最大速度では通信できない場合があります。

ご使用になる前に

インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットをご利用の場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダに対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接インターネットサービスプロバイダにお支払いいただけます。利用料の詳しい内容については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用いただけます。

「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要(有料)となります。

接続先(インターネットサービスプロバイダなど)の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときはパケット通信対応の接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

ネットワークアクセス時のユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証(IDとパスワード)が必要な場合があります。その場合は、通信ソフト(ダイヤルアップネットワーク)でIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードは接続先のインターネットサービスプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、そちらにお問い合わせください。

パケット通信および64Kデータ通信の条件

日本国内でFOMA端末による通信を行うには、以下の条件が必要になります。

- ・FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)が利用できるパソコンであること
- ・Bluetooth通信で接続する場合は、パソコンがBluetooth標準規格Ver. 1.1、Ver. 1.2またはVer. 2.0+EDRのDial-up Networking Profile(ダイヤルアップネットワーキングプロファイル)に対応していること
- ・FOMAパケット通信、64Kデータ通信に対応したPDAであること
- ・FOMAサービスエリア内であること
- ・パケット通信の場合、接続先がFOMAのパケット通信に対応していること
- ・64Kデータ通信の場合、接続先がFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64Kに対応していること

ただし、上の条件が整っていても、基地局が混雑している、または電波状況が悪い場合は通信ができないことがあります。

動作環境

データ通信におけるパソコンの動作環境は以下のとおりです。

項 目	必要環境
パソコン本体	PC/AT互換機 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)を使用する場合: USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev1.1/2.0準拠) Bluetooth通信を使用する場合: Bluetooth標準規格Ver. 1.1、Ver. 1.2またはVer.2.0+EDR準拠(ダイヤルアップネット ワーキングプロファイル) ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color16ビット以上を推奨。
OS	Windows 10 32ビット版/64ビット版(日本語版) Windows 8.1 32ビット版/64ビット版(日本語版) Windows 8 32ビット版/64ビット版(日本語版) Windows 7 32ビット版/64ビット版(日本語版) Windows Vista 32ビット版/64ビット版(日本語版)
必要メモリ	Windows 10 32ビット版:1Gバイト以上 Windows 10 64ビット版:2Gバイト以上 Windows 8.1 32ビット版:1Gバイト以上 Windows 8.1 64ビット版:2Gバイト以上 Windows 8 32ビット版:1Gバイト以上 Windows 8 64ビット版:2Gバイト以上 Windows 7 32ビット版:1Gバイト以上 Windows 7 64ビット版:2Gバイト以上 Windows Vista:512Mバイト以上
ハードディスク容量	5Mバイト以上の空き容量

- 動作環境の最新情報については、ドコモのホームページにてご確認ください。
- OSのアップグレードや追加・変更した環境での動作は保証いたしかねます。
- 必要メモリおよびハードディスクの空き容量はシステム環境によって異なることがあります。

必要な機器

FOMA端末とパソコン以外に以下のハードウェア、ソフトウェアを使います。

- ・FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)^{※1}
- ・「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)^{※2}

^{※1} USB接続の場合

^{※2} ドコモのホームページからダウンロードしてください。

お知らせ

- USBケーブルは専用の「FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02」をご利用ください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。
- USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

データ転送(OBEX™通信)の準備の流れ

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)をご利用になる場合には、「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をインストールしてください。

「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をインストールする(P.6参照)

- ドコモのホームページから「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をダウンロードし、インストールします。

データ転送

データ通信の準備の流れ

パケット通信・64Kデータ通信を行う場合の準備について説明します。以下のような流れになります。

USB接続の場合

「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をダウンロード、インストールする(P.6)

- ドコモのホームページから「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をダウンロードし、インストールします。

Bluetooth接続の場合

パソコンとFOMA端末をBluetooth通信でワイヤレス接続する(P.10)

パソコンとFOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)で接続する

インストール後の確認をする(P.7)

モデムの確認をする(P.11)

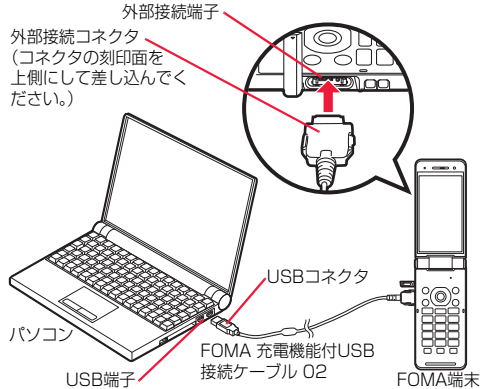
通信の設定をする(P.12、P.25)

接続する(P.22)

パソコンとFOMA端末を接続する

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)の取り付け方法について説明します。

1 FOMA端末の外部接続端子の向きを確認し、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の外部接続コネクタをまっすぐ「カチッ」と音がするまで差し込む



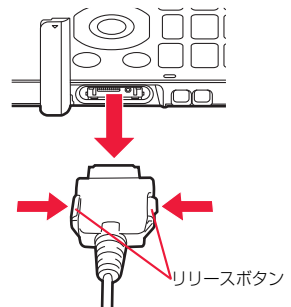
2 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のUSBコネクタをパソコンのUSB端子に接続する

お知らせ

- データ通信を行うには「USBモード」を「通信モード」に設定してください。
「▶本体設定▶外部接続▶USBモード▶通信モード」の操作を行います。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のコネクタは無理に差し込まないでください。故障の原因となります。各コネクタは正しい向き、正しい角度で差し込まないと接続できません。正しく差し込んだときは、強い力を入れなくてもスムーズに差し込めるようになっています。うまく差し込めないときは、無理に差し込まず、もう一度コネクタの形や向きを確認してください。
- USBケーブルは専用のFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02をご利用ください。(パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。)
- FOMA端末に表示される「」は、パケット通信または64Kデータ通信のFOMA通信設定ファイル(ドライバ)のインストールを行い、パソコンとの接続が認識されたときに表示されます。FOMA通信設定ファイル(ドライバ)のインストール前には、パソコンとの接続が認識されず、「」も表示されません。

■取り外し方

1. FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の外部接続コネクタのリリースボタンを押しながら、まっすぐ引き抜く。
2. パソコンのUSB端子からFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を引き抜く。



お知らせ

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02は無理に取り外さないでください。故障の原因となります。
- データ通信中はFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を取り外さないでください。パソコンやFOMA端末の誤動作や故障、データ消失の原因となります。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の取り付け・取り外しは連続して行わないでください。一度、取り付け・取り外しを行った場合は、間隔をおいてから再び行ってください。

FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする

FOMA通信設定ファイル(ドライバ)のインストールは、ご使用になるパソコンにFOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)で初めて接続するときに必要です。

- Bluetooth通信でワイヤレス接続する場合はFOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする必要はありません。
- 必ずAdministrator権限またはパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。
- FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする前に、パソコンに常駐しているソフトはすべて終了してください。

1 ドコモのホームページからFOMA通信設定ファイル(ドライバ)をダウンロードする

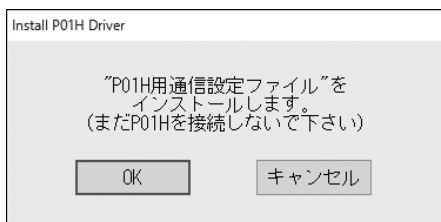
https://www.nttdocomo.co.jp/support/utilization/application/foma/com_set/driver/index.html

2 ダウンロードしたFOMA通信設定ファイル(ドライバ)の「exe」ファイルをダブルタップ、またはダブルクリックで実行し、任意のフォルダに解凍する

3 解凍したフォルダの中から「DriverInstall.exe」をダブルタップ、またはダブルクリックし、「はい」をタップ、またはクリックする

- Windows Vistaの場合、「はい」の代わりに「続行」をクリックします。

4 「OK」をタップ、またはクリックする



5 FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02で接続する(P.5参照)

インストールが始まります。

6 「OK」をタップ、またはクリックする

「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)のインストールが完了すると、Windows 7の場合はタスクバーのインジケータから「デバイスを使用する準備ができました デバイス ドライバー ソフトウェアが正しくインストールされました。」、Windows Vistaの場合はタスクバーのインジケータから「デバイスを使用する準備ができました。デバイス ドライバ ソフトウェアが正しくインストールされました。」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。

インストールしたFOMA通信設定ファイル(ドライバ)を確認する

「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)が正しくインストールされていることを確認します。

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7の場合

1 「 (スタート)」▶「すべてのアプリ」を開く

▶「Windows システムツール」を開く


▶「コントロールパネル」を開く

▶「デバイスとプリンターの表示」を開く

<Windows 8.1、Windows 8の場合>

スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリックする→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く→「デバイスとプリンターの表示」を開く

<Windows 7の場合>

「 (スタート)」→「デバイスとプリンター」を開く

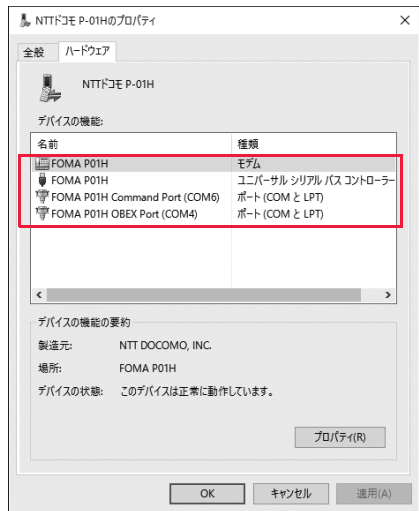
2 「NTTドコモ P-01H」を開く

▶「ハードウェア」タブをタップ、またはクリックする

3 インストールされたドライバ名を確認する

すべてのドライバ名が表示されていることを確認します。

- COMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。



Windows Vistaの場合

1 「 (スタート)」▶「コントロールパネル」を開く

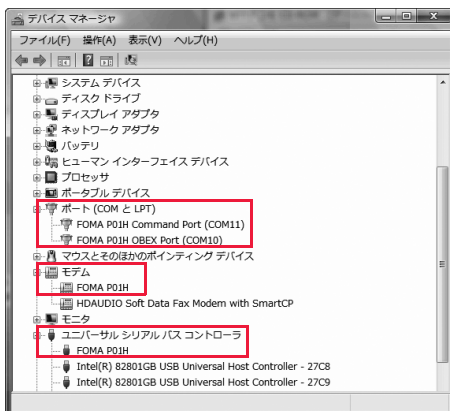
▶「システムとメンテナンス」を開く

2 「ハードウェアとデバイスを表示」を開く▶「続行」をクリックする

3 各デバイスをクリックして、インストールされたFOMA通信設定ファイル(ドライバ)名を確認する

「ポート(COMとLPT)」、「モデム」、「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」の下にすべてのFOMA通信設定ファイル(ドライバ)名が表示されていることを確認します。

- COMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。



「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をインストールすると、以下のドライバがインストールされます。

デバイス名	FOMA通信設定ファイル(ドライバ)名
ポート(COMとLPT)	・FOMA PO1H Command Port ・FOMA PO1H OBEX Port
モデム	・FOMA PO1H
<Windows 10、Windows 8.1、 Windows 8、Windows 7の場合> ユニバーサル シリアル バス コントローラ <Windows Vistaの場合> ユニバーサル シリアル バス コントローラ	・FOMA PO1H

FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をアンインストールする

「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)のアンインストールが必要になった場合(バージョンアップする場合など)は、次の手順で行ってください。

●必ずAdministrator権限またはパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。

1 FOMA端末とパソコンがFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02 (別売)で接続されている場合は、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を取り外す

2 「 (スタート)」▶「すべてのアプリ」を開く

▶「Windows システムツール」を開く

▶「コントロールパネル」を開く

▶「プログラムのアンインストール」を開く

<Windows 8.1、Windows 8の場合>

スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリックする→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く→「プログラムのアンインストール」を開く

<Windows 7、Windows Vistaの場合>

「 (スタート)」→「コントロールパネル」を開く→「プログラムのアンインストール」を開く

3 「FOMA PO1H USB Driver」を選択し「アンインストールと変更」をタップ、またはクリックする

<Windows Vistaの場合>

手順3のあとにユーザーアカウントの制御画面が表示された場合は、「続行」をクリックする

4 「OK」をタップ、またはクリックする

5 「はい」をタップ、またはクリックしてWindowsを再起動する

以上でアンインストールは終了です。

●「いいえ」をタップ、またはクリックした場合は、手動で再起動をしてください。

お知らせ

- 「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)をインストールするときに、途中でパソコンからFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を抜いてしまったり、「キャンセル」ボタンをタップ、またはクリックしてインストールを中止してしまった場合は、「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)が正常にインストールされない場合があります。このような場合は、P.6手順2で解凍したフォルダ内の「PO1H_un.exe」を実行して「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)を一度削除してから、再度インストールし直してください。

Bluetooth®通信を準備する

Bluetooth通信対応パソコンとFOMA端末をワイヤレス接続して、データ通信を行います。

初めてパソコンと接続する

初めてFOMA端末に接続するパソコンの場合、パソコンをFOMA端末に登録します。

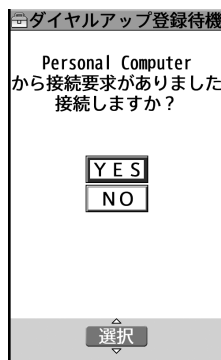
1 ①▶便利ツール▶Bluetooth▶ダイヤルアップ登録待機

- 「①▶本体設定▶外部接続▶Bluetooth▶ダイヤルアップ登録待機」の操作を行っても「ダイヤルアップ登録待機」を設定できます。
- 解除する場合は待機中に②(中止)を押します。また、待機中に5分間接続がなかった場合は自動的に解除されます。
- 接続待機中は「③(青色)」が点灯します。

2 パソコンからBluetoothデバイスの検索と機器登録をする

- FOMA端末が接続待機中に、パソコンで機器登録を行ってください。
- パソコンの操作方法の詳細は、ご使用になるパソコンの取扱説明書をお読みください。
(ご覧になる取扱説明書によっては、「検索」の代わりに「探索」または「サーチ」、「機器登録」の代わりに「ペアリング」と表記されています。)

3 接続要求の画面が表示されたら「YES」を選択



4 Bluetoothパスキーを入力

- Bluetoothパスキーは半角数字で4～16桁入力できます。
- FOMA端末とパソコンに同一のBluetoothパスキーを入力してください。

5 パソコンが機器登録されワイヤレス接続が開始される

接続が完了すると、「③(青色)」が点滅します。

お知らせ

- ダイヤルアップ登録待機中はヘッドセットサービスまたはハンズフリーサービスの接続待機はできません。
- パソコンにFOMA端末を登録する際、パソコンが複数の機器を検索した場合は、機器名称でFOMA端末を判別してください。パソコンが同一名称の機器を複数検索した場合は、機器アドレスで判別してください。
- ダイヤルアップ登録待機中は、周囲のすべてのBluetooth機器から検索されますが、ダイヤルアップ通信サービス以外のサービスは接続できません。



■登録済みのパソコンと接続するには

登録済みのパソコンからFOMA端末に接続する場合、「接続待機」で「ダイヤルアップ」を接続待機に設定しておけば、パソコンから接続操作を行うとFOMA端末に接続できます。
「ダイヤルアップ登録待機」中でも接続できます。


モデムの確認をする

通信の設定を行う前にご使用になるモデムのモデム名やダイヤルアップ接続用に設定されたCOMポート番号を確認しておきます。

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7の場合

- 1 「 (スタート)」▶「すべてのアプリ」を開く
▶「Windows システムツール」を開く
▶「コントロールパネル」を開く
▶「デバイスとプリンターの表示」を開く
＜Windows 8.1、Windows 8の場合＞
スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリックする→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く→「デバイスとプリンターの表示」を開く
＜Windows 7の場合＞
「 (スタート)」→「デバイスとプリンター」を開く
- 2 「PO1H」を開く▶「ハードウェア」タブをタップ、またはクリックする
- 3 モデム名またはCOMポート番号を確認する

Windows Vistaの場合

- 1 「 (スタート)」▶「コントロールパネル」を開く
▶「システムとメンテナンス」を開く
- 2 「ハードウェアとデバイスを表示」を開く▶「続行」をクリックする
- 3 各デバイスをクリックして、モデム名またはCOMポート番号を確認する
「ポート (COMとLPT)」、「モデム」の下にモデム名またはCOMポート番号が表示されています。

ダイヤルアップ通信サービスを停止する

接続中のダイヤルアップ通信サービスを停止します。

- 1 ▶「便利ツール」▶Bluetooth▶登録機器リスト
•「▶本体設定▶外部接続▶Bluetooth▶登録機器リスト」の操作を行っても登録機器リストの画面が表示されません。
- 2 接続中のBluetooth機器を選択
- 3 ダイアルアップ▶YES
ダイヤルアップ通信サービスが停止します。

ダイヤルアップネットワークの設定をする

パケット通信の設定をする

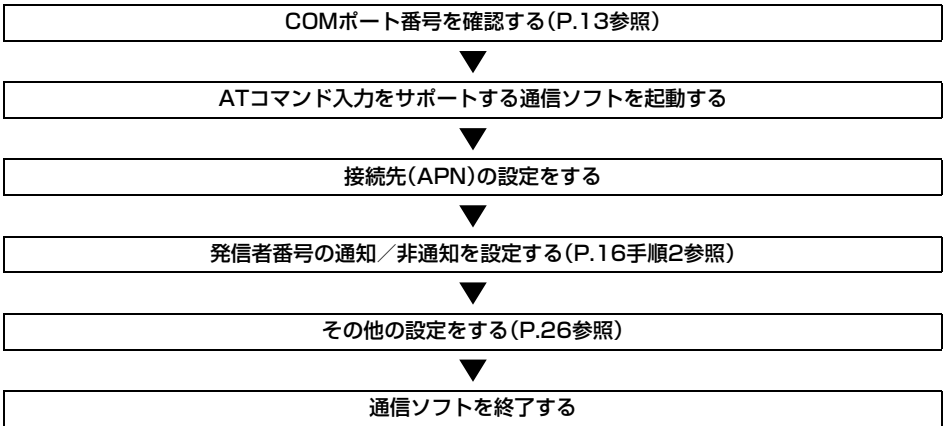
パケット通信の接続を設定する方法について説明します。

パケット通信では、パソコンからさまざまな設定を行う場合にATコマンドを使用します。設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。各OSに対応したソフトを使って設定してください。(ご使用になるソフトの設定に従ってください。)

ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用になる場合は、接続先(APN)の設定(P.15参照)は不要です。

発信者番号通知／非通知の設定(P.16参照)は必要に応じて行います。([「mopera U」をご利用の場合は、「通知」に設定する必要があります。])

<ATコマンドによるパケット通信設定の流れ>



■ATコマンドについて

- ATコマンドとは、モデム制御用のコマンドです。FOMA端末はATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。
- ATコマンドを入力することによって、パケット通信やFOMA端末の詳細な設定、設定内容の確認(表示)ができます。
- 入力したATコマンドが表示されない場合は「ATE1 []」と入力してください。

COMポート番号を確認する

「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)のインストール後に組み込まれた「FOMA P01H」(モデム)に割り当てられたCOMポート番号を指定する必要があります。確認方法はご利用になるパソコンのOSによって異なります。

- ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用になる場合、接続先(APN)の設定が不要なため、モデムの確認をする必要はありません。

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7の場合

1 「 (スタート)」▶「すべてのアプリ」を開く


▶「Windows システムツール」を開く

▶「コントロールパネル」を開く

<Windows 8.1、Windows 8の場合>

スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリックする→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く

<Windows 7の場合>

「 (スタート)」→「コントロールパネル」を開く

- 「表示方法」が「カテゴリ」の場合は、「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に変更します。


2 「電話とモデム」を開く

3 「所在地情報」の画面が表示された場合は、「市外局番／エリアコード」を入力して、「OK」をタップ、またはクリックする

4 「モデム」タブを開き、「FOMA P01H」の「接続先」欄のCOMポート番号を確認して、「OK」をタップ、またはクリックする

- Bluetooth通信でワイヤレス接続する場合は、ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの「接続先」欄のCOMポート番号を確認してください。
- 確認したCOMポート番号は、接続先(APN)の設定(P.15参照)で使います。
- プロパティ画面に表示される内容およびCOMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。



- 1 「 (スタート)」▶「コントロールパネル」を開く
- 2 「コントロールパネル」の「ハードウェアとサウンド」から「電話とモデムのオプション」を開く
- 3 「所在地情報」の画面が表示された場合は、「市外局番／エリアコード」を入力して、「OK」をクリックする
- 4 「モデム」タブを開き、「FOMA P01H」の「接続先」欄のCOMポート番号を確認して、「OK」をクリックする

- Bluetooth通信でワイヤレス接続する場合は、ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの「接続先」欄のCOMポート番号を確認してください。
- 確認したCOMポート番号は、接続先(APN)の設定(P.15参照)で使います。
- プロパティ画面に表示される内容およびCOMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。



接続先(APN)の設定をする

パケット通信を行う場合の接続先(APN)を設定します。接続先(APN)は最大10個まで登録でき、1～10の「cid」(P.15参照)という番号で管理されます。

「mopera U」をご利用になる場合は、接続先(APN)の設定は不要です。

ここではFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)を利用した場合を例として説明します。実際のAPNはインターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。ここでの設定はダイヤルアップネットワークの設定(P.17参照)での接続先番号となります。


1 FOMA端末とFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を接続する

2 FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末と接続したFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02をパソコンに接続する

3 通信ソフトを起動する

- 通信ソフトでの接続先のCOMポート番号は、P.13で確認したCOMポート番号を指定します。

お知らせ

- 接続先(APN)は、FOMA端末に登録される情報であるため、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度FOMA端末に接続先(APN)を登録する必要があります。
- パソコン側の接続先(APN)を継続利用する場合は、同一cid番号に同一接続先(APN)をFOMA端末に登録してください。
- 入力したATコマンドが表示されない場合は「ATE1 」と入力してください。

■cid(登録番号)について

FOMA端末にはcid1からcid10までの登録番号があり、お買い上げ時、cid1とcid3には「mopera.net」が、cid4には「mpr.ex-pkt.net」が接続先(APN)として登録されています。「mopera U」以外に接続する場合は、cid2またはcid5～10のいずれかにプロバイダまたはネットワーク管理者より指示される接続先(APN)を設定する必要があります。

お買い上げ時のcid登録

登録番号(cid)	接続先(APN)
1	mopera.net (PPP)
2	未設定
3	mopera.net (IP)
4	mpr.ex-pkt.net (PPP)
5～10	未設定

■cidに登録した接続先(APN)に接続するときの「電話番号」について

「*99* * * <cid番号> #」

(例)cid5に登録した接続先(APN)に接続する場合

99 * * 5 #


■接続先(APN)設定のリセット/確認について


接続先(APN)設定のリセット/確認もATコマンドを使って行います。

接続先(APN)設定のリセット

リセットを行った場合、cid1とcid3の接続先(APN)設定が「mopera.net」(初期値)に、cid4の接続先(APN)設定が「mpr.ex-pkt.net」(初期値)に戻り、cid2とcid5～10の設定は未登録となります。

(入力方法)

AT+CGDCONT= (すべてのcidをリセットする場合)

AT+CGDCONT=<cid>  (特定のcidのみリセットする場合)

接続先(APN)設定の確認

現在の設定内容を表示させます。

(入力方法)

AT+CGDCONT? 


発信者番号の通知／非通知を設定する

パケット通信を行うときに、通知／非通知設定(接続先にお客様の発信者番号を通知するかどうかの設定)を行えます。発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。発信者番号の通知／非通知設定は、ダイヤルアップ接続を行う前にATコマンド(*DGPIRコマンド)で設定できます。

1 通信ソフトを起動する

2 通信ソフトの設定に従って、*DGPIRコマンド(P.28参照)で発信者番号の通知／非通知を設定する

お知らせ

- ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用になる場合は、発信者番号を「通知」に設定する必要があります。
- 入力したATコマンドが表示されない場合は「ATE1 」と入力してください。

■ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定(P.17参照)でも、接続先の番号に186(通知)／184(非通知)を付けることができます。

*DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で186(通知)／184(非通知)の設定を行った場合、以下のようになります。

ダイヤルアップネットワークの設定(cid=3の場合)	*DGPIRコマンドによる通知／非通知設定	発信者番号の通知／非通知
*99***3#	設定なし	通知
	非通知	非通知
	通知	通知
184*99***3#	設定なし	非通知 (ダイヤルアップネットワークの184が優先される)
	非通知	
	通知	
186*99***3#	設定なし	通知 (ダイヤルアップネットワークの186が優先される)
	非通知	
	通知	

- 「mopera U」に接続する場合は、発信者番号の通知が必要です。

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7で ダイヤルアップネットワークの設定をする

- 1 「[スタート]」**
▶「すべてのアプリ」を開く
▶「Windows システムツール」を開く
▶「コントロールパネル」を開く
▶「インターネットへの接続」
▶「ダイヤルアップ」をタップ、またはクリックする

<Windows 8.1、Windows 8の場合>

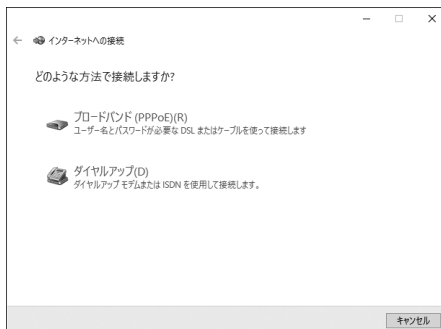
スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリック

する→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く→「インターネットへの接続」→「ダイヤルアップ」をタップ、またはクリックする

<Windows 7の場合>

「[スタート]」→「コントロールパネル」を開く→「インターネットへの接続」→「ダイヤルアップ」をクリックする

- すでに接続先が設定済みの場合は、既存の接続を使用するかどうかの確認画面が表示されます。この場合、「いいえ、新しい接続を作成します」にチェックを付け、「次へ」をタップ、またはクリックします。



- 2 モデムの選択画面が表示された場合は、「FOMA P01H」をタップ、またはクリックする**

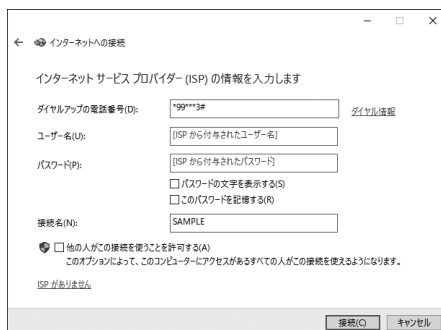
- Bluetooth通信でワイヤレス接続する場合は、ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムのみチェックを付けてください。

- モデムの選択画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。

- 3 「ダイヤルアップの電話番号」の欄に接続先番号を入力する**

- mopera Uに接続する場合、接続先番号には「*99 * * * 3 #」を入力します。

mopera U以外の接続先番号についてはP.15参照。




- 4 「ユーザー名」、「パスワード」の欄にインターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力する**

- mopera Uへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードは空欄でも接続できます。

- 5 「接続名」の欄に任意の名前を入力して、「接続」をタップ、またはクリックする▶「スキップ」をタップ、またはクリックする**

- ここでは例として「SAMPLE」と入力します。
- ここでは、すぐに接続せずに設定の確認のみを行います。


- 6 「閉じる」をタップ、またはクリックする**

- 7 「 (スタート)」▶「すべてのアプリ」を開く**
▶「Windows システムツール」を開く
▶「コントロールパネル」を開く
▶「ネットワークの状態とタスクの表示」
▶「アダプターの設定の変更」をタップ、またはクリックする


<Windows 8.1、Windows 8の場合>

スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリックする→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く→「ネットワークの状態とタスクの表示」→「アダプターの設定の変更」をタップ、またはクリックする

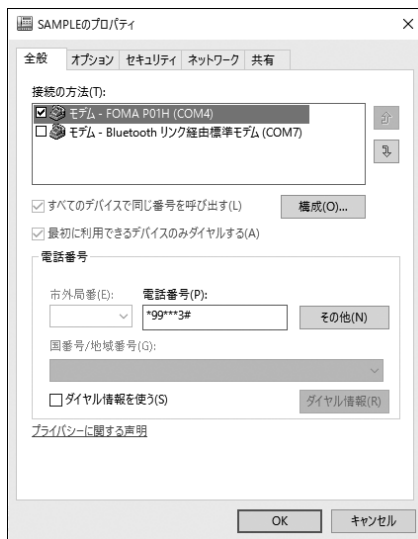
<Windows 7の場合>

「 (スタート)」→「コントロールパネル」を開く→「ネットワークの状態とタスクの表示」→「アダプターの設定の変更」をクリックする

8 設定済みの接続先を選んで、ロングタッチ、または右クリックから「プロパティ」を選択する▶「全般」タブで設定を確認する

パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続の方法」の欄で「モデム - FOMA P01H」または「モデム - ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの名前」にチェックが付いているのを確認します。チェックが付いていない場合には、チェックを付けます。また、複数のモデムにチェックが付いている場合は、 ボタンをタップ、またはクリックして「モデム - FOMA P01H」または「モデム - ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの名前」の優先順位を一番上にするか、「モデム - FOMA P01H」または「モデム - ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの名前」以外のモデムのチェックを外してください。「ダイヤル情報を使う」にチェックされている場合にはチェックを外します。

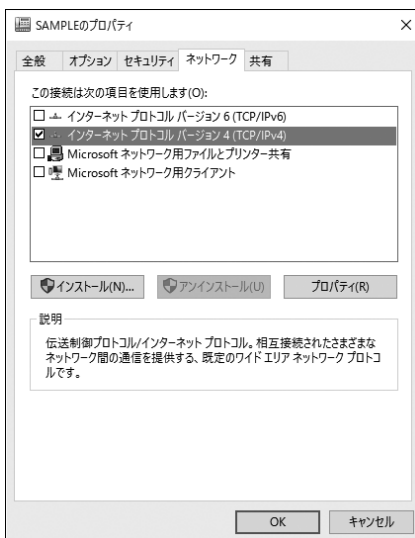
- 「FOMA P01H」または「ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデム」に割り当てられるCOMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。
- mopera Uに接続する場合、接続先番号には「*99* * *3#」を入力します。
mopera U以外の接続先番号についてはP.15参照。



9 「ネットワーク」タブをタップ、またはクリックして、各種設定を行う

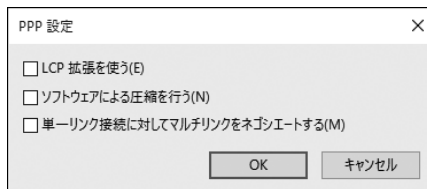
「この接続は次の項目を使用します」の欄は、「インターネット プロトコル バージョン4 (TCP/IPv4)」を選択します。

一般ISPなどに接続する場合のTCP/IP設定は、ISPまたはネットワーク管理者に確認してください。



10 「オプション」タブをタップ、またはクリックして、「PPP設定」をタップ、またはクリックする

11 すべてのチェックを外して、「OK」をタップ、またはクリックする



12 手順9の画面に戻り、「OK」をタップ、またはクリックする

Windows Vistaでダイヤルアップネットワークの設定をする

1 「[スタート]」▶「接続先」

▶「接続またはネットワークをセットアップします」をクリックする

2 「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択して、「次へ」をクリックする

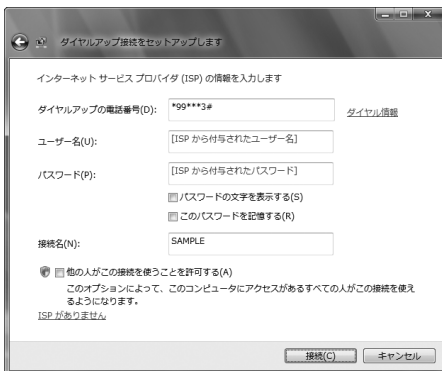


3 モデムの選択画面が表示された場合は、「FOMA P01H」をクリックする

- Bluetooth通信でワイヤレス接続する場合は、ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムのみチェックを付けてください。
- モデムの選択画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。

4 「ダイヤルアップの電話番号」の欄に接続先番号を入力する

- mopera Uに接続する場合、接続先番号には「*99* * *3#」を入力します。
- mopera U以外の接続先番号についてはP.15参照。



5 「ユーザー名」、「パスワード」の欄にインターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力する

- mopera Uへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードは空欄でも接続できます。

6 「接続名」の欄に任意の名前を入力して、「接続」をクリックする

▶「スキップ」をクリックする

- ここでは例として「SAMPLE」と入力します。
- ここでは、すぐに接続せずに設定の確認のみを行います。


7 「接続をセットアップします」をクリックする

▶「閉じる」をクリックする

8 「 (スタート)」▶「接続先」

▶ 接続済みの接続先を選んで、右クリックから「プロパティ」を選択する

9 「全般」タブで設定を確認する

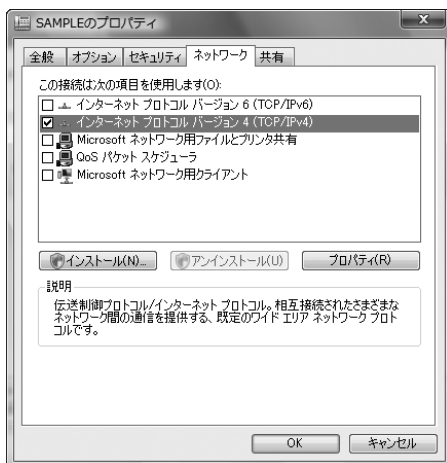
パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続の方法」の欄で「モデム－FOMA P01H」または「モデム－ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム」またはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの名前」にチェックが付いているのを確認します。チェックが付いていない場合には、チェックを付けます。また、複数のモデムにチェックが付いている場合は、 ボタンをクリックして「モデム－FOMA P01H」または「モデム－ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの名前」の優先順位を一番上にするか、「モデム－FOMA P01H」または「モデム－ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデムの名前」以外のモデムのチェックを外してください。「ダイヤル情報を使う」にチェックされている場合にはチェックを外します。

- 「FOMA P01H」または「ご使用のBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカーが提供しているBluetoothモデム」に割り当てられるCOMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。
- mopera Uに接続する場合、接続先番号には「*99** **3#」を入力します。
mopera U以外の接続先番号についてはP.15参照。



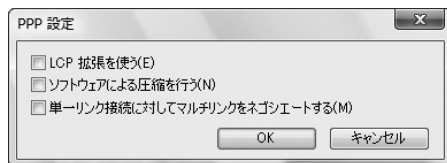
10 「ネットワーク」タブをクリックして、各種設定を行う

「この接続は次の項目を使用します」の欄は、「インターネット プロトコル バージョン4(TCP/IPv4)」を選択します。「QoS/パケットスケジューラ」は必要に応じて設定してください。一般ISPなどに接続する場合のTCP/IP設定は、ISPまたはネットワーク管理者に確認してください。



11 「オプション」タブをクリックして、「PPP設定」をクリックする

12 すべてのチェックを外して、「OK」をクリックする




13 手順10の画面に戻り、「OK」をクリックする

ダイヤルアップ接続する

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7で ダイヤルアップ接続する

P.5の手順に従って、FOMA端末とパソコンを接続します。

- 1 「 (スタート)」▶「すべてのアプリ」を開く
▶「Windows システムツール」を開く
▶「コントロールパネル」を開く
▶「インターネットへの接続」をタップ、またはクリックする

<Windows 8.1、Windows 8の場合>

スタート画面で「デスクトップ」をタップ、またはクリックする→画面の右側をフリック、または画面の右上や右下にマウスカーソルを移動する→「設定」を開く→「コントロールパネル」を開く→「インターネットへの接続」をタップ、またはクリックする

<Windows 7の場合>

「 (スタート)」→「コントロールパネル」を開く→「インターネットへの接続」をクリックする

- 2 「はい、既存の接続を選びます」に
チェックを付け、接続先を選択し
「次へ」をタップ、またはクリック
する



- 3 内容を確認して「ダイヤル」をタップ、またはクリックする

•mopera Uへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードは空欄でも接続できます。

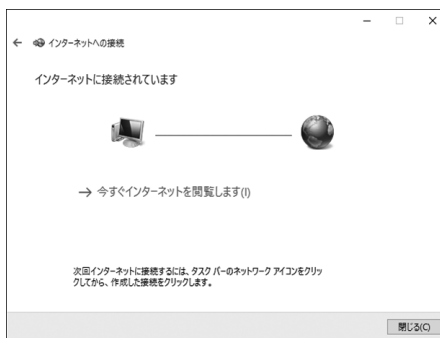
- 4 接続中の状態を示す画面が表示
される

この間にユーザー名、パスワードの確認などのログオン
処理が行われます。



5 接続完了後、「閉じる」をタップ、またはクリックする

- ブラウザソフトを起動してホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用できます。



Windows Vistaでダイヤルアップ接続する

P.5の手順に従って、FOMA端末とパソコンを接続します。

1 「 (スタート)」▶「接続先」を開く

2 接続先を選択して「接続」をクリックする

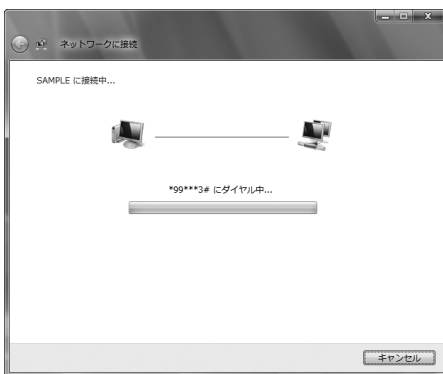


3 内容を確認して「ダイヤル」をクリックする

- mopera Uへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードは空欄でも接続できます。

4 接続中の状態を示す画面が表示される

この間にユーザー名、パスワードの確認などのログイン処理が行われます。









5 接続完了後、「閉じる」をクリックする

- ブラウザソフトを起動してホームページを開覧したり、電子メールなどを利用できます。



お知らせ

- ダイヤルアップ設定を行ったFOMA端末でダイヤルアップ接続を行ってください。異なるFOMA端末を接続する場合は、再度、FOMA通信設定ファイル(ドライバ)のインストールが必要になることがあります。
- 通信中はFOMA端末の消費電力が大きくなります。
- パケット通信中は、FOMA端末に通信状態が表示されます。

「  」(通信中、データ送信中)	「  」(通信中、データ受信中)
「  」(通信中、データ送受信なし)	「  」(発信中、または切断中)
「  」(着信中、または切断中)	
- 64Kデータ通信中は、FOMA端末に「」が表示されます。



通信を切断する

- 1 タスクトレイのダイヤルアップアイコンを
タップ、またはクリックする
- 2 接続済みの接続先を選択し、「切断」をタップ、またはクリックする
<Windows Vistaの場合>
「接続または切断」を選択し「切断」をクリックして、「閉じる」をクリックする



お知らせ

- ブラウザソフトを終了しただけでは、通信回線は切断されない場合があります。確実に切断するためには、この手順に従って回線を切断してください。
- パソコンに表示される通信速度は実際の通信速度とは異なる場合があります。

ネットワークに接続できないときは

ネットワークに接続できない(ダイヤルアップ接続ができない)場合は、まず以下の項目について確認してください。

こんなときは	こうします
「P-01H」がパソコン上で認識できない	<ul style="list-style-type: none">・ お使いのパソコンが動作環境(P.3参照)を満たしているかを確認してください。・ 「FOMA通信設定ファイル」(ドライバ)がインストールされているか確認してください。・ FOMA端末がパソコンに接続され、電源が入っているか確認してください。・ FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)がしっかりと接続されているかを確認してください。・ Bluetooth機器がダイヤルアップサービスで接続されているかを確認してください。
相手先に接続できない	<ul style="list-style-type: none">・ ID(ユーザー名)やパスワードの設定が正しいかどうか確認してください。・ 「mopera U」のように発信者番号の通知が必要な場合、電話番号に「184」を付加していないかどうかを確認してください。・ モデムのプロパティで「フロー制御を使う」にチェックが付いていることを確認してください。・ 上記の確認を行っても相手先に接続できない場合は、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者に設定方法などについてご相談ください。

64Kデータ通信の設定

64Kデータ通信の接続を設定する方法について説明します。

ダイヤルアップ接続とTCP/IPの設定

64Kデータ通信のダイヤルアップ接続とTCP/IPの設定はパケット通信での設定(P.12参照)と同じです。

以下の点に注意して操作してください。

- 64Kデータ通信では接続先(APN)の設定をする必要はありません。ダイヤルアップ接続の接続先にはインターネットサービスプロバイダまたはネットワークの管理者から指定された接続先の電話番号を入力してください。
- 「発信者番号通知／非通知の設定」、「その他の設定」は必要に応じて設定してください。
- 設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワークの管理者にお問い合わせください。

接続・切断のしかた

パケット通信での操作と同じです。P.22、P.25の手順に従って操作してください。

ATコマンド

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の機能の設定や変更を行うためのコマンド(命令)です。

※ATコマンド一覧では、以下の略を使用しています。

[AT]: FOMA P01H Command Portで利用できるコマンドです。

[M]: FOMA P01H(モデム)で利用できるコマンドです。

[&F]: AT&Fコマンドで設定が初期化されるコマンドです。

[&W]: AT&Wコマンドで設定が保存されるコマンドです。

ATZコマンドで設定値を呼び戻せます。


お知らせ

- 外部機器から発信・ATコマンド発信を行った場合、2in1のAモード、デュアルモード中はAナンバ、Bモード中はBナンバーで発信します。

ATコマンドの入力形式

ATコマンドの入力は通信ソフトのターミナルモード画面で行います。必ず半角英数字で入力してください。

●入力例

ATD*99** *1#

リターンマーク
パラメータ
コマンド


- ATコマンドはコマンドに続くパラメータ(数字や記号)を含めて、必ず1行で入力します。

お知らせ

- ターミナルモードとは、パソコンを1台の通信端末(ターミナル)のように動作させるモードのことです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている回線に送られます。


オンラインデータモードとオンラインコマンドモードを切り替える

FOMA端末をオンラインデータモードとオンラインコマンドモードに切り替えるには、以下の2つの方法があります。

- ・「+++」コマンドまたは「S2」レジスタに設定したコードを入力します。
- ・「AT&D1」に設定されているときに、RS-232C※のER信号をOFFにします。
- オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替える場合は、「ATO

※USBインタフェースにより、RS-232Cの信号線がエミュレートされていますので、通信アプリによるRS-232Cの信号線制御が有効になります。

■設定の保存について

AT+CGDCONTコマンドによる接続先(APN)設定、AT+CGEQMIN/AT+CGEREQコマンドによるQoS設定、AT*DGAPL/AT*DGARL/AT*DGANSMコマンドによる着信許可・拒否設定、AT*DGPIRコマンドによるパケット通信の番号通知・非通知の設定、およびAT+CLIRコマンドによる発番号通知制限の設定を除き、ATコマンドによる設定は、FOMA端末の電源OFF・ONまたは外部機器の取り外し時に初期化されてしまいますのでご注意ください。なお、[&W]が付いているコマンドについては、設定後に「AT&W

ATコマンド一覧

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
A/ [M]	直前に実行したコマンドを再実行します。またキャリッジリターンは不要です。	—	A/ OK
AT%V [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。	—	AT%V Ver1.00 OK
AT&Cn [M] [&F][&W]	DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。	n=0: CDは常にON n=1: CDは相手モデムのキャリアに応じて変化します。(初期値)	AT&C1 OK
AT&Dn [M] [&F][&W]	DTEから受け取る回路ER信号がオン/オフ遷移したときの動作を選択します。	n=0: ERの状態を無視します。(常にONとみなします。) n=1: ERがONからOFFに変化すると、オンラインコマンド状態になります。 n=2: ERがONからOFFに変化すると、オフラインコマンド状態になります。(初期値)	AT&D1 OK
AT&En [M] [&F][&W]	接続時の速度表示の仕様を選択します。	n=0: 無線区間通信速度を表示します。 n=1: DTEシリアル通信速度を表示します。(初期値)	AT&E0 OK
AT&Fn [AT][M]	すべてのレジスタを工場出荷時の設定値に戻します。通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	n=0のみ指定可能です。(省略可)	—
AT&Sn [M] [&F][&W]	DTEへ出力するデータセットレディ信号の制御を設定します。	n=0: DRIは常にON (初期値) n=1: DRIは回線接続時(通信呼確立時)にONとなります。	AT&S0 OK
AT&Wn [M]	現在の設定値を記憶します。	n=0のみ指定可能です。(省略可)	—
AT* DANTE [AT][M]	アンテナの本数を表示します。(0~3)	0: FOMA端末のアンテナが圏外 1: FOMA端末のアンテナが0本または1本 2: FOMA端末のアンテナが2本 3: FOMA端末のアンテナが3本	AT* DANTE * DANTE:3 OK AT* DANTE=? * DANTE:(0-3) OK
AT* DGANSM=n [M]	パケット着信呼に対する着信拒否/許可設定のモードを設定します。本コマンドによる設定は、設定コマンド入力後のパケット通信着信呼に対し有効となります。	n=0: 着信拒否設定および着信許可設定を無効にします。(初期値) n=1: 着信拒否設定(AT* DGARL)を有効にします。 n=2: 着信許可設定(AT* DGAPL)を有効にします。 AT* DGANSM?: 現在の設定を表示します。	AT* DGANSM=0 OK AT* DGANSM? * DGANSM:0 OK
AT* DGAPL=n [.cid] [M]	パケット着信呼に対して着信許可を行うAPNを設定します。APNの設定は、AT+CGDCONTで定義された<cid>パラメータを用います。	n=0: <cid>で定義されたAPNを着信許可リストに追加します。 n=1: <cid>で定義されたAPNを着信許可リストから削除します。 <cid>が省略された場合には、すべてのcidに適用します。 AT* DGAPL?: 着信許可リストを表示します。	AT* DGAPL=0,1 OK AT* DGAPL? * DGAPL:1 OK AT* DGAPL=1 OK AT* DGAPL? OK
AT* DGARL=n [.cid] [M]	パケット着信呼に対して着信拒否を行うAPNを設定します。APNの設定は、+CGDCONTで定義された<cid>パラメータを用います。	n=0: <cid>で定義されたAPNを着信拒否リストに追加します。 n=1: <cid>で定義されたAPNを着信拒否リストから削除します。 cidが省略された場合には、すべてのcidに適用します。 AT* DGARL?: 着信拒否リストを表示します。	AT* DGARL=0,1 OK AT* DGARL? * DGARL:1 OK AT* DGARL=1 OK AT* DGARL? OK

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT*DGPIR=n [M]	本コマンドの設定は、発信時、着信時に有効となります。 ダイヤルアップネットワークでの設定でも、接続先の番号に186（通知）／184（非通知）を付けることができます。（P.16参照）	n=0：APNをそのまま使用します。（初期値） n=1：APNに"184"を付加して使用します。（常に非通知） n=2：APNに"186"を付加して使用します。（常に通知） AT*DGPIR?：現在の設定を表示します。	AT*DGPIR=0 OK AT*DGPIR? *DGPIR:0 OK
AT*DRPW [AT][M] +++	受信電力指標を表示します。（0：最小値～75：最大値）	—	AT*DRPW *DRPW:0 OK
[M]	オンライン状態のとき、エスケープシーケンスが実行されると回線を切断することなくオンラインコマンド状態に移行します。	—	—
AT+CAOC [M]	現在もしくは直前呼の課金情報を表示します。	リザルト：+CAOC:" n" n：課金情報を16進数で表示します。	AT+CAOC +CAOC:"00001E" OK
AT+CBC [M]	バッテリー状態を表示します。	リザルト：+CBC:n,m n=0：FOMA端末が充電池により動作している状態。 n=1：充電中状態。 n=2：充電池が取り外されている状態。 n=3：電源供給に問題がある状態。 m=0～100：電池残量	AT+CBC +CBC:0,80 OK
AT+CBST=n,1,0 [M] [&W][&F]	利用するベアラサービスの設定を行います。	n=116：64000 bps (bit transparent) (初期値) n=134：64000 bps (multimedia)	AT+CBST=116,1,0 OK AT+CBST? +CBST:116,1,0 OK
AT+CDIP=n [M][AT] [&F][&W]	着信時に着サブアドレスをパソコンに表示するかどうかの設定をします。	n=0：着信時に着サブアドレスを表示しません。（初期値） n=1：着信時に着サブアドレスを表示します。 リザルト：+CDIP:<n>,<m> m=0：マルチナンバ未契約 m=1：マルチナンバ契約中 m=2：不明	AT+CDIP=0 OK AT+CDIP? +CDIP:0,1 OK
AT+CEER [AT][M]	直前の呼の切断理由を表示します。	<report> 切断理由一覧（P.35参照）	AT+CEER +CEER:36 OK
AT+CGDCONT [M]	パケット発信時の接続先（APN）を設定します。	P.33参照。	P.33参照。
AT+CGEQMIN [M]	パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許可するかどうかの判定基準値を登録します。	AT+CGEQMIN= [パラメータ] P.34参照。 AT+CGEQMIN=? 設定可能な値のリストを表示します。 AT+CGEQMIN? 現在の設定を表示します。	P.34参照。
AT+CGEREQ [M]	パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。	AT+CGEREQ= [パラメータ] P.34参照。 AT+CGEREQ=? 設定可能な値のリストを表示します。 AT+CGEREQ? 現在の設定を表示します。	P.34参照。
AT+CGMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。	—	AT+CGMR 1234512345123456 OK

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CGREG=n [M] [&F][&W]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。応答される通知により圏内／圏外を表示します。	n=0： 通知なし。(初期値) n=1： 通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知します。 (問い合わせ) AT+CGREG? +CGREG:<n>,<stat> n：設定値 stat： 0：パケット圏外 1：パケット圏内 4：不明 5：パケット圏内 (ローミング中)	AT+CGREG=1 OK (通知ありに設定) AT+CGREG? +CGREG:1,0 OK (圏外を意味している) (圏外から圏内に移動した場合) +CGREG:1
AT+CGSN [M]	FOMA端末の製造番号を表示します。	—	AT+CGSN 123456789012345 OK
AT+CLIP=n [AT][M] [&F][&W]	64Kデータ通信／テレビ電話着信時に相手の発信番号をパソコンに表示できます。	n=0： 通知しません。(初期値) n=1： 通知します。 リザルト：+CLIP:<n>,<m> m=0： 発信時の相手に番号を通知しないNW設定 m=1： 発信時の相手に番号を通知するNW設定 m=2： 不明	AT+CLIP=0 OK AT+CLIP? +CLIP:0,1 OK
AT+CLIR=n [M]	64Kデータ通信／テレビ電話通信を発信するとき、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。	n=0： CLIRサービスの契約に従い、発信通知されます (されません)。 n=1： 通話相手に番号発信しません。 n=2： 通話相手に番号発信します。(初期値) リザルト：+CLIR:<n>,<m> m=0： CLIRは起動していません。(常時通知) m=1： CLIRは起動しています。(常時非通知) m=2： 不明 m=3： CLIRテンポラリーモード (非通知デフォルト) m=4： CLIRテンポラリーモード (通知デフォルト)	AT+CLIR=0 OK AT+CLIR? +CLIR:0,1 OK AT+CLIR=? +CLIR:(0-2) OK
AT+CMEE=n [M] [&F][&W]	FOMA端末のエラーレポートの有無の設定を行います。	n=0： 通常のERRORリザルトを用います。(初期値) n=1： +CME ERROR: <err>リザルトコードを使用し、<err>は数値を用います。 n=2： +CME ERROR: <err>リザルトコードを使用し、<err>は文字を用います。 AT+CMEE?：現在の設定を表示します。 右記はFOMA端末や接続に異常がある場合のコマンドの実行例です。 +CME ERRORリザルトコードは下記のとおりです。 1： no connection to phone 10： SIM not inserted 15： SIM wrong 16： incorrect password 100： unknown	AT+CMEE=0 OK AT+CNUM ERROR AT+CMEE=1 OK AT+CNUM +CME ERROR:10 AT+CMEE=2 OK AT+CNUM +CME ERROR:SIM not inserted
AT+CNUM [AT][M]	FOMA端末の自局電話番号を表示します。	number：電話番号 (2in1のモードがBモードの場合は、Bナンバーを表示します。) type：129もしくは145 129: 国際アクセスコード+を含まない 145: 国際アクセスコード+を含む リザルト:+CNUM:,<number>,<type>	AT+CNUM +CNUM: "+819012345678",145 OK

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+COPS=n,2,m [M]	接続する通信事業者を選択します。	n=0 : オート（自動的にネットワークを検索して通信事業者を選択します。）（初期値） n=1 : マニュアル（mに設定された通信事業者に接続します。） n=2 : 通信事業者との接続を解除（切断）します。 n=3 : マッピングは行いません。 n=4 : マニュアルオート（mに指定された通信事業者に接続できなかった場合に「オート」の処理を行います。） m : 国番号（MCC）と通信事業者番号（MNC）を16進数の値で表します。書式は以下の通りです。 Digit 1 of MCC...octet 1 bits 1 to 4. Digit 2 of MCC...octet 1 bits 5 to 8. Digit 3 of MCC...octet 2 bits 1 to 4. Digit 3 of MNC...octet 2 bits 5 to 8. Digit 2 of MNC...octet 3 bits 5 to 8. Digit 1 of MNC...octet 3 bits 1 to 4.	AT+COPS=1,2,"44F001" OK
AT+CPAS [M]	FOMA端末へ制御信号を送出できるかを表示します。	リザルト : +CPAS : n n=0 : FOMA端末に対し、制御信号の送受信が可能である。 n=1 : FOMA端末に対し、制御信号の送受信が不可能である。 n=2 : 不明(制御信号の送受信は保証されない) n=3 : FOMA端末に対し、制御信号の送受信が可能であり、かつ着信中である。 n=4 : FOMA端末に対し、制御信号の送受信が可能であり、かつ通信中である。	AT+CPAS +CPAS:0 OK
AT+CPIN=n,m [M][AT]	UIMに関するパスワード(PIN1/PIN2)の入力を行います。	UIMがPIN1/PIN2入力待ち状態の時 n : PIN1/PIN2 UIMがPIN1/PIN2ロック解除失敗によりPINロック解除コード入力待ち状態の時 n : PINロック解除コード m : 新しいPIN1/PIN2 AT+CPIN? : 現在のSIMiに関して要求されているコード入力の状態を表示します。 リザルト : +CPIN : <state> <state>=READY : コード入力要求なし <state>=SIM PIN : PIN1コード入力待ち <state>=SIM PIN2 : PIN2コード入力待ち <state>=SIM PUK : PIN1ロック解除失敗によりPINロック解除コード入力待ち <state>=SIM PUK2 : PIN2ロック解除失敗によりPINロック解除コード入力待ち	AT+CPIN="1234" OK AT+CPIN="12345678","1234" OK AT+CPIN? +CPIN:SIM PIN OK
AT+CR=n [M] [&F][&W]	回線接続時にCONNECTのリザルトコードを表示する前に、ベアラサービス種別を表示します。	n=0 : 表示しません。（初期値） n=1 : 表示します。 <serv> : パケット通信を意味する'GPRS'のみ表示します。 （回線種別により'SYNC'、'AV64K'を表示します。） AT+CR? : 現在の設定値を表示します。	AT+CR=1 OK ATD*99***1# +CR : GPRS CONNECT
AT+CRC=n [AT][M] [&F][&W]	着信時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを設定します。	n=0 : +CRINGを使用しません。（初期値） n=1 : +CRING.<type>を使用します。 AT+CRC?で現在の設定を表示します。 +CRINGの書式は次のとおりです。 +CRING : <type> PPPパケット到着信時 +CRING : GPRS "PPP" ...<APN>	AT+CRC=0 OK AT+CRC? +CRC : 0 OK

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CREG=n [AT][M] [&F][&W]	圏内・圏外情報の表示に関するリザルト表示の有無を設定します。	n=0： 通知なし。(初期値) n=1： 通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知します。 (問い合わせ) AT+CREG? +CREG: <n>,<stat> n： 設定値 stat： 0： 音声圏外 1： 音声圏内 4： 不明 5： 音声圏内 (ローミング中)	AT+CREG=1 OK (通知ありに設定) AT+CREG? +CREG: 1,0 OK (圏外を意味している) (圏外から圏内に移動した場合) +CREG: 1
AT+CUSD=n,"<str>",0 [M] [&F][&W]	ネットワークに対して、付加サービスの設定や問い合わせを行います。	n=0： 中間リザルトを表示しません。(初期値) n=1： 中間リザルトを表示します。 <str>： サービスコード 中間リザルト: m,"<str>",0 m=0： 設定完了を示します。 m=1： ネットワークからさらに情報が要求されていることを示します。	AT+CUSD=0, OK AT+CUSD=1,"*148*1*0 000#",0 +CUSD:0,"148*7#",0 OK
AT+FCLASS=n [M] [&F][&W]	FOMA端末に通信種別を設定します。	n=0： データ通信 (初期値)	AT+FCLASS=0 OK
AT+GCAP [M]	FOMA端末がサポートするATコマンドのリストを表示します。	リザルト +GCAP: n n+=CGSM： GSMコマンドの一部または全部をサポートします。 n+=FCLASS: +FCLASSコマンドをサポートします。 n+=W： +Wコマンドをサポートします。	AT+GCAP +GCAP: +CGSM, +FCLASS, +W OK
AT+GMI [M]	メーカー名 (Panasonic) を表示します。	—	AT+GMI Panasonic OK
AT+GMM [M]	FOMA端末の製品名 (FOMA P-01H) を表示します。	—	AT+GMM FOMA P01H OK
AT+GMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。	—	AT+GMR Ver1.00 OK
AT+IFC=n,m [M] [&F][&W]	フロー制御方式の選択を行います。	n： DCE by DTE m： DTE by DCE 0： フロー制御なし 1： XON/XOFFフロー制御 2： RS/CS(RTS/CTS)フロー制御 初期値はn,m=2,2 AT+IFC?で設定値を問い合わせます。	AT+IFC=2,2 OK
AT+WS46=n [M]	FOMA端末の無線通信網を選択します。	FOMA端末では本コマンドによる無線通信網の選択は行わないため、モード設定に対してはERRORを応答します。 n=12： GSM/GPRS n=22： W-CDMA (Wideband CDMA) n=25： 自動選択	AT+WS46=22 ERROR AT+WS46? 25 OK
ATA [AT][M]	FOMA端末が着信したモードによって着信処理を行います。	—	RING ATA CONNECT
ATD [AT][M]	FOMA端末に対してパラメータ、ダイヤルパラメータの指定に従って自動発信処理を行います。	<cid>： 1～10。+CGDCONTで設定したAPNを表します。cid1に発信する場合、「ATD *99* * * #」と省略できます。	ATD *99* * * 1# CONNECT
ATEn [AT][M] [&F][&W]	コマンドモードにおいてDTEに対するエコーバックの有無を指定します。	n=0： エコーバックなし n=1： エコーバックあり (初期値)	ATE1 OK
ATHn [AT][M]	FOMA端末に対してオンフック動作を行います。	n=0： 回線を切断します。(省略可)	(パケット通信中) +++ ATH NO CARRIER

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATIn	認識コードを表示します。	n=0: 「NTT DoCoMo」を表示します。 n=1: 製品名を表示します。(+GMMと同じ) n=2: FOMA端末のバージョンを表示します。 (+GMRと同じ) n=3: ACMP情報要素を表示します。 n=4: FOMA端末で通信可能な機能の詳細を 表示します。	ATI0 NTT DoCoMo OK ATI1 FOMA P01H OK
[AT][M] ATOn	通信中にオンラインコマンド モードから、オンライン データモードに戻ります。	n=0: オンラインコマンドモードからオンラ インデータモードに戻します。(省略可)	ATO CONNECT
ATQn	DTEへのリザルトコードを 表示するかどうか設定しま す。	n=0: リザルトコードを表示します。(初期値) n=1: リザルトコードを表示しません。	ATQ0 OK ATQ1 (このとき、OKは応答され ません。)
[M] [&F][&W] ATS0=n	FOMA端末が自動着信する までの呼び出し回数を設定 します。	n=0: 自動着信しません。(初期値) n=1~255: 指定したリング回数で自動着信し ます。 (n≥10のとき、パケット (PPP) 着信の場合 は、自動着信せず約30秒で切断されます。) ATS0?で設定値を問い合わせます。	ATS0=0 OK ATS0? 000 OK
[M] [&F][&W] ATS2=n	エスケープキャラクタの設 定を行います。	n=43: 初期値 n=127: エスケープ処理は無効。 ATS2?で設定値を問い合わせます。	ATS2=43 OK ATS2? 043 OK
[M] [&F] ATS3=n	キャリッジリターン (CR) キャラクタの設定を行いま す。	n=13: 初期値 (n=13のみ指定可) ATS3?で設定値を問い合わせます。	ATS3=13 OK ATS3? 013 OK
[M] [&F] ATS4=n	ラインフィード (LF) キャ ラクタの設定を行います。	n=10: 初期値 (n=10のみ指定可) ATS4?で設定値を問い合わせます。	ATS4=10 OK ATS4? 010 OK
[M] [&F] ATS5=n	バックスペース (BS) キャラクタの設定を行いま す。	n=8: 初期値 (n=8のみ指定可) ATS5?で設定値を問い合わせます。	ATS5=8 OK ATS5? 008 OK
[M][&F] ATS30=n	不活動タイマ (分) を設定 します。ユーザーデータの 送受信がないと、設定した 時間以上で切断します。本 コマンドの設定は、64K データ通信に限ります。設 定が0の場合、不活動タイ マOFFとなります。	n=0~255 (初期値は0) (単位: 分)	ATS30=0 OK
[M][&F] ATS103=n	着サブアドレスの区切りの キャラクタを選択します。	n=0: * (アスタリスク) n=1: / (スラッシュ) (初期値) n=2: ¥またはバックスラッシュ	ATS103=0 OK
[M][&F] ATS104=n	発サブアドレスの区切りの キャラクタを選択します。	n=0: # (シャープ) n=1: % (パーセント) (初期値) n=2: & (アンド)	ATS104=0 OK
[M] [&F][&W] ATVn	すべてのリザルトコードを 数字表記または英文字表記 に設定します。	n=0: リザルトコードを数値で返送します。 n=1: リザルトコードを文字で返送します。 (初期値)	ATV1 OK
[M] [&F][&W] ATXn	接続時のCONNECT表示に 速度表示の有無を設定しま す。 また、ビジートーン、ダイ ヤルトーンの検出を行いま す。	n=0: ダイヤルトーン検出なし、ビジートー ン検出なし、速度表示なし。 n=1: ダイヤルトーン検出なし、ビジートー ン検出なし、速度表示あり。 n=2: ダイヤルトーン検出あり、ビジートー ン検出なし、速度表示あり。 n=3: ダイヤルトーン検出なし、ビジートー ン検出あり、速度表示あり。 n=4: ダイヤルトーン検出あり、ビジートー ン検出あり、速度表示あり。(初期値)	ATX1 OK

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATZn	設定を不揮発メモリの内容にリセットします。通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	n=0のみ指定可能です。(省略可)	(オンライン時) ATZ NO CARRIER (オフライン時) ATZ OK
[M] AT¥Sn	現在設定されている各コマンド、レジスタの内容を表示します。	n=0のみ指定可能です。(省略可)	AT¥S E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 &S0 &E1 ¥V0 S000=000 S002=043 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 S030=000 S103=000 S104=000 OK
[M] AT¥Vn	接続時の応答コード仕様の選択を行います。	n=0： 拡張リザルトコードを使用しません。 (初期値) n=1： 拡張リザルトコードを使用します。	AT¥V0 OK

※以下のコマンドは、エラーにはなりませんがコマンドの動作はしません。

- ・ AT (ATのみの入力)
- ・ ATP (パルス設定)
- ・ ATS8 (カンマダイヤルによるポーズ時間設定)
- ・ ATT (トーン設定)
- ・ ATS6 (ダイヤルするまでのポーズ時間設定)
- ・ ATS10 (自動切断遅延時間設定)

ATコマンドの補足説明

- コマンド名： +CGDCONT=[パラメータ] [M]
 - ・ 概要
パケット発信時の接続先 (APN) の設定を行います。
 - ・ 書式
+CGDCONT=[<cid>[,"<PDP_type>"]["<APN>"]]
 - ・ パラメータ説明
パケット発信時の接続先 (APN) を設定します。設定例は以下のコマンド実行例を参照してください。
<cid>* : 1~10
<PDP_type> : PPPまたはIP
<APN>* : 任意
※<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先 (APN) を管理する番号です。
FOMA端末では1~10が登録できます。お買い上げ時、<cid>=1にはmopera.net (PPP)が、<cid>=3にはmopera.net (IP)が、<cid>=4にはmpr.ex-pkt.net (PPP)が初期値として登録されていますので、cidは2または5~10に設定します。
<APN>は、接続先を示す接続先ごとの任意の文字列です。
 - ・ パラメータを省略した場合の動作
+CGDCONT= : すべての<cid>に対し初期値を設定します
+CGDCONT=<cid> : 指定された<cid>を初期値に設定します。
+CGDCONT=? : 設定可能な値のリスト値を表示します。
+CGDCONT? : 現在の設定を表示します。
 - ・ コマンド実行例
AT+CGDCONT=5,"PPP","abc"
OK
※abcというAPN名を登録する場合のコマンド (cidが5の場合)
※本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

●コマンド名： +CGEQMIN=[パラメータ] [M]

・概要

パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。
設定パターンは、以下のコマンド実行例に記載されている4パターンが設定できます。

・書式

+CGEQMIN=[<cid>[.,<Maximum bitrate UL>,<Maximum bitrate DL>]]

・パラメータ説明

<cid>* : 1~10

<Maximum bitrate UL>* : なし（初期値）、2048

<Maximum bitrate DL>* : なし（初期値）、7232

*<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。

<Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>は、FOMA端末と基地局間の上りおよび下り最大通信速度[kbps]の設定です。なし（初期値）の場合はすべての速度を許容しますが、2048および7232を設定した場合はこれらの値未満での速度の接続は許容しないため、パケット通信がつかない場合がありますのでご注意ください。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGEQMIN= : すべての<cid>に対し初期値を設定します。

+CGEQMIN=<cid> : 指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例

以下の4パターンのみ設定できます。（(1)の設定が各cidに初期値として設定されています。）

(1)上り/下りすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが5の場合）

AT+CGEQMIN=5

OK

(2)上り2048kbps/下り7232kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが6の場合）

AT+CGEQMIN=6,,2048,7232

OK

(3)上り2048kbps/下りはすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが7の場合）

AT+CGEQMIN=7,,2048

OK

(4)上りすべての速度/下り7232kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが8の場合）

AT+CGEQMIN=8,,,7232

OK

*本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

●コマンド名： +CGEQREQ=[パラメータ] [M]

・概要

パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。
設定は以下のコマンド実行例に記載されている1パターンのみで初期値としても設定されています。

・書式

+CGEQREQ=[<cid>]

・パラメータ説明

<cid>* : 1~10

*<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGEQREQ= : すべての<cid>に対し初期値を設定します。

+CGEQREQ=<cid> : 指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例

以下の1パターンのみ設定できます。

（各cidに初期値として設定されています。）

(1)NWが設定する任意の速度で接続を要求する場合のコマンド（cidが5の場合）

AT+CGEQREQ=5

OK

*本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

●コマンド名： +CLIP

・概要

*AT+CLIP=1"の場合のリザルトが下記の書式で表示されます。

+CLIP : <number><type>

・コマンド実行例

AT+CLIP=1

OK

RING

+CLIP : "09012345678",49

切断理由一覧

■64Kデータ通信

値	理由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手が呼び出し中のため通信ができません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない伝達能力を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信したか、もしくは着信を受けました。

■バケット通信

値	理由
27	APNが存在しないか、もしくは正しくありません。
30	ネットワークより切断されました。
33	要求したサービスオプションは申し込まれていません。
36	正常に切断されました。

リザルトコード

■リザルトコード一覧

数字表示	文字表示	意味
0	OK	正常に実行しました
1	CONNECT	相手と接続しました
2	RING	着信が来ています
3	NO CARRIER	回線が切断されました
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません
7	BUSY	話中音の検出中です
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウト
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です
101	DELAYED	リダイヤル規制時間内

■拡張リザルトコード

&E0のとき

FOMA端末－基地局間の接続速度を表示します。

数字表示	文字表示	接続速度
121	CONNECT 32000	32000bps
122	CONNECT 64000	64000bps
125	CONNECT 384000	384000bps
133	CONNECT 3648000	3648000bps
135	CONNECT 7232000	7232000bps

数字表示	文字表示	接続速度
5	CONNECT 1200	1200bps
10	CONNECT 2400	2400bps
11	CONNECT 4800	4800bps
13	CONNECT 7200	7200bps
12	CONNECT 9600	9600bps
15	CONNECT 14400	14400bps
16	CONNECT 19200	19200bps
17	CONNECT 38400	38400bps
18	CONNECT 57600	57600bps
19	CONNECT 115200	115200bps
20	CONNECT 230400	230400bps
21	CONNECT 460800	460800bps

お知らせ

- ATVnコマンド(P.32参照)がn=1に設定されている場合には文字表示形式(初期値)、n=0に設定されている場合には数字表示形式でリザルトコードが表示されます。
- 従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA端末－PC間はFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)やBluetooth通信で接続されているため、実際の接続速度と異なります。
- 「RESTRICTION」(数字表示: 100)が表示された場合には、通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。

通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意味
1	PPPOverUD	64Kデータ通信で接続
3	AV64K	テレビ電話64Kで接続
5	PACKET	パケット通信で接続

リザルトコード表示例

- ATX0が設定されている場合
AT¥Vコマンド (P.33参照) の設定に関わらず、接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。
文字表示例: ATD*99***1#
 CONNECT
数字表示例: ATD*99***1#
 1
- ATX1が設定されている場合※1
・ATX1、AT¥V0が設定されている場合 (初期値)
接続完了のときに、CONNECT<FOMA端末－PC間の速度>の書式で表示します。
文字表示例: ATD*99***1#
 CONNECT 460800
数字表示例: ATD*99***1#
 1 21
・ATX1、AT¥V1が設定されている場合※1
接続完了のときに、以下の書式で表示します。
CONNECT<FOMA端末－PC間の速度>PACKET<接続先APN>/<上り方向 (FOMA端末→無線基地局間) の最高速度>/<下り方向 (FOMA端末←無線基地局間) の最高速度>※2
文字表示例: ATD*99***1#
 CONNECT 460800 PACKET
 mopera.net /2048/7232
数字表示例: ATD*99***1#
 1215
- ※1 ATX1、AT¥V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しく行えない場合があります。
AT¥V0だけのご利用をおすすめします。
- ※2 無線基地局から通知された最高速度を表示するものであり、実際の速度を保証するものではありません。

区点コード一覧

最初に「区点1～3桁目」の数字を入力してから、次に「区点4桁目」の数字を入力します。

区点 1~3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	区点 1~3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	区点 1~3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	区点 1~3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
010	イ	ヤ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	130	0	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	209	旗	既	期	棋	棋	4	5	6	7	8	9	区点 1~3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
011	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	131	1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	210	紀	微	規	記	氣	汽	識	季	稀	010	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
012	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	132	2	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	211	兒	龜	規	義	貴	起	軌	擬	柳	011	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
013	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	133	3	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	212	鬼	龜	規	義	貴	起	軌	擬	柳	012	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
014	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	134	4	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	213	模	規	義	貴	起	軌	擬	柳	013	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
015	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	135	5	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	①	②	③	214	規	義	貴	起	軌	擬	柳	014	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
016	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	136	6	⑯	⑰	⑱	①	②	③	④	⑤	⑥	215	紀	微	規	義	貴	起	軌	擬	柳	015	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
017	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	137	7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	216	兒	龜	規	義	貴	起	軌	擬	柳	016	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
018	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	138	8	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	217	模	規	義	貴	起	軌	擬	柳	017	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
019	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	139	9	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	218	規	義	貴	起	軌	擬	柳	018	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
020	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	160	0	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	219	紀	微	規	義	貴	起	軌	擬	柳	019	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
021	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	161	1	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	①	②	③	220	兒	龜	規	義	貴	起	軌	擬	柳	020	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
022	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	162	2	⑯	⑰	⑱	①	②	③	④	⑤	⑥	221	模	規	義	貴	起	軌	擬	柳	021	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
023	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	163	3	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	222	規																					

3

